

加東市
DVに関する市民意識調査
調査結果報告書

令和4年3月

加 東 市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果	2
1	市民	2
(1)	回答者属性	2
(2)	DV（ドメスティック・バイオレンス。配偶者等からの暴力）について	6
(3)	自由回答について	61
2	高校生	62
(1)	回答者属性	62
(2)	デートDV（交際相手からの暴力）について	64
(3)	自由回答について	86
III	調査結果のまとめ	87
1	市民	87
(1)	DVの認知度について	87
(2)	DVの内容の認識について	88
(3)	DVの経験について	88
(4)	DVを防止するために必要なことについて	89
2	高校生	90
(1)	DVの認知度について	90
(2)	DVの経験について	90
(3)	DVを防止するために必要なことについて	91

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「第3次加東市配偶者等暴力（DV）対策基本計画」を策定するにあたり、市民のDVに関する実態、意識、意向を把握し、次期計画策定の基礎資料とすることを目的として実施したものです。

2 調査対象

市民：加東市在住の18歳以上の方を無作為抽出

高校生：加東市内の高等学校に在籍する生徒

3 調査期間

令和3年9月1日から令和3年9月16日（WEB調査は9月17日まで）


4 調査方法

郵送による配布・回収およびWEBによる回答

5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
市民	4,000通	1,557通	38.9%
高校生	700通	559通	79.9%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・本文中の「国調査」は、内閣府「令和2年度男女間における暴力に関する調査」を表します。

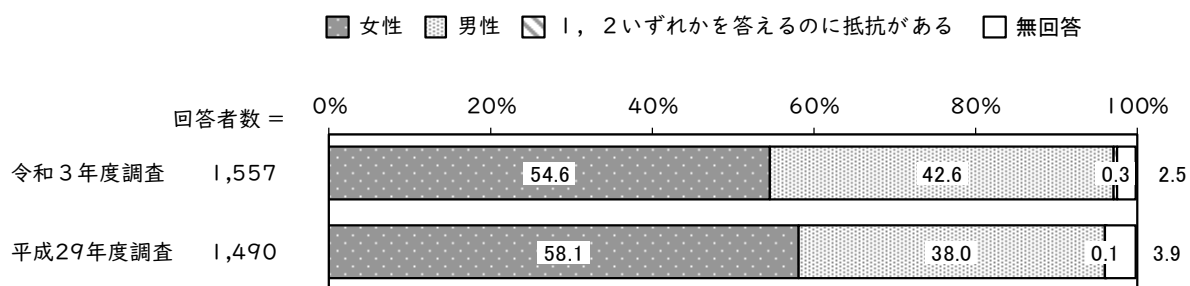
Ⅱ 調査結果

Ⅰ 市民

(1) 回答者属性

1 あなたの性別

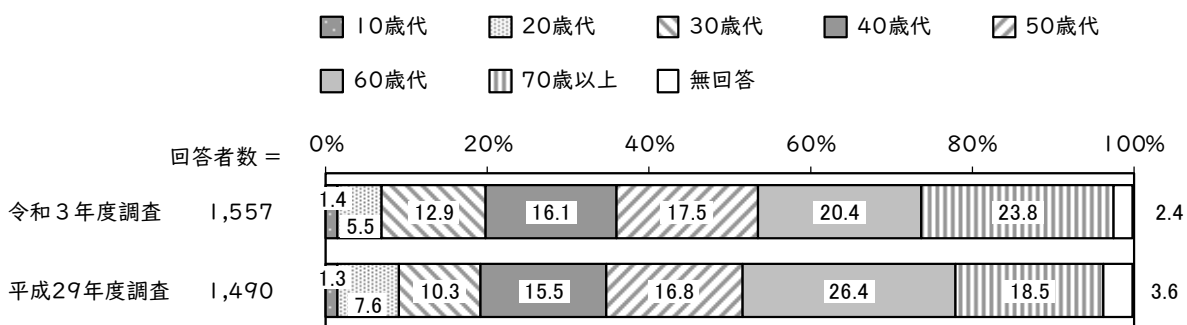
「女性」の割合が54.6%、「男性」の割合が42.6%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



2 あなたの年齢

「70歳以上」の割合が23.8%と最も高く、次いで「60歳代」の割合が20.4%、「50歳代」の割合が17.5%となっています。

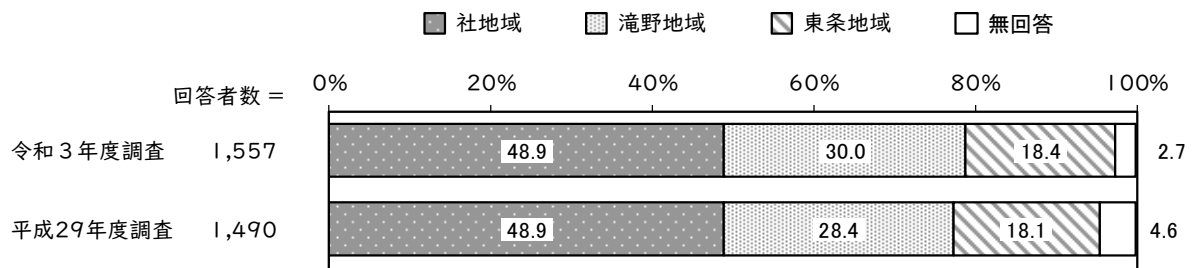
平成29年度調査と比較すると、「60歳代」の割合が減少し、「70歳以上」の割合が増加しています。



3 あなたの住んでいる地域

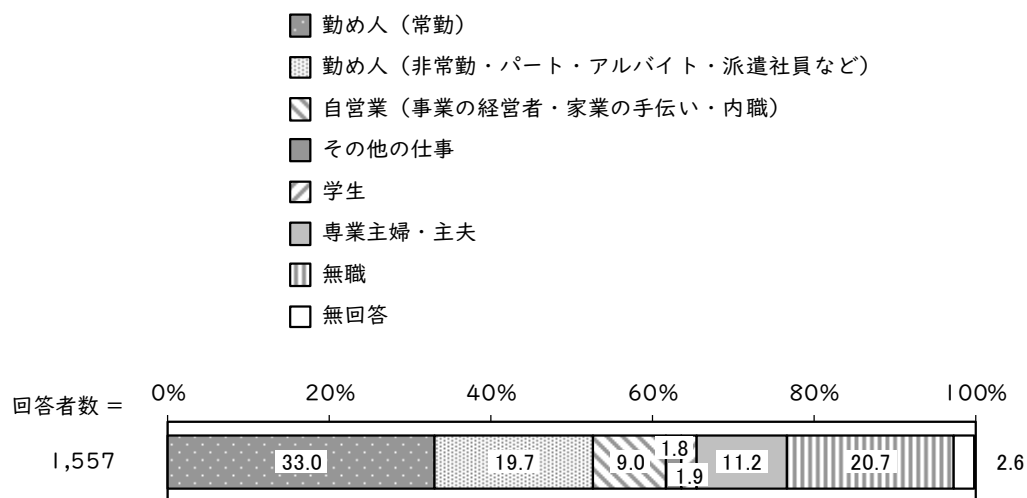
「社地域」の割合の48.9%に次いで、「滝野地域」30.0%、「東条地域」18.4%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

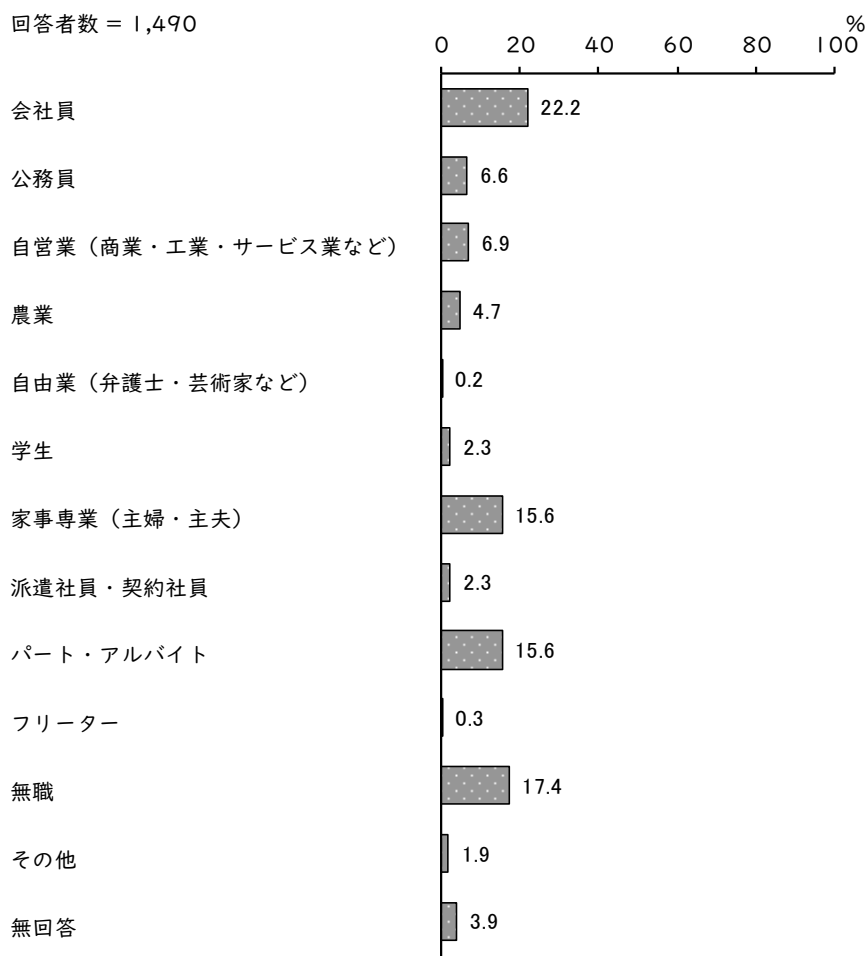


4 あなたの職業

「勤め人（常勤）」の割合が33.0%と最も高く、次いで「無職」の割合が20.7%、「勤め人（非常勤・パート・アルバイト・派遣社員など）」の割合が19.7%となっています。

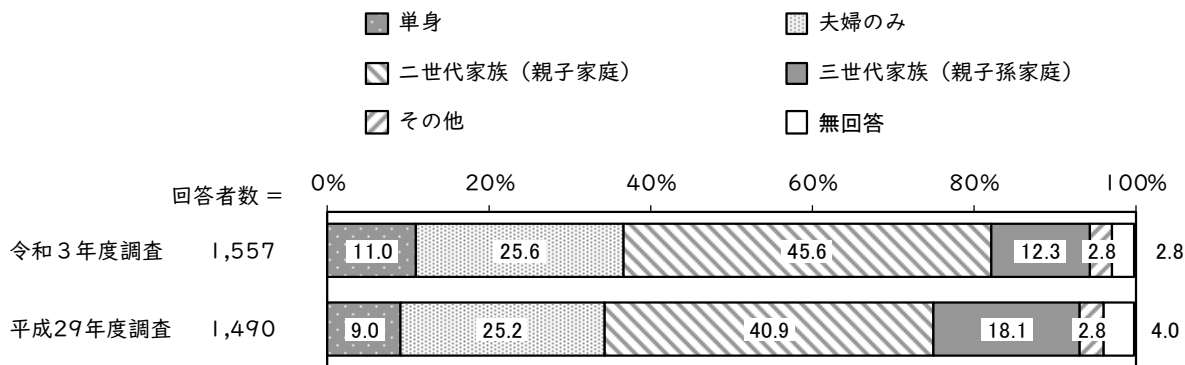


【平成29年度調査（参考）】



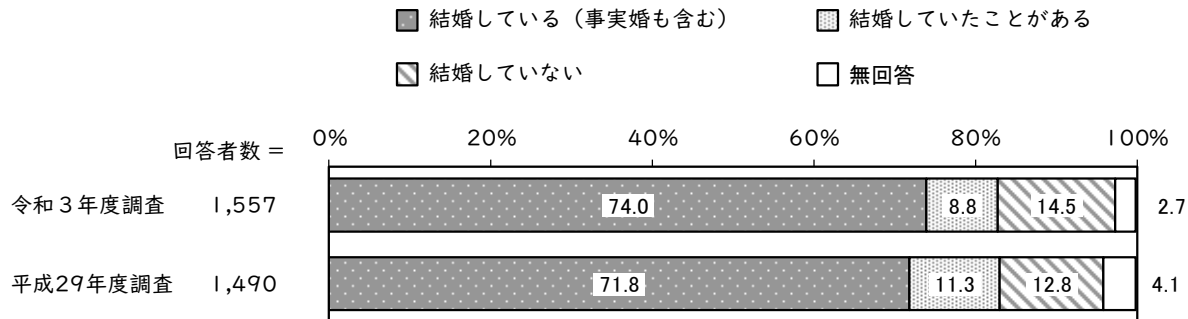
5 あなたの家族構成

「二世世代家族（親子家庭）」の割合が45.6%と最も高く、次いで「夫婦のみ」の割合が25.6%、「三世世代家族（親子孫家庭）」の割合が12.3%となっています。
平成29年度調査と比較すると、「三世世代家族（親子孫家庭）」の割合が減少しています。



6 あなたは結婚されていますか

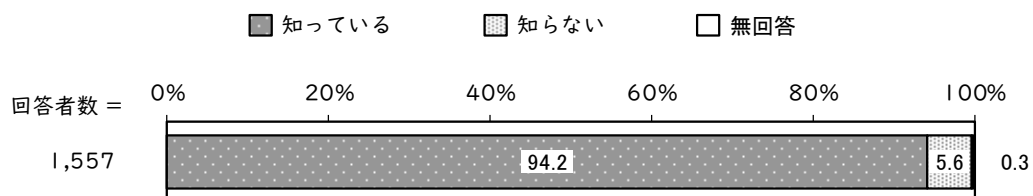
「結婚している（事実婚も含む）」の割合の74.0%に次いで、「結婚していない」の割合が14.5%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



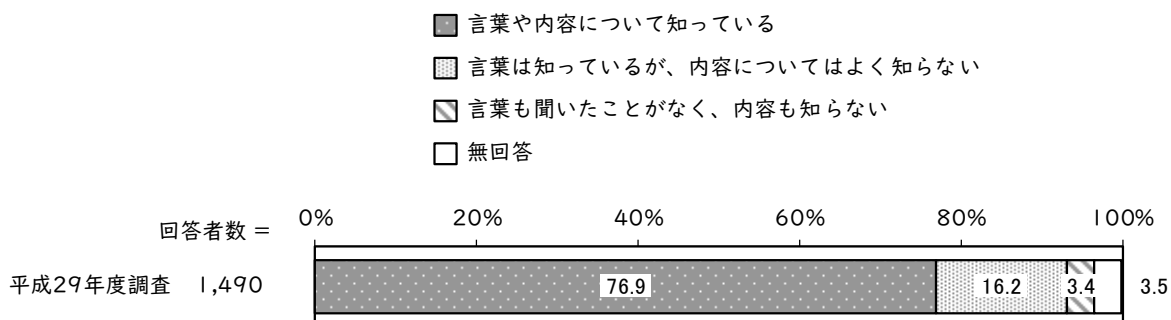
(2) DV (ドメスティック・バイオレンス。配偶者等からの暴力) について

1 あなたは、「ドメスティック・バイオレンス (配偶者等からの暴力。以下「DV」という。)」という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

「知っている」の割合が94.2%、「知らない」の割合が5.6%となっています。

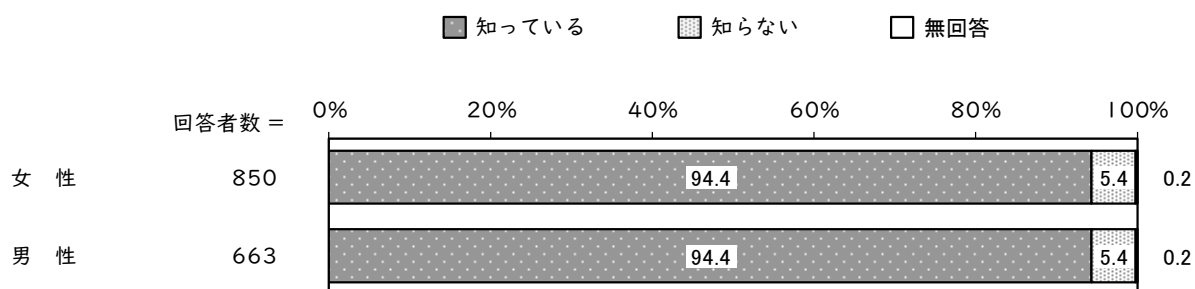


【平成29年度調査 (参考)】



【性別】

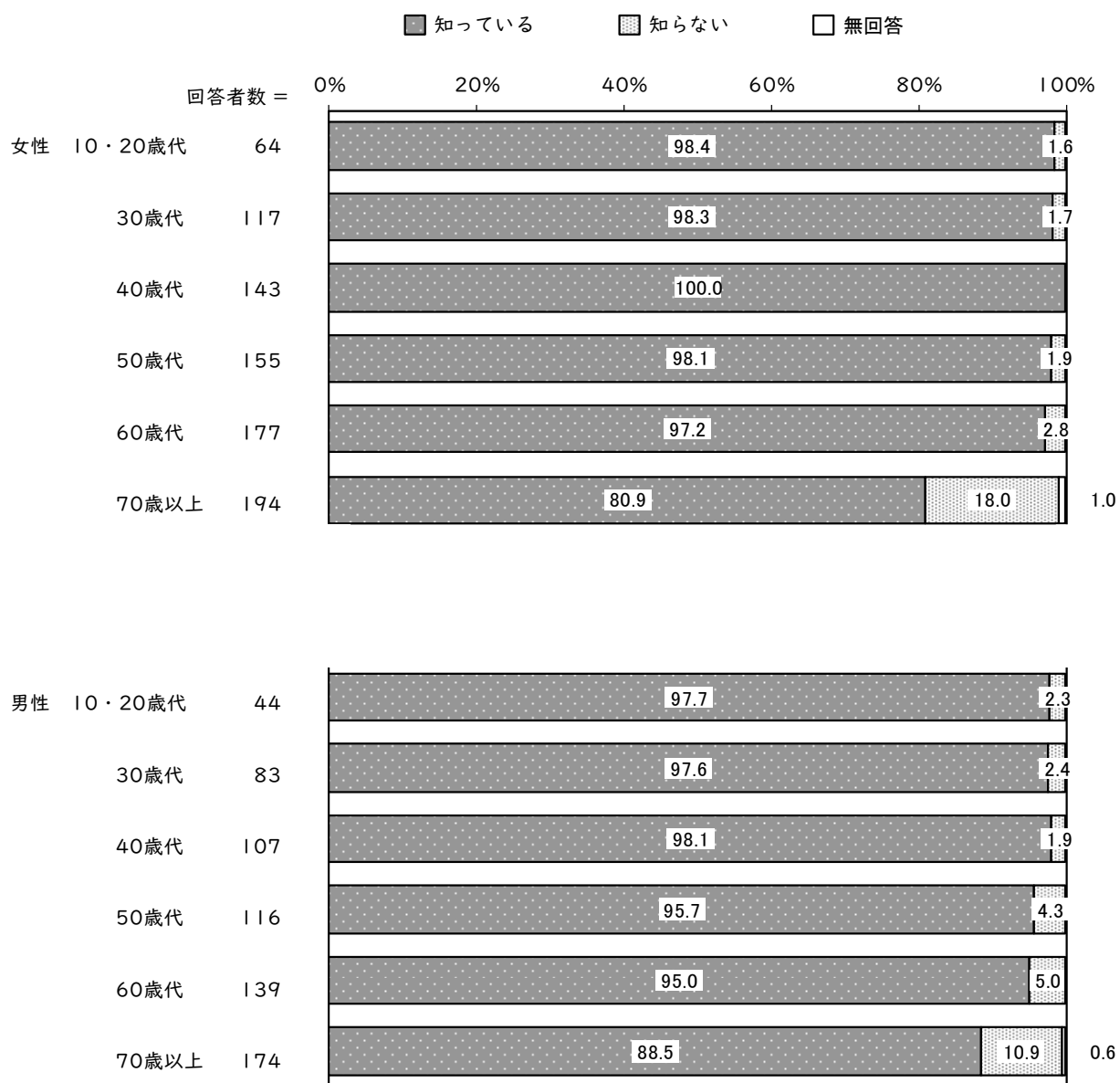
性別でみると、大きな差異はみられません。



※性別による集計について、「1, 2いずれかを答えるのに抵抗がある」と回答した人については、人数が少ないため割愛しています。(以下同様)

【性・年齢別】

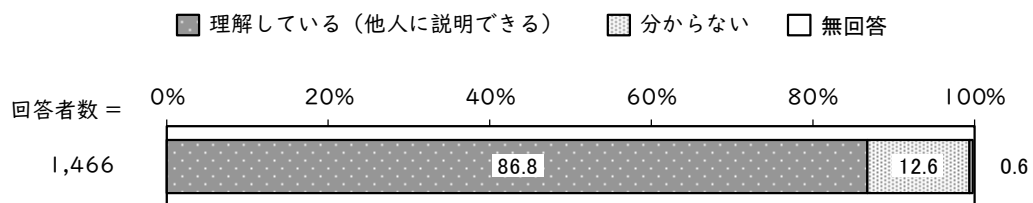
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の70歳以上で「知らない」の割合が高くなっています。



2 1で「知っている」と答えた方にお聞きします。

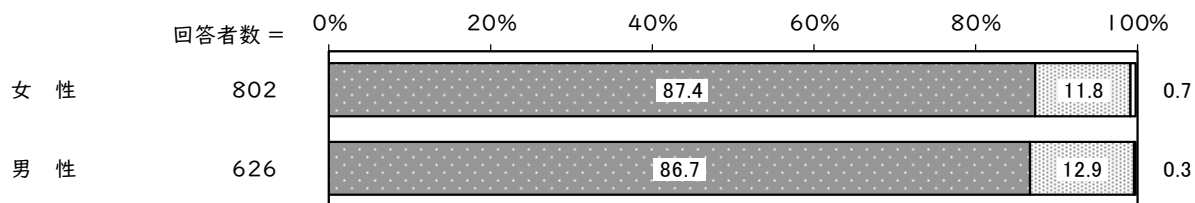
あなたは、「DV」の内容について理解していますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

「理解している（他人に説明できる）」の割合が86.8%、「分からない」の割合が12.6%となっています。



【性別】

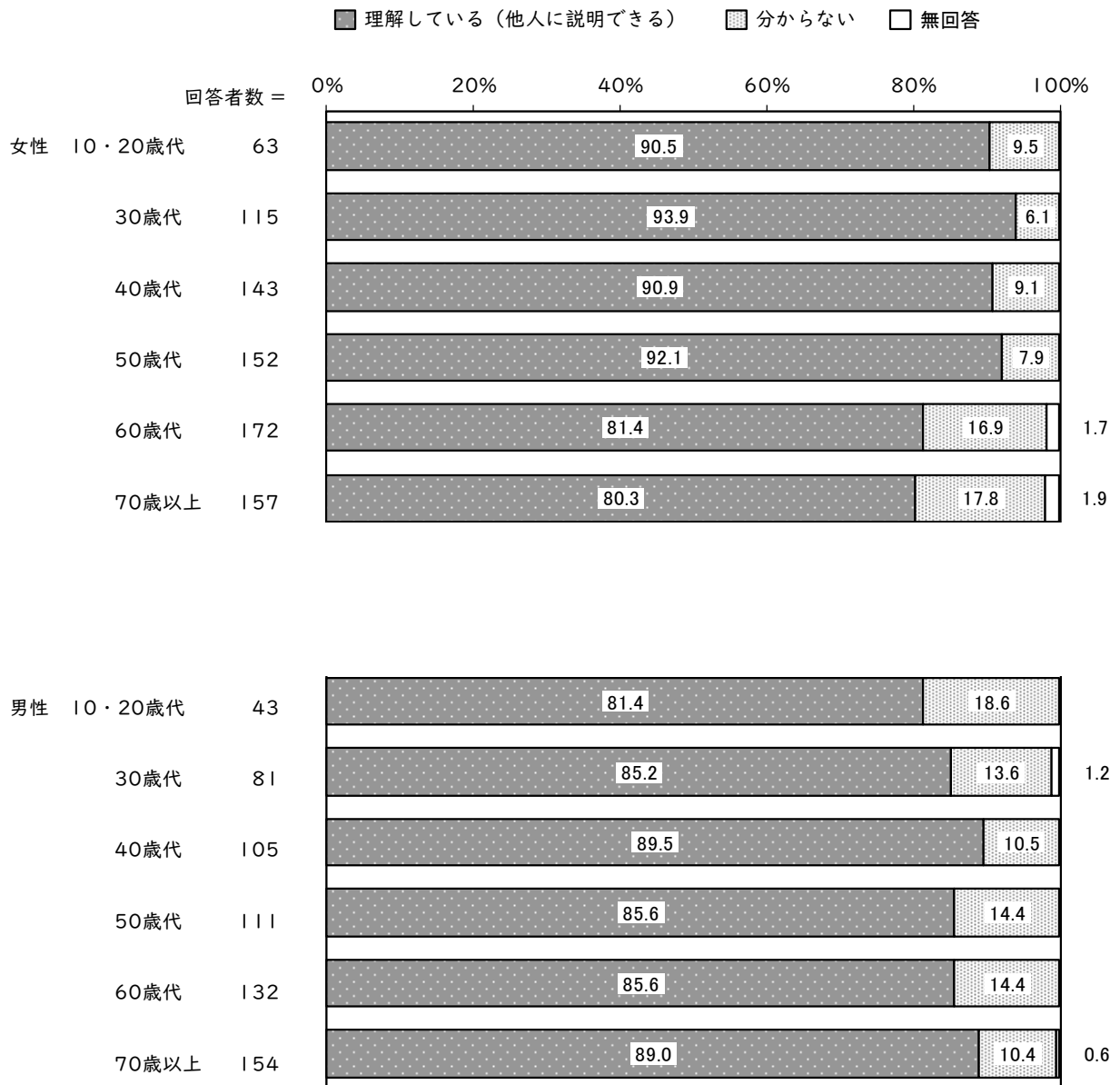
性別で見ると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

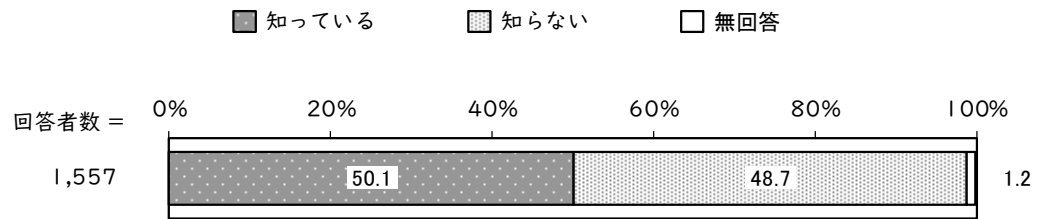
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の10・20歳代から50歳代、男性の40歳代で「理解している（他人に説明できる）」の割合が高くなっています。

一方、女性の70歳以上、男性の10・20歳代で「分からない」の割合が高くなっています。

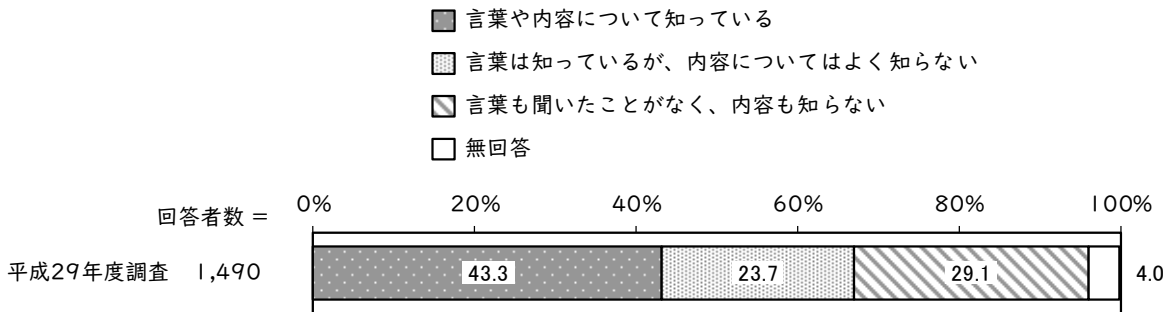


3 あなたは、「デートDV（婚姻関係のない恋人などからの暴力）」という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

「知っている」の割合が50.1%、「知らない」の割合が48.7%となっています。

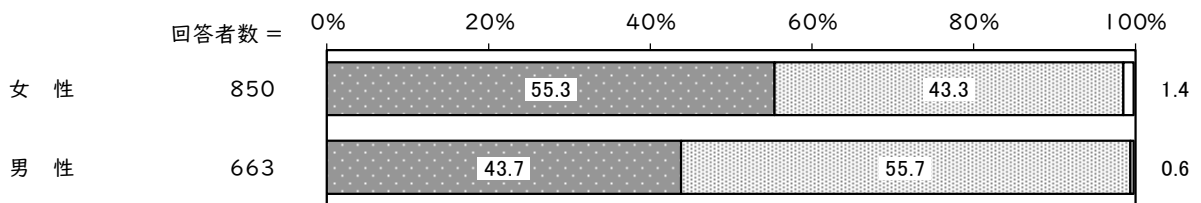


【平成29年度調査（参考）】



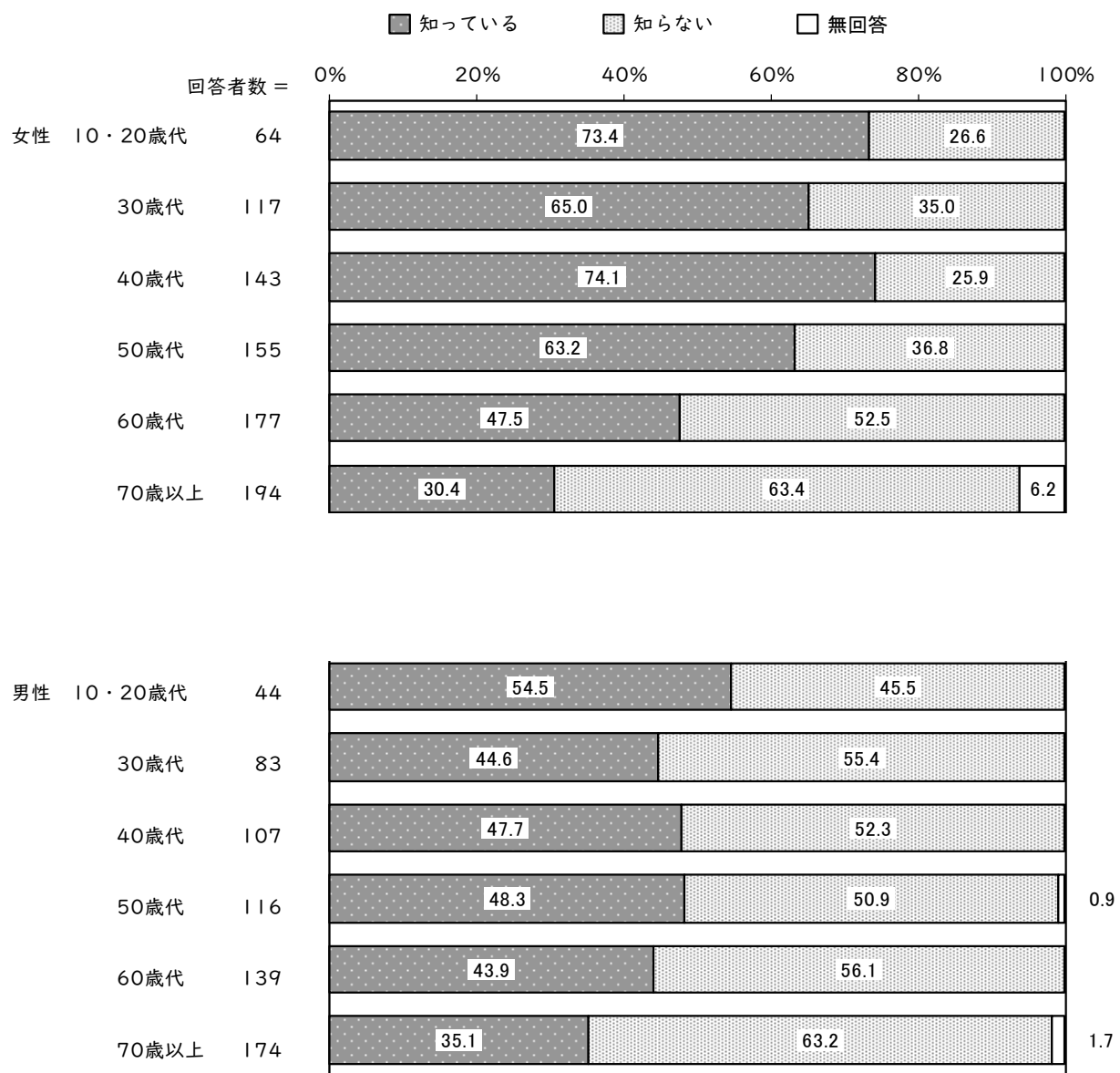
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「知っている」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

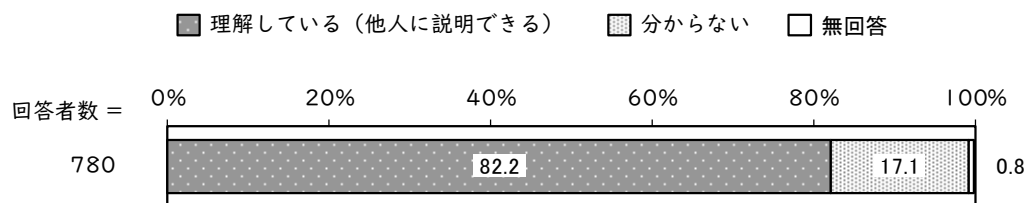
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の10・20歳代、40歳代で「知っている」の割合が高くなっています。また、男女とも70歳以上で「知らない」の割合が高くなっています。



4 3で「知っている」と答えた方にお聞きします。

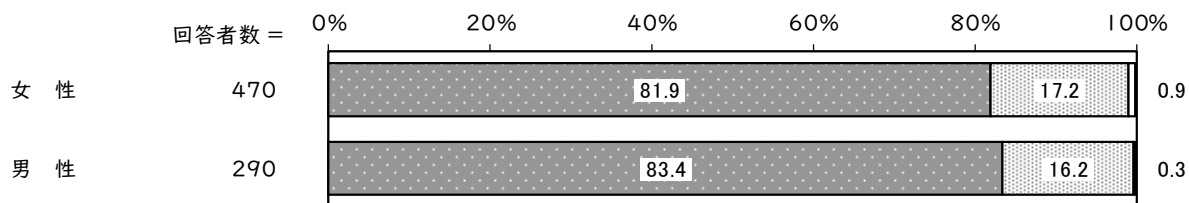
あなたは、「デートDV（婚姻関係のない恋人などからの暴力）」の内容について理解していますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

「理解している（他人に説明できる）」の割合が82.2%、「分からない」の割合が17.1%となっています。



【性別】

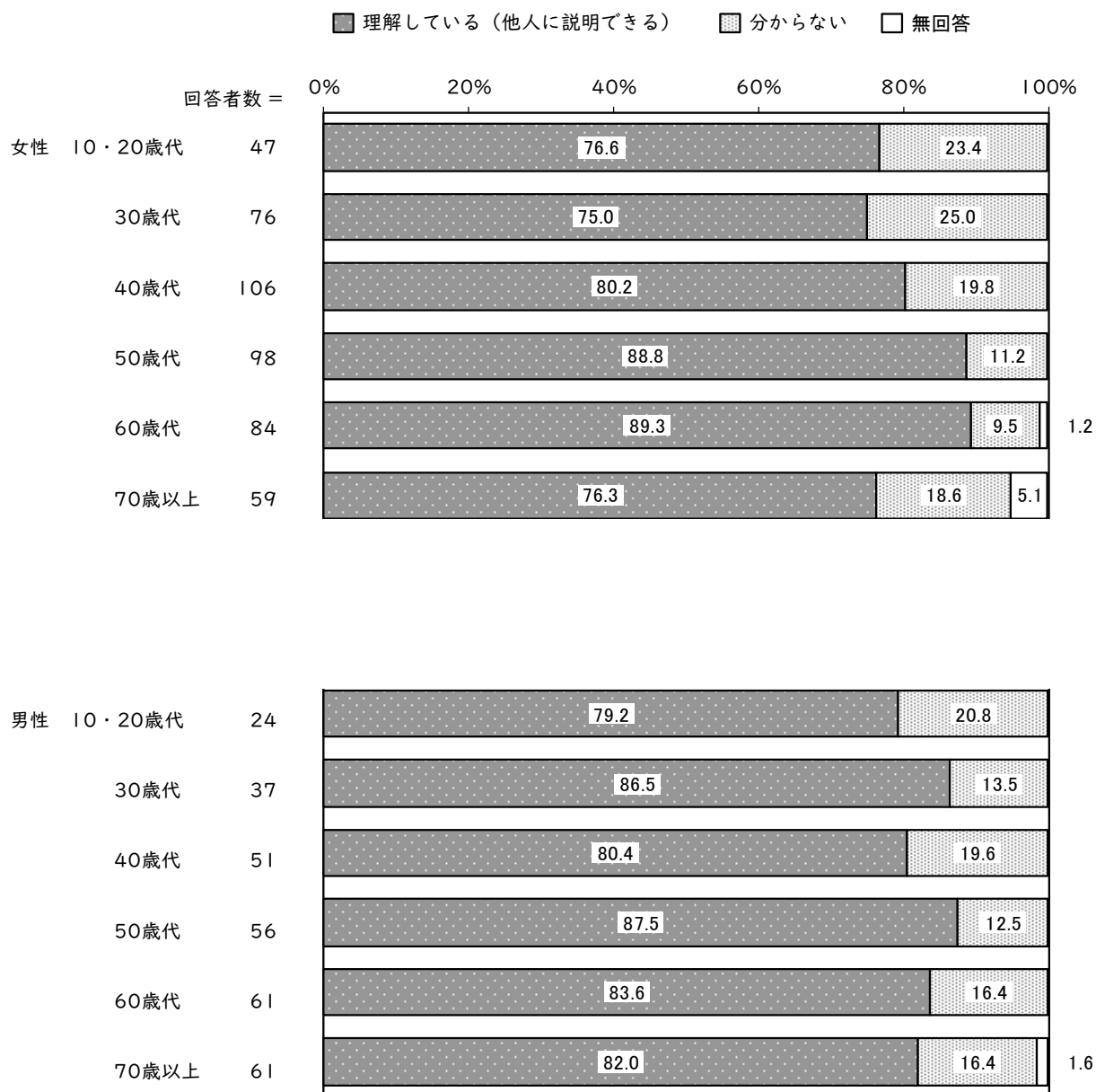
性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

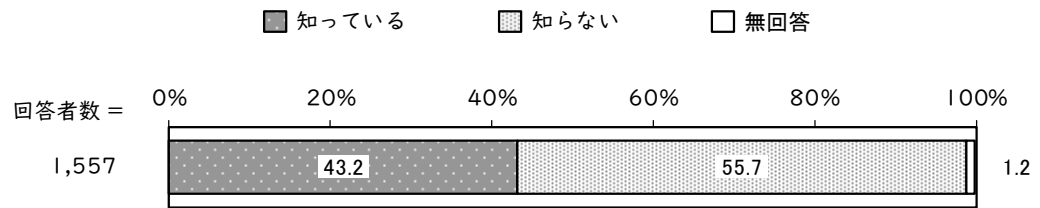
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の50歳代、60歳代、男性の50歳代で「理解している（他人に説明できる）」の割合が高くなっています。

一方、女性の10・20歳代、30歳代で「分からない」の割合が高くなっています。

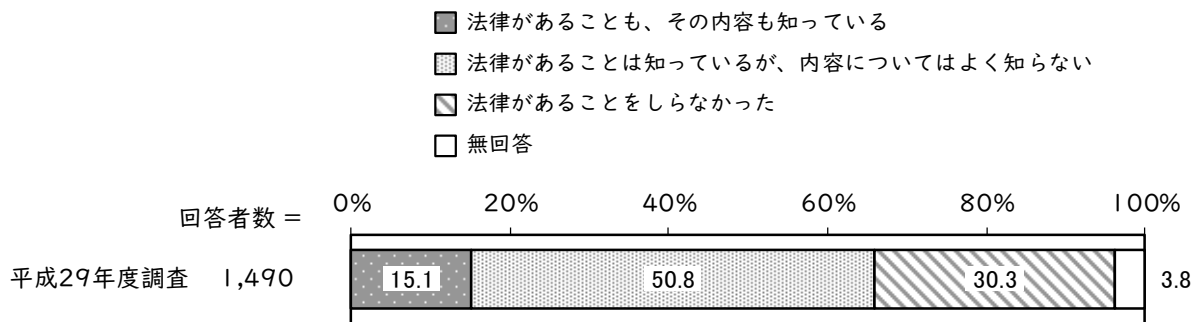


5 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

「知っている」の割合が43.2%、「知らない」の割合が55.7%となっています。

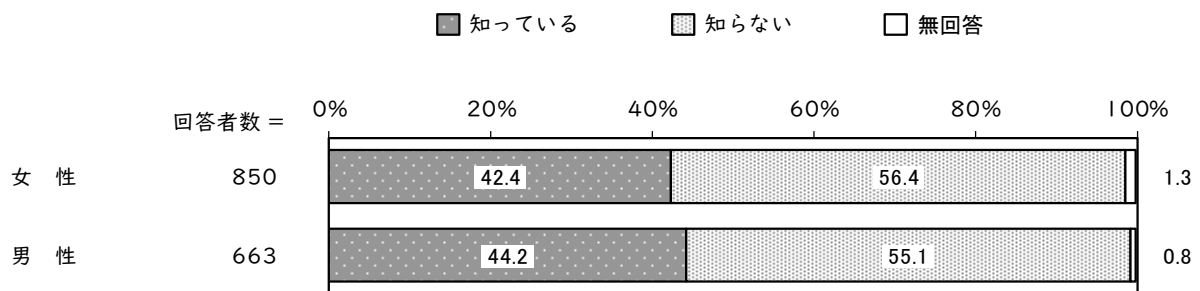


【平成29年度調査（参考）】



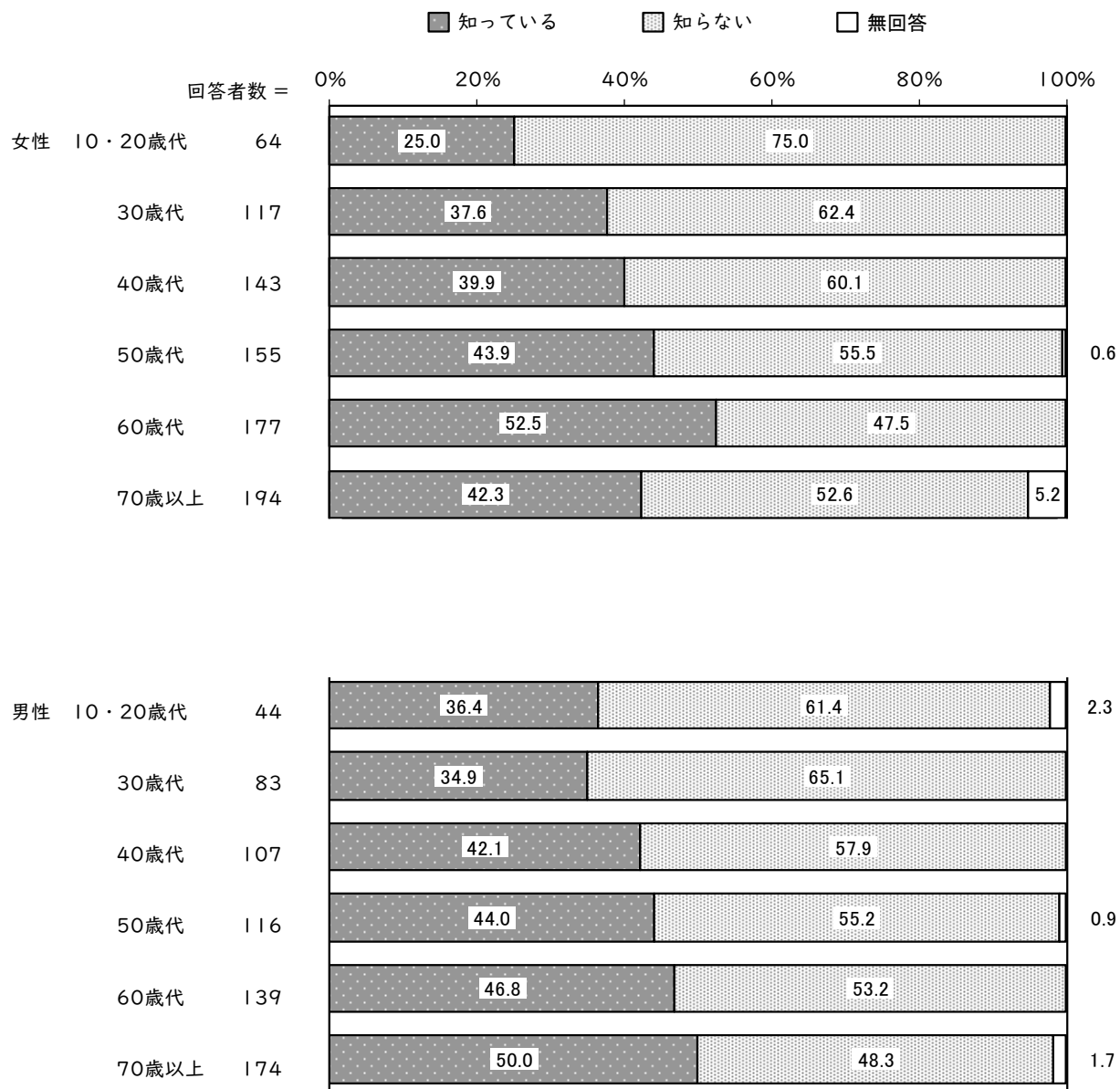
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

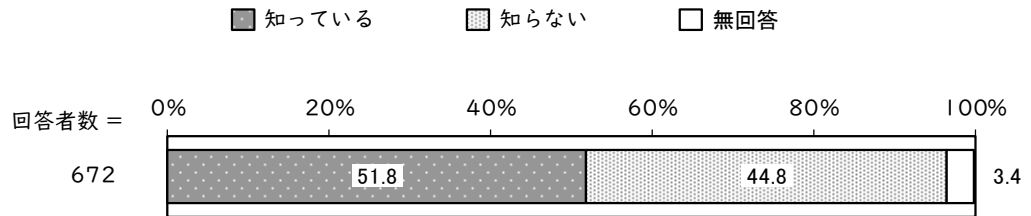
性・年齢別で見ると、男女とも年齢が高くなるにつれ「知っている」の割合が高くなる傾向がみられます。



6 5で「知っている」と答えた方にお聞きします。

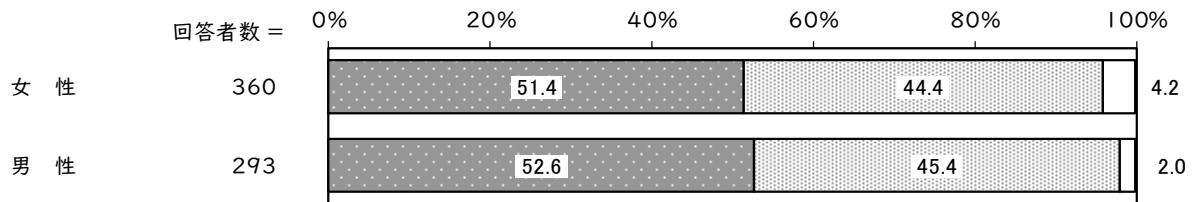
あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」の内容について知っていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

「知っている」の割合が51.8%、「知らない」の割合が44.8%となっています。



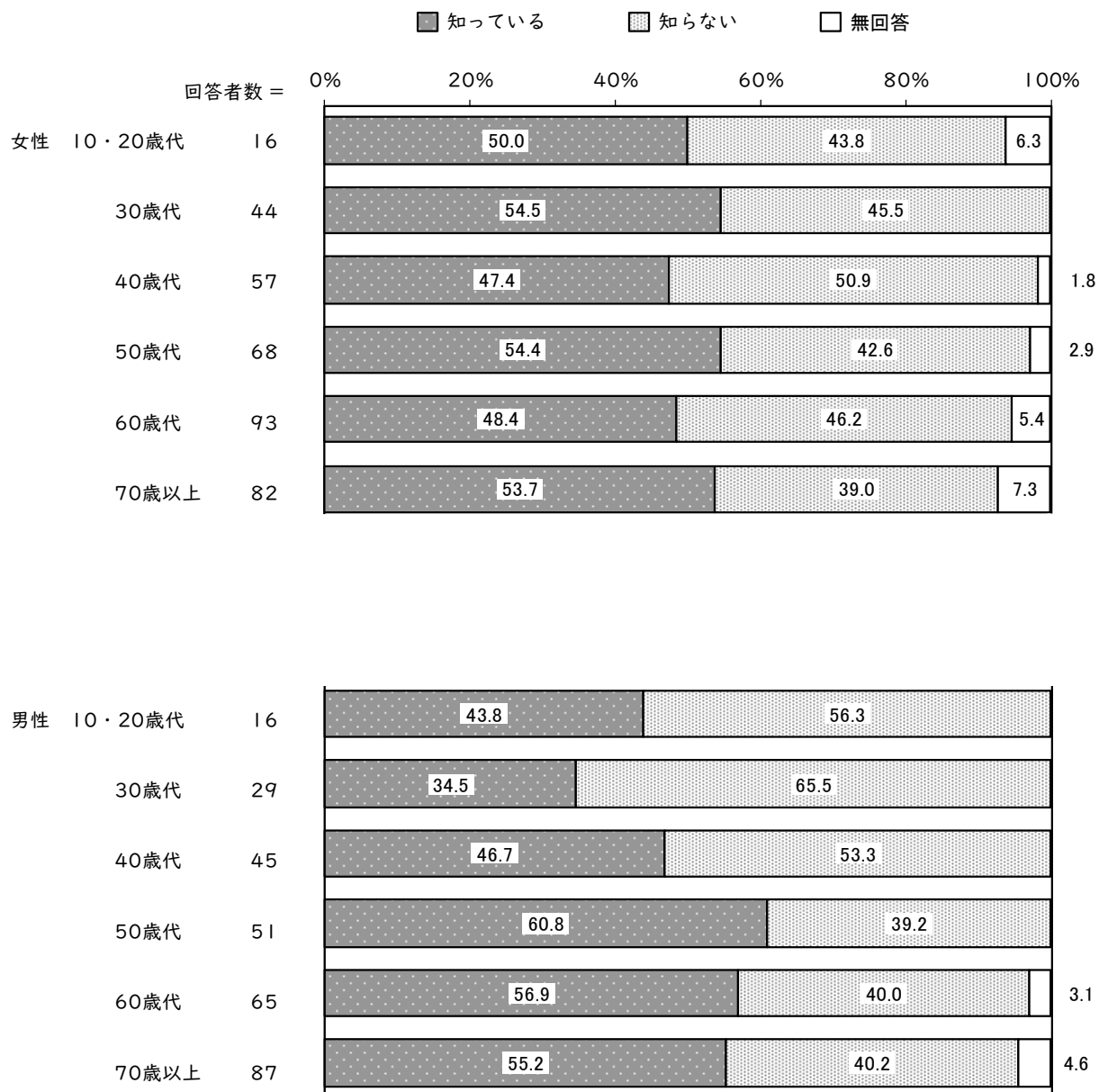
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

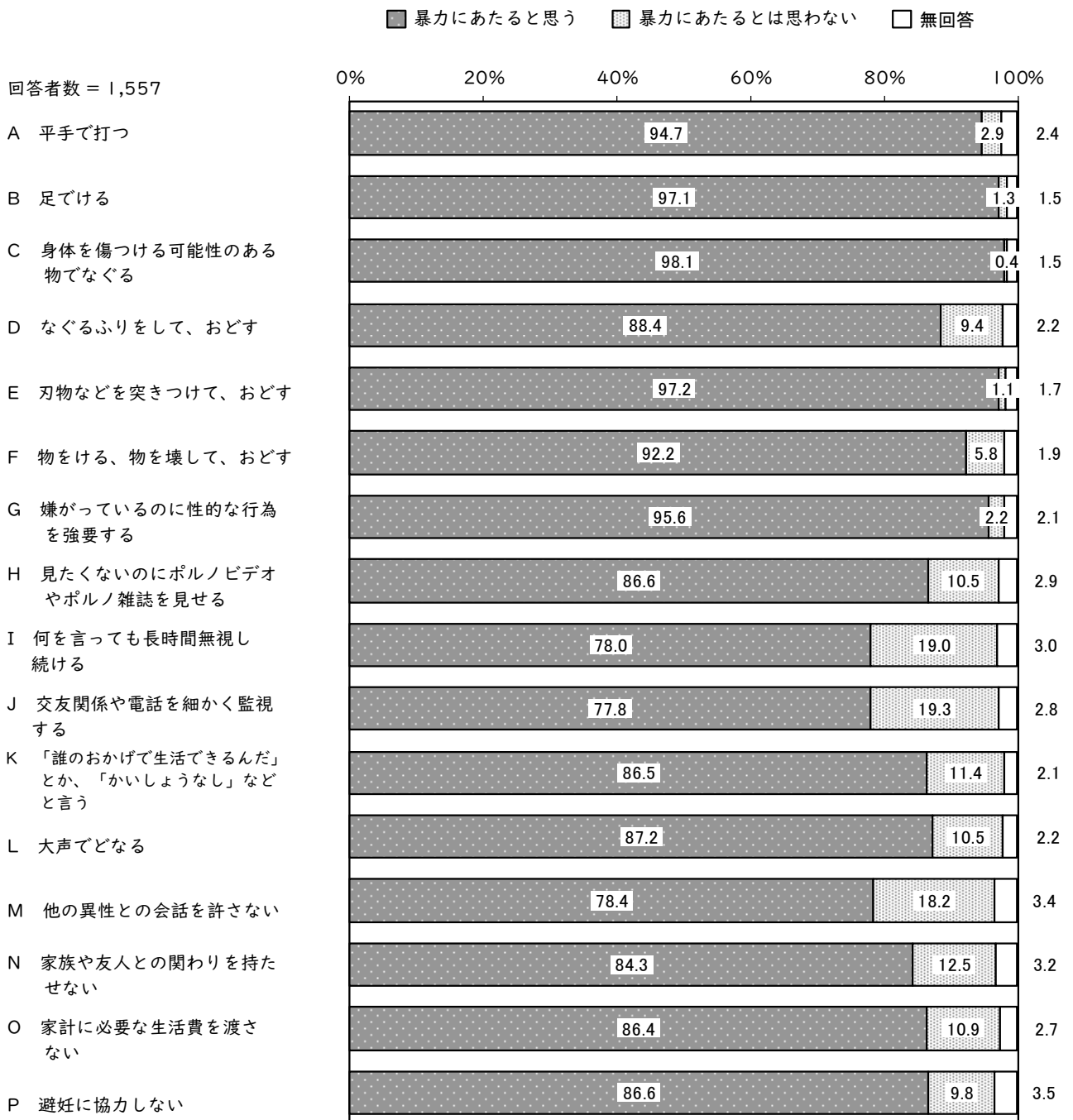
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の50歳代で「知っている」の割合が高くなっています。一方、男性の30歳代で「知らない」の割合が高くなっています。



7 次のような行為が配偶者や交際相手の間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。A～Pのそれぞれについて、あなたの考えを次の中から1つずつ選んで番号に○をつけてください。

『平手で打つ』『足でける』『身体を傷つける可能性のある物でなぐる』『刃物などを突きつけて、おどす』『嫌がっているのに性的な行為を強要する』で「暴力にあたると思う」の割合が高く、9割を超えています。

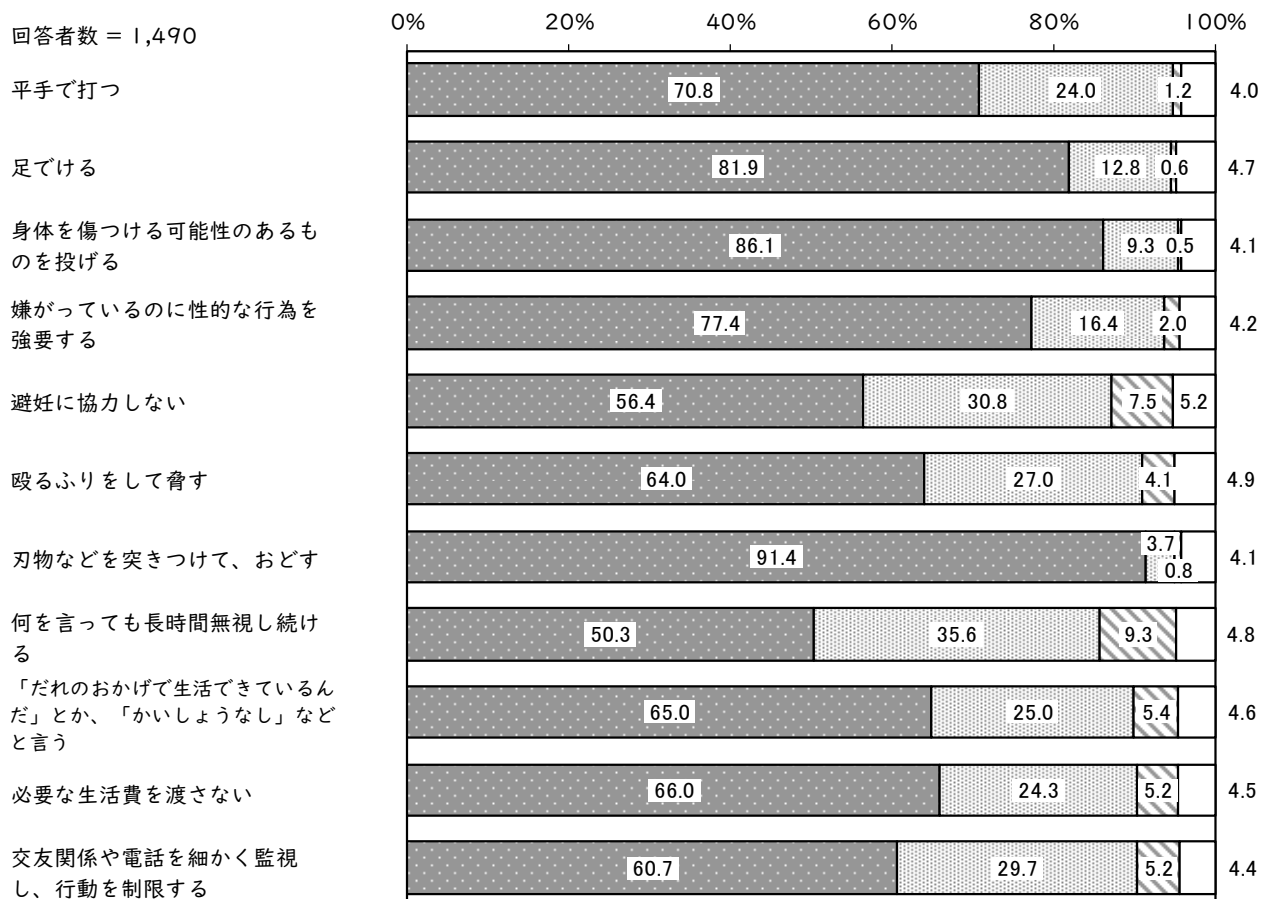
一方、『何を言っても長時間無視し続ける』『交友関係や電話を細かく監視する』『他の異性との会話を許さない』で「暴力にあたると思わない」の割合が高く、約2割となっています。



【平成 29 年度調査（参考）】

- 暴力にあたると思う
- ▨ 暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う
- ▩ 暴力にあたるとは思わない
- 無回答

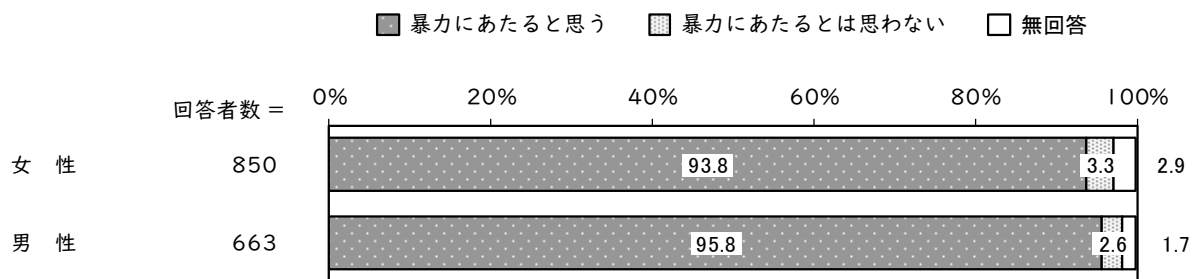
回答者数 = 1,490



A 平手で打つ

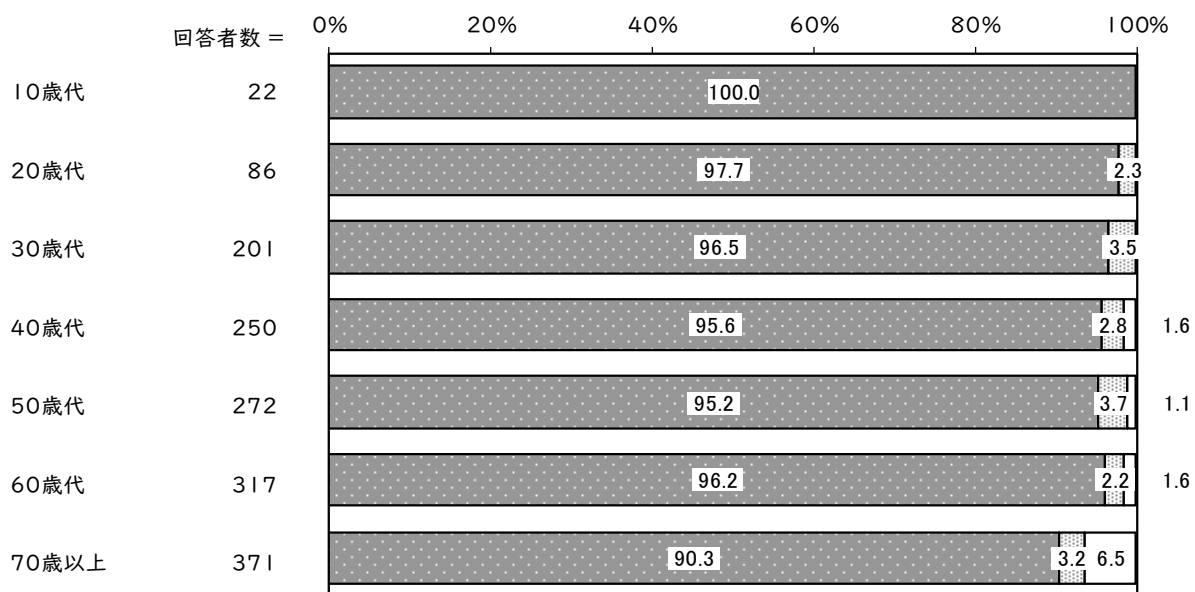
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年齢別】

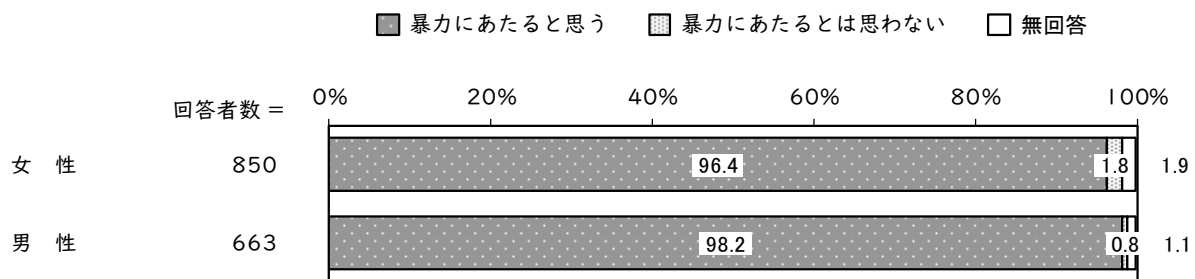
年齢別でみると、60歳代以下に比べ、70歳以上で「暴力にあたると思う」の割合が低くなっています。



B 足でける

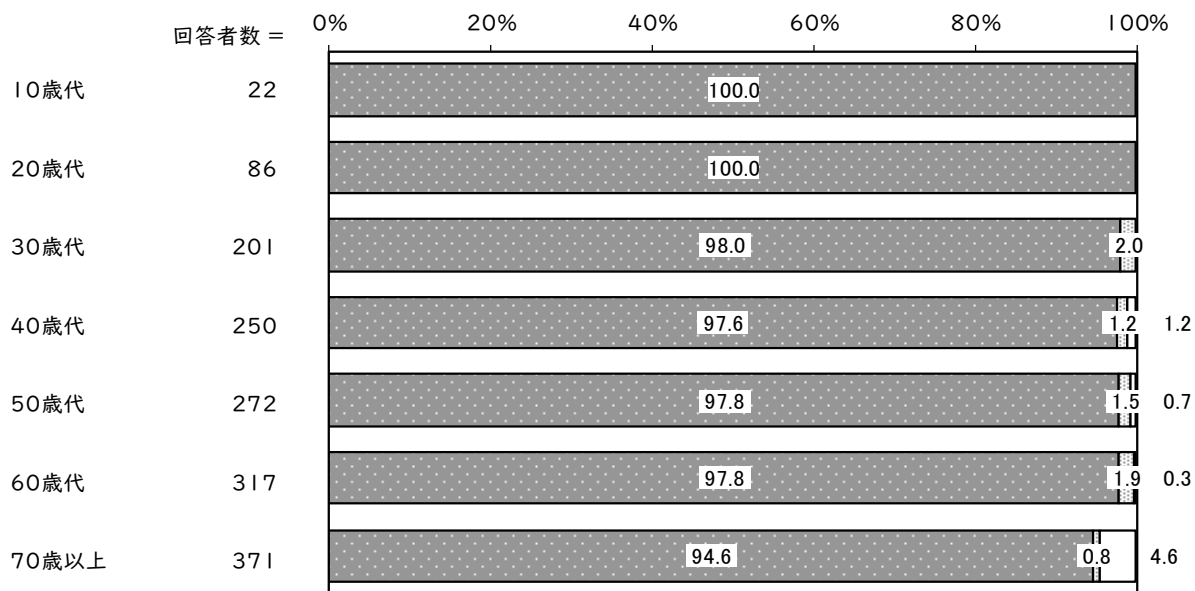
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年齢別】

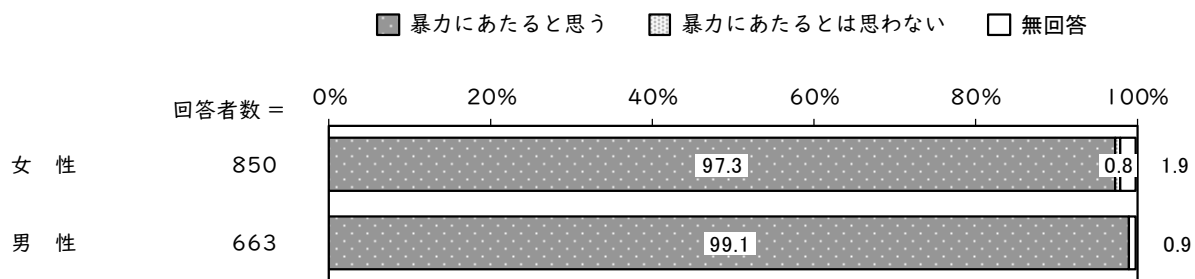
年齢別でみると、大きな差異はみられません。



C 身体を傷つける可能性のある物でなく

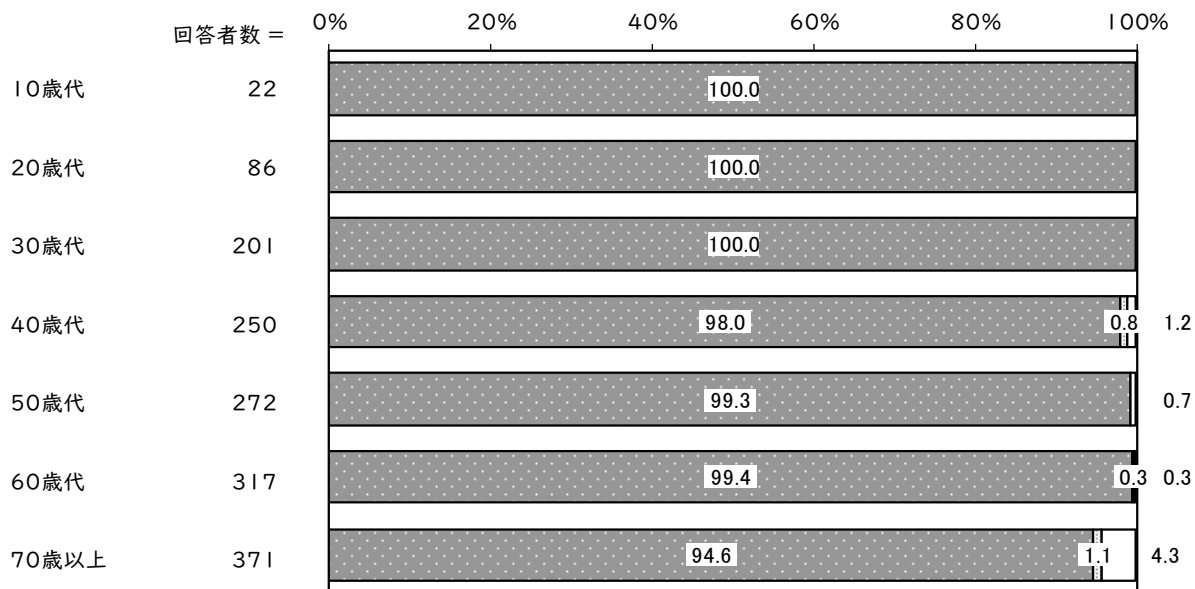
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年齢別】

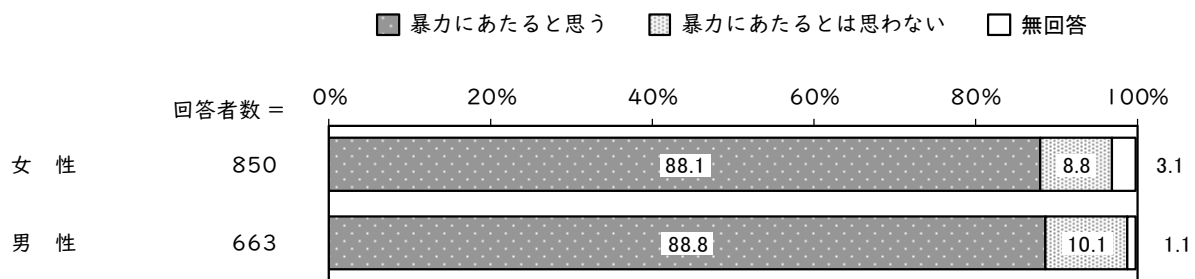
年齢別でみると、大きな差異はみられません。



D なぐるふりをして、おどす

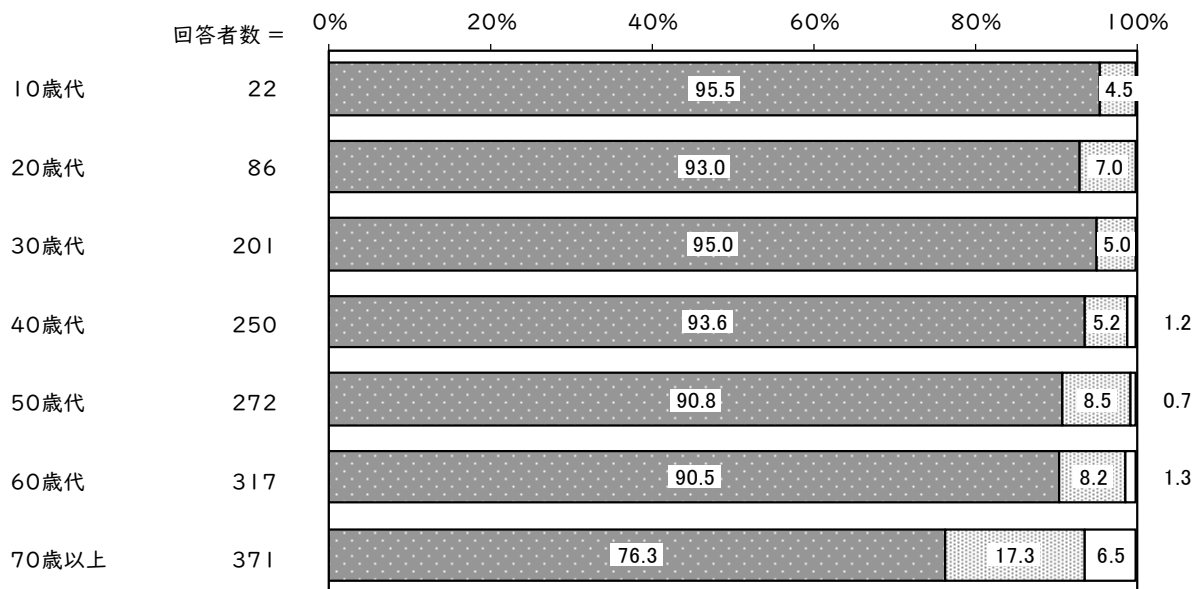
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年齢別】

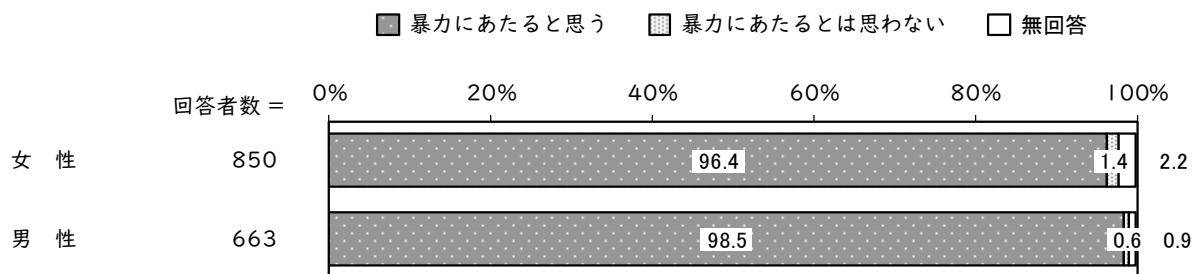
年齢別でみると、60歳代以下に比べ、70歳以上で「暴力にあたるとは思わない」の割合が高くなっています。



E 刃物などを突きつけて、おどす

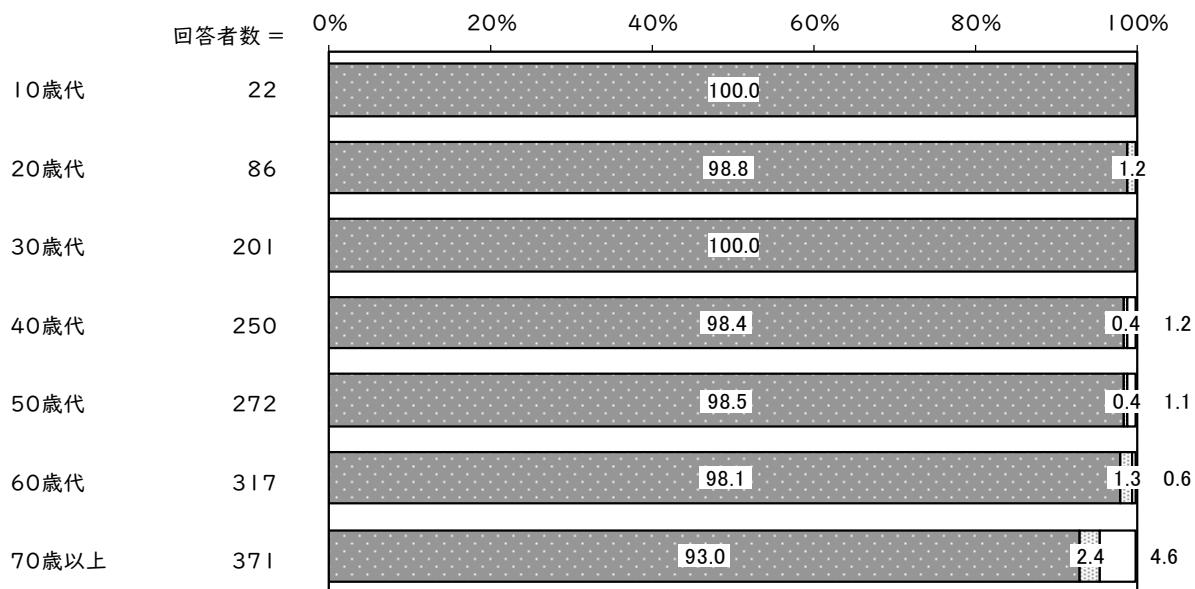
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年齢別】

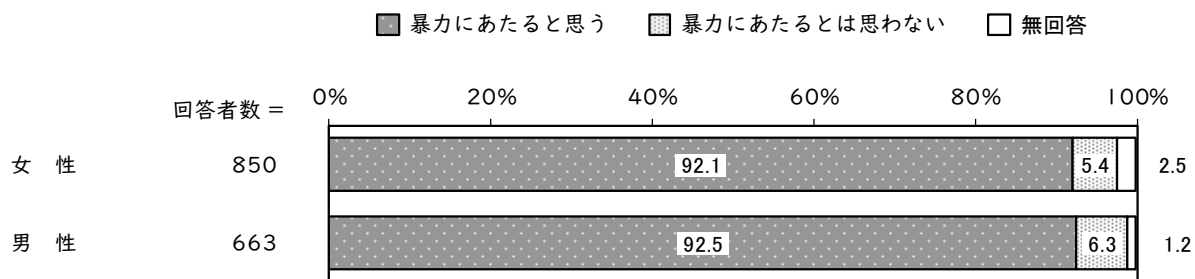
年齢別でみると、大きな差異はみられません。



F 物をける、物を壊して、おどす

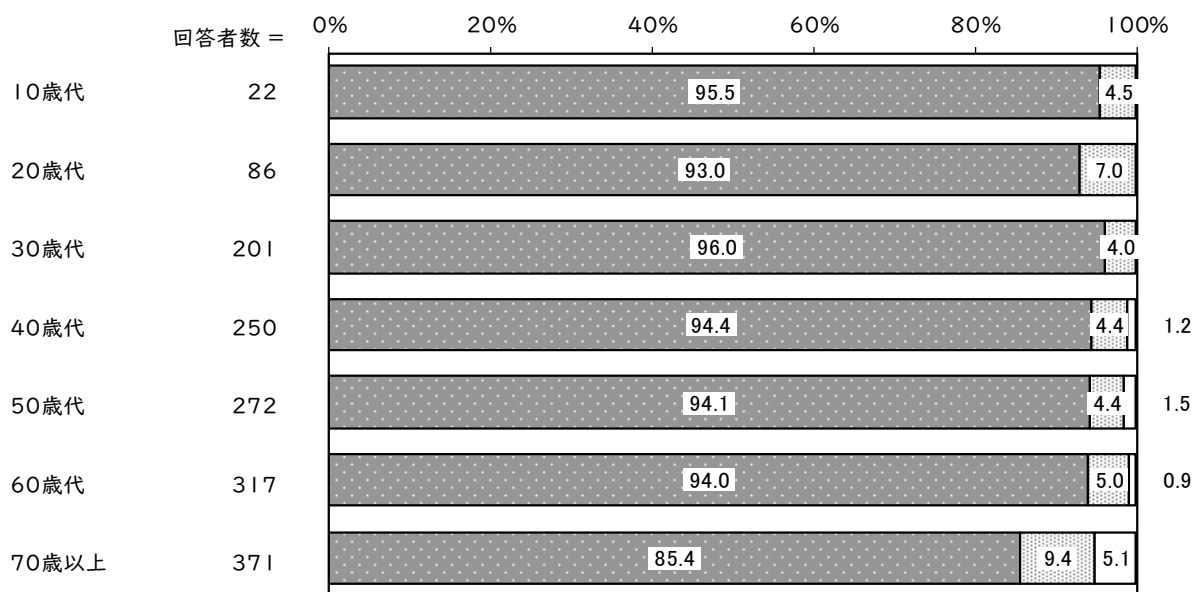
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年齢別】

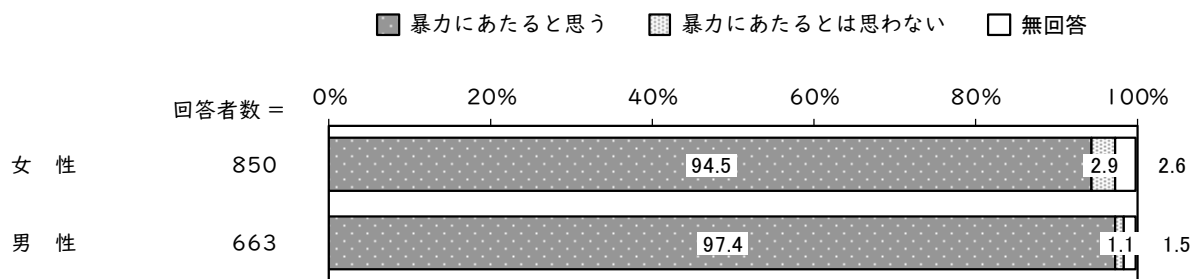
年齢別でみると、他に比べ、70歳以上で「暴力にあたるとは思わない」の割合が高くなっています。



G 嫌がっているのに性的な行為を強要する

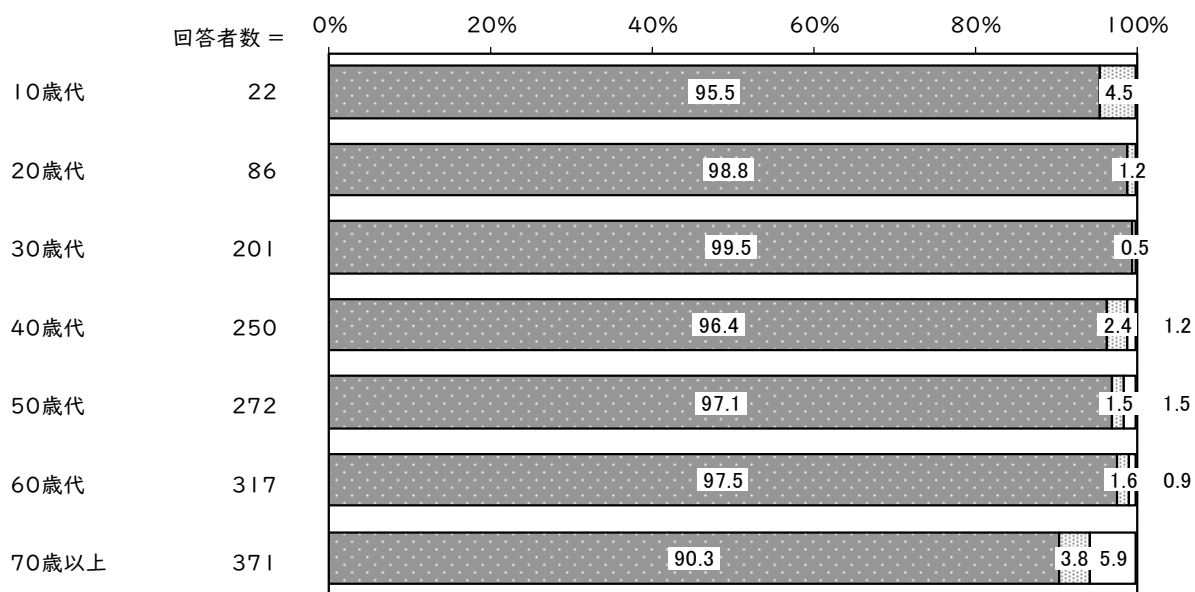
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年齢別】

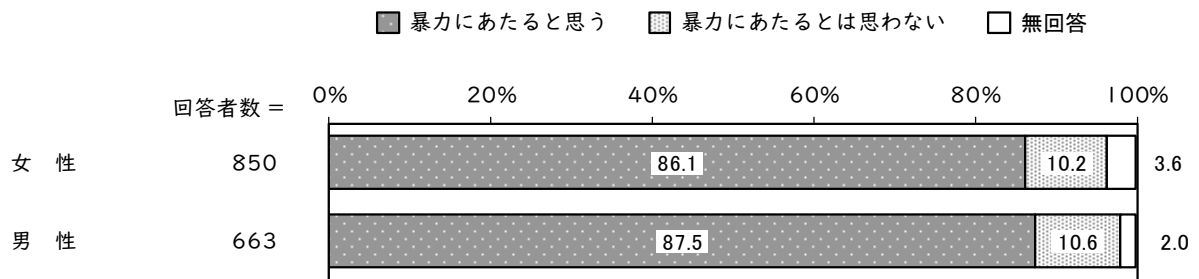
年齢別でみると、60歳代以下に比べ、70歳以上で「暴力にあたると思う」の割合が低くなっています。



H 見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる

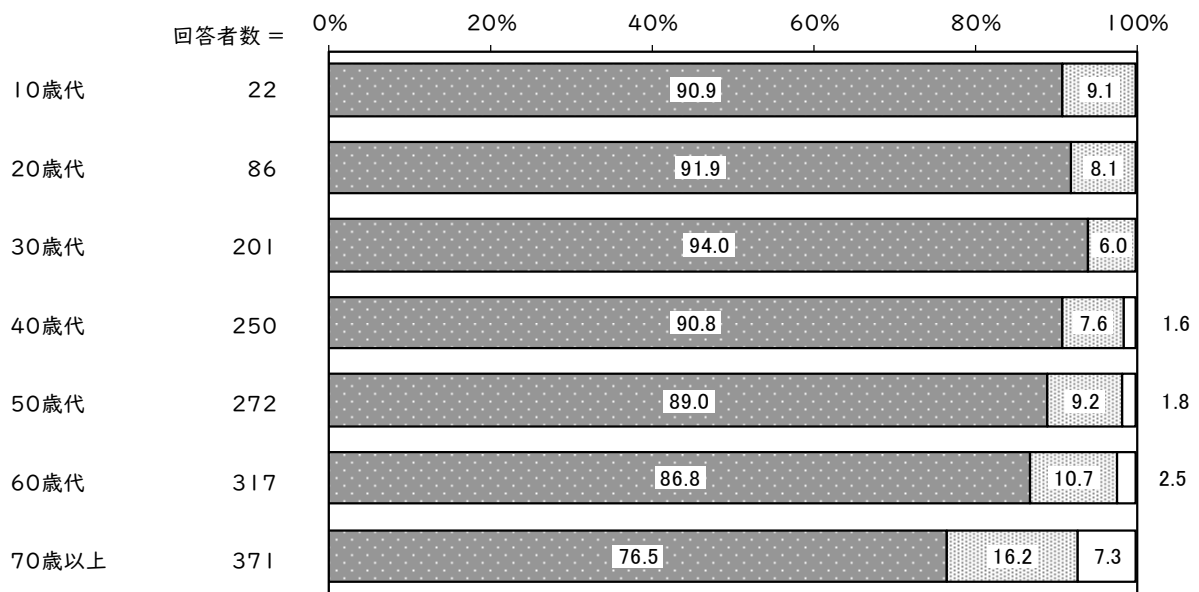
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年齢別】

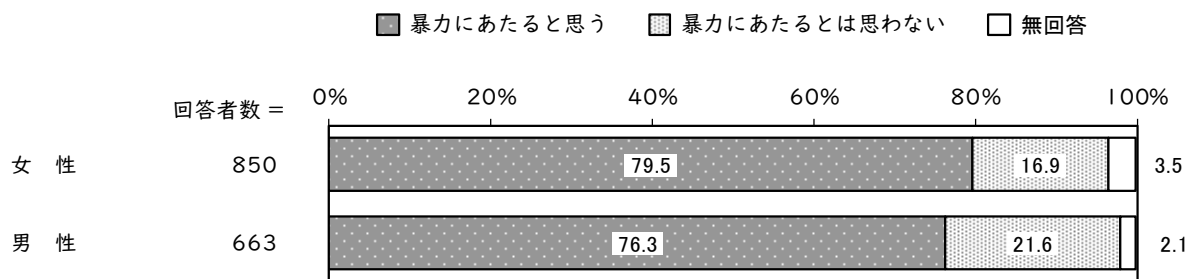
年齢別でみると、他に比べ、30歳代で「暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「暴力にあたるとは思わない」の割合が高くなっています。



I 何を言っても長時間無視し続ける

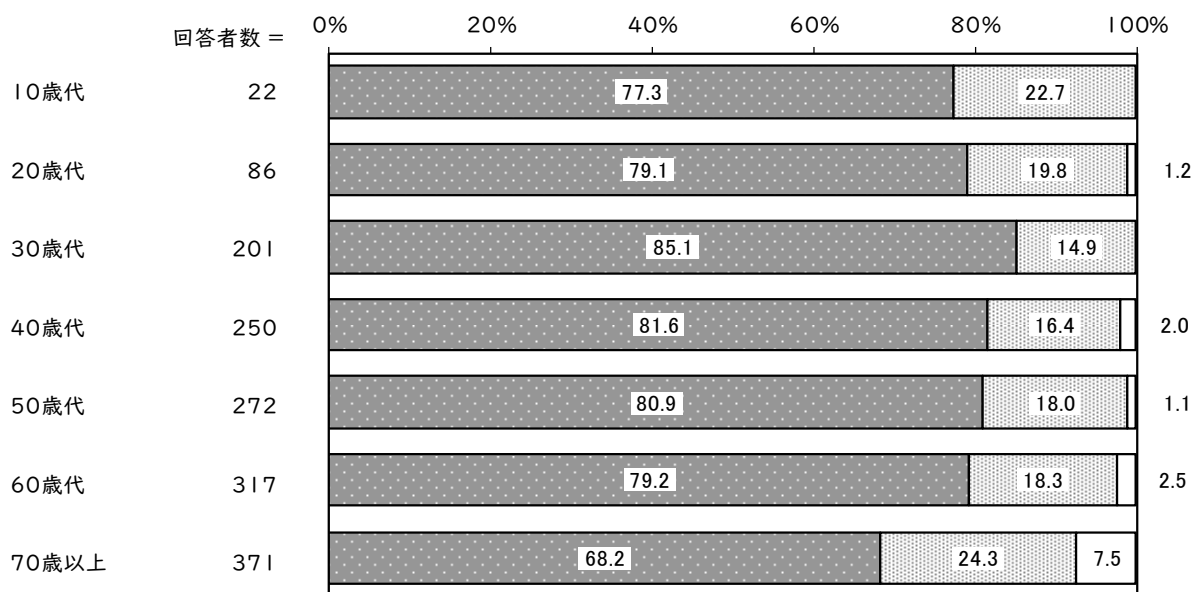
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



【年齢別】

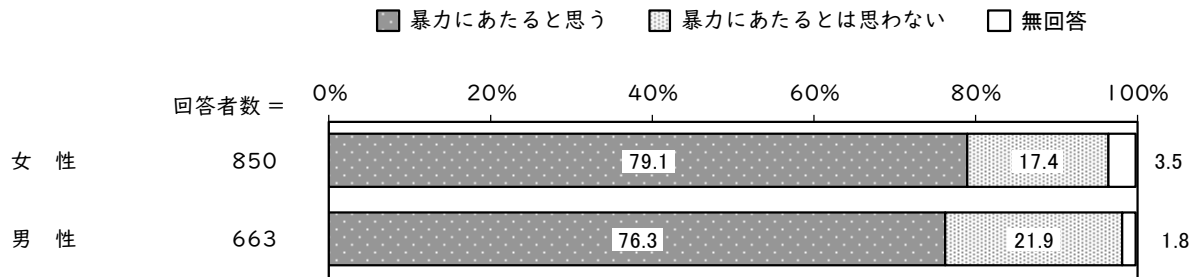
年齢別で見ると、他に比べ、30歳代で「暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「暴力にあたるとは思わない」の割合が高くなっています。



J 交友関係や電話を細かく監視する

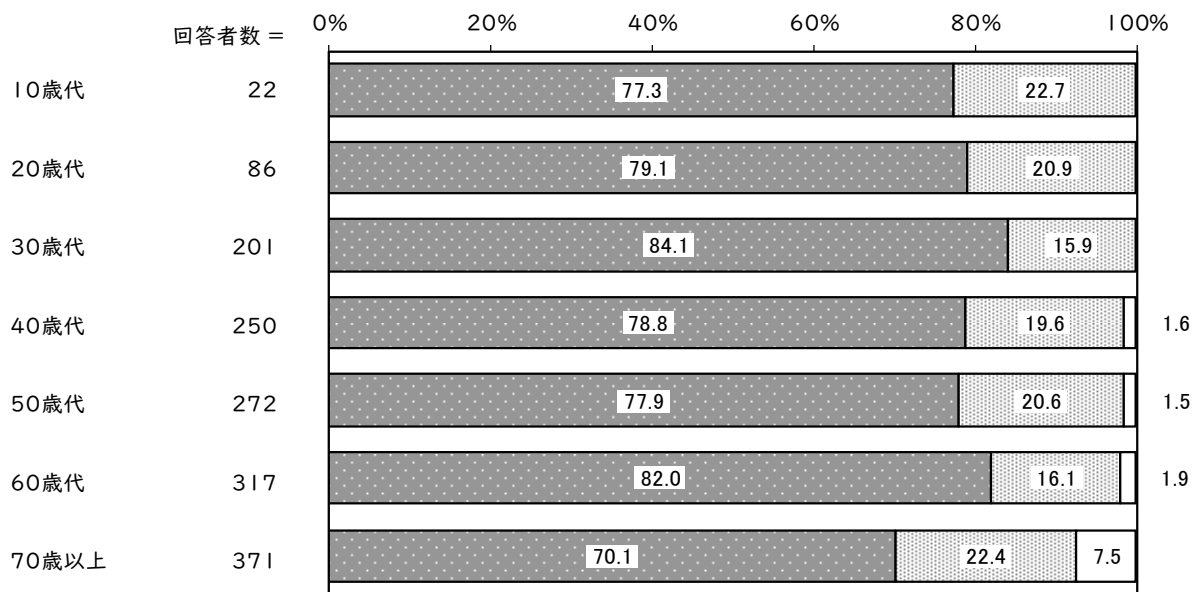
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年齢別】

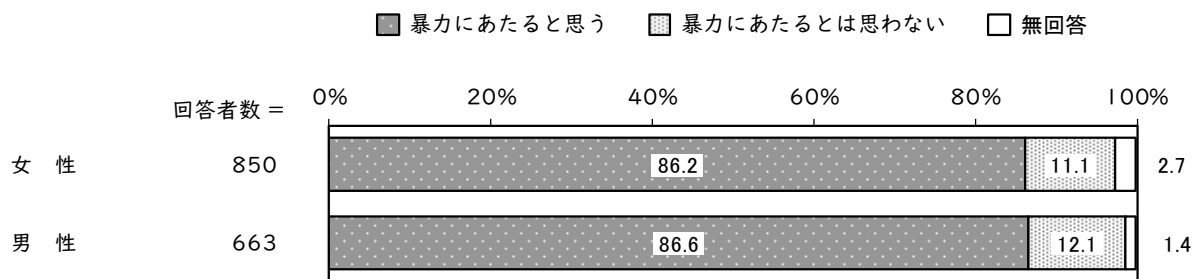
年齢別でみると、他に比べ、30歳代、60歳代で「暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。



K 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」などと言う

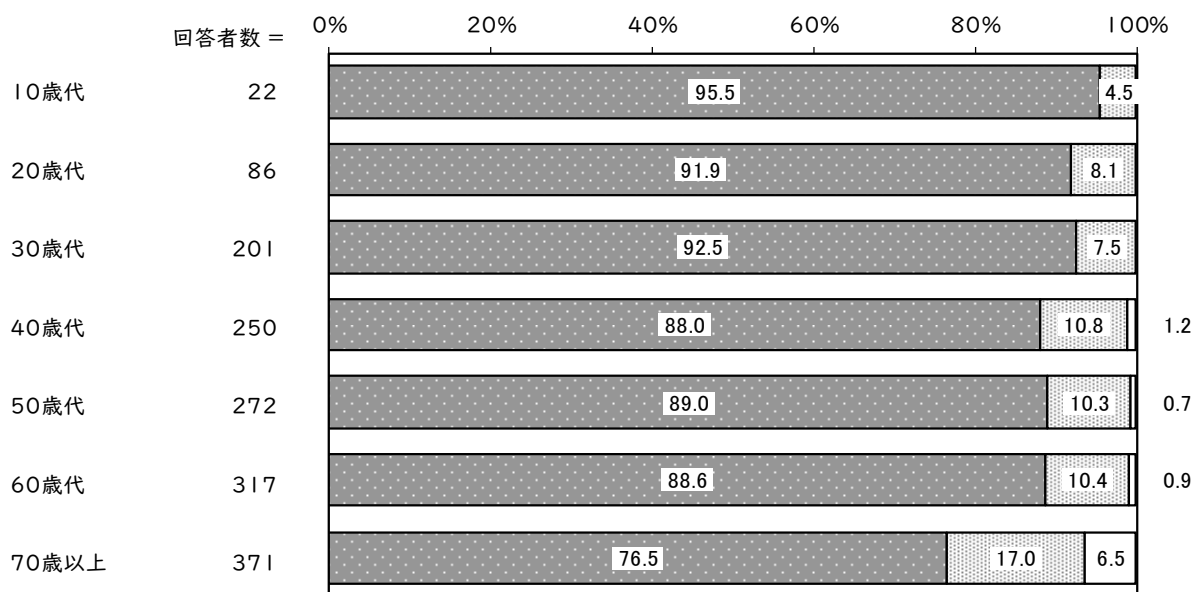
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年齢別】

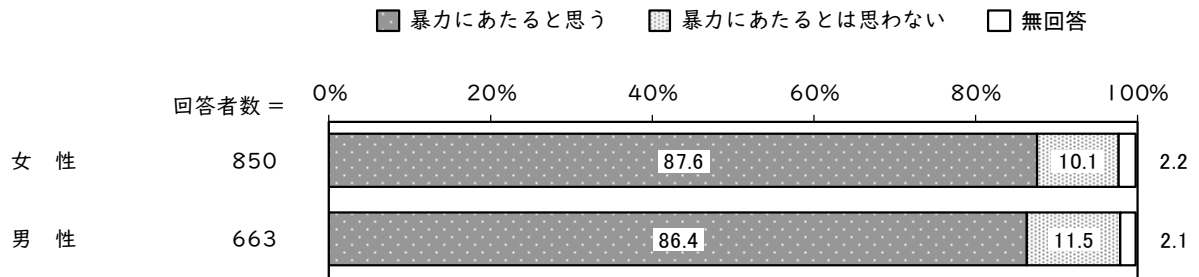
年齢別でみると、他に比べ、10歳代で「暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「暴力にあたるとは思わない」の割合が高くなっています。



L 大声でどなる

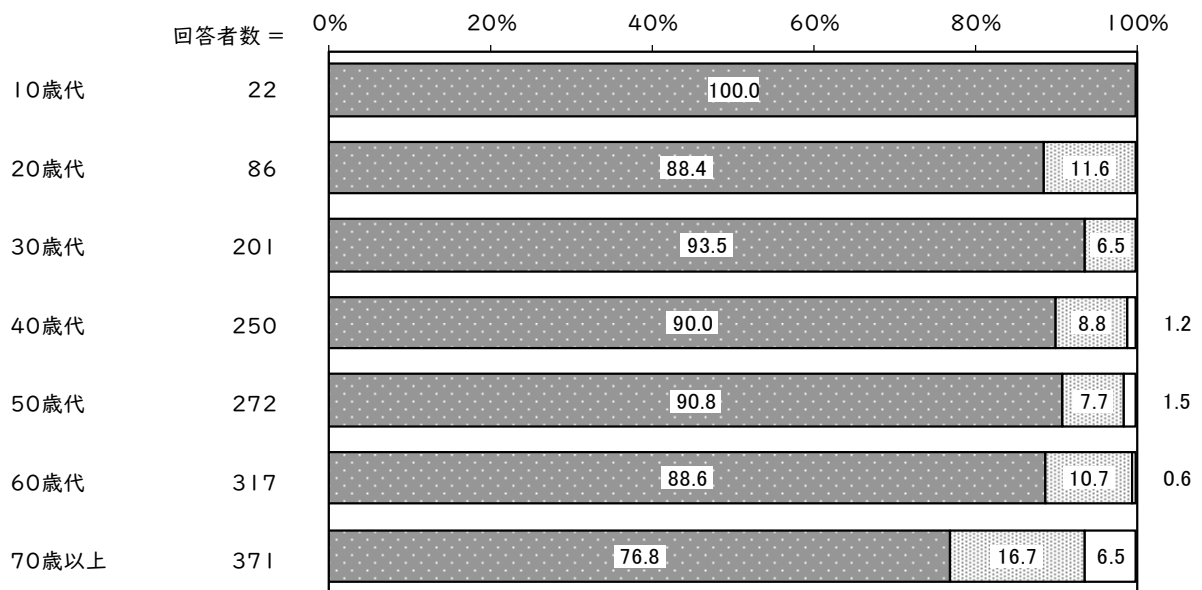
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年齢別】

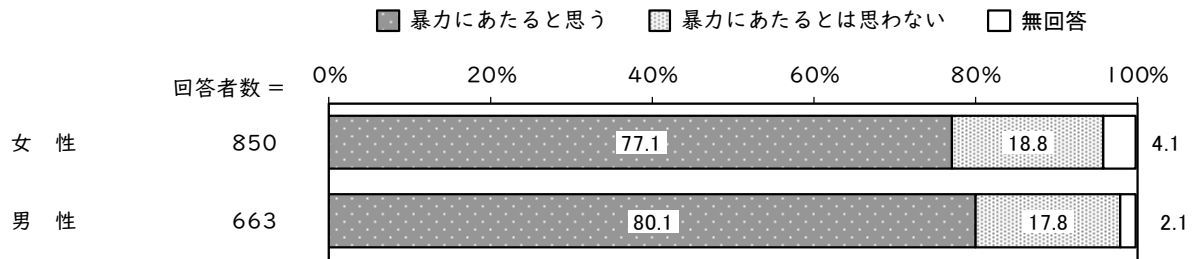
年齢別でみると、他に比べ、10歳代で「暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「暴力にあたるとは思わない」の割合が高くなっています。



M 他の異性との会話を許さない

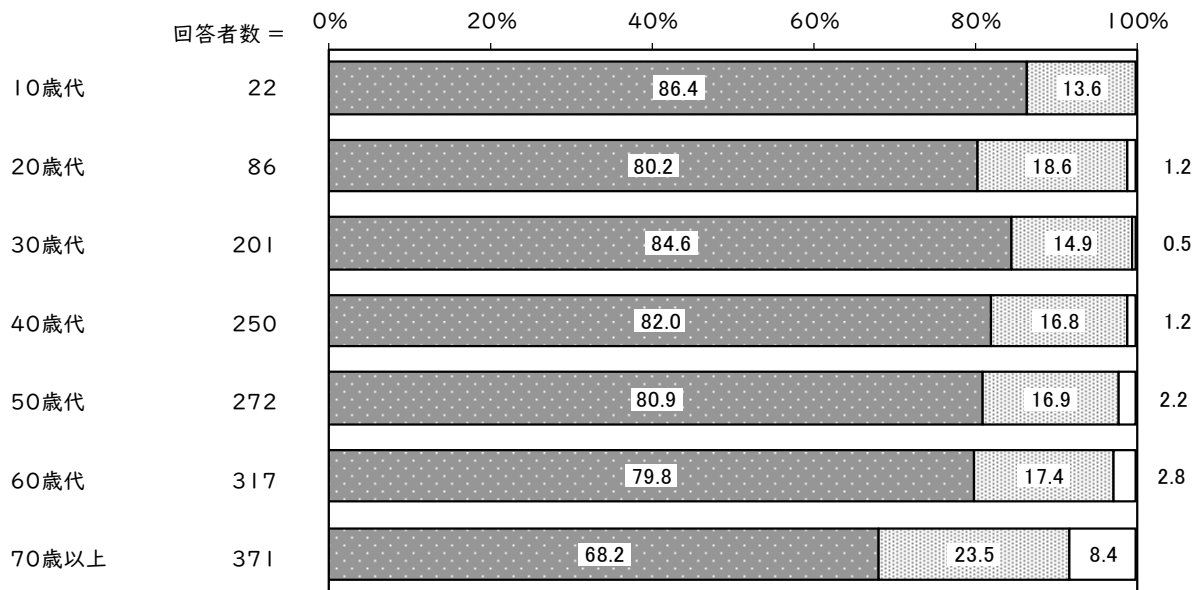
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年齢別】

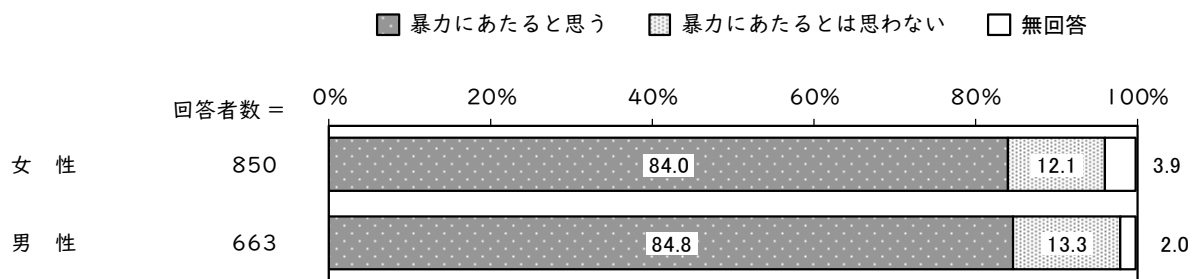
年齢別でみると、他に比べ、10歳代、30歳代で「暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「暴力にあたるとは思わない」の割合が高くなっています。



N 家族や友人との関わりを持たせない

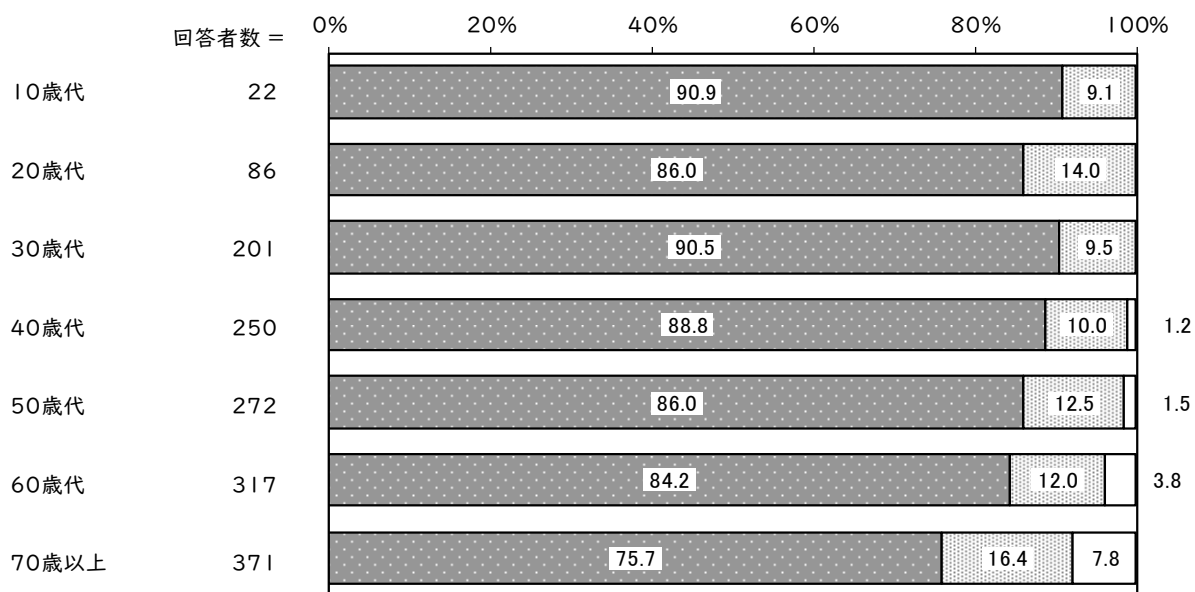
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年齢別】

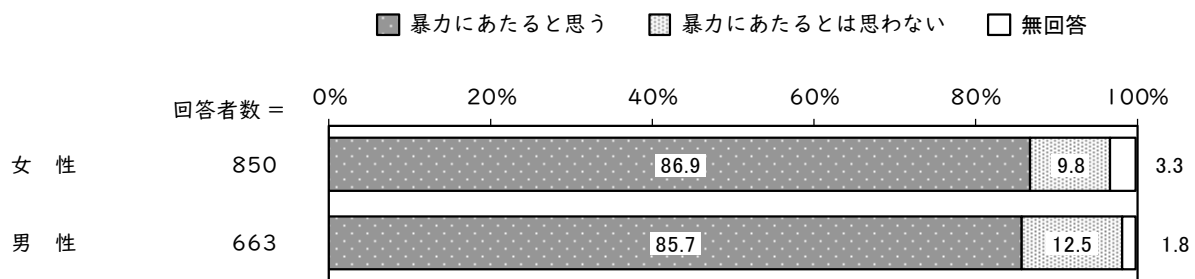
年齢別でみると、他に比べ、20歳代、70歳以上で「暴力にあたるとは思わない」の割合が高くなっています。



○ 家計に必要な生活費を渡さない

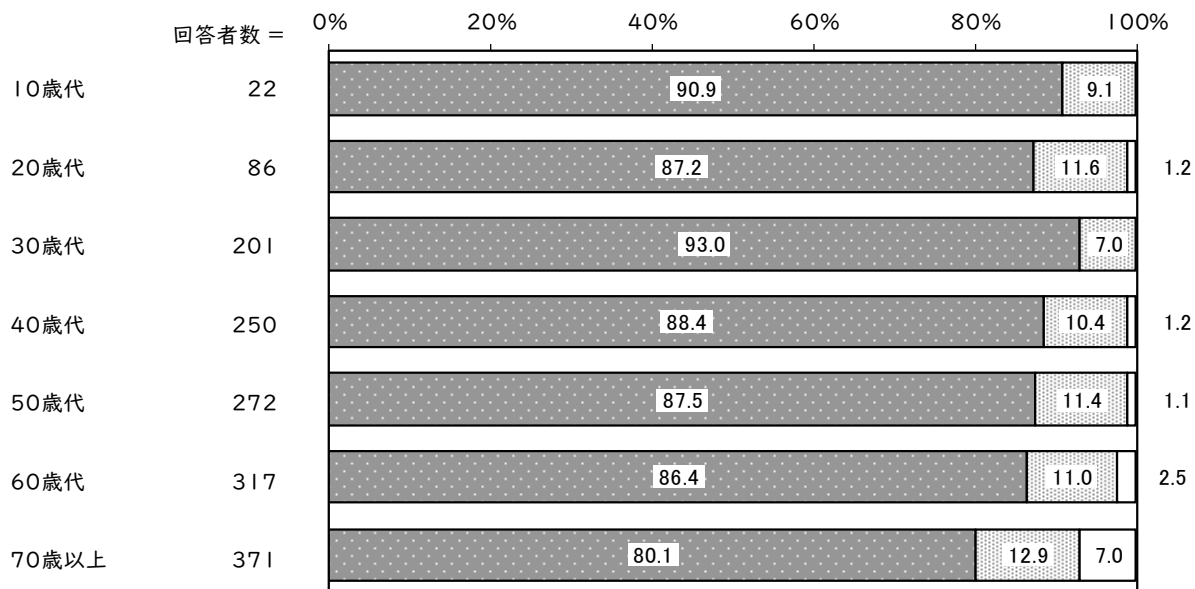
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年齢別】

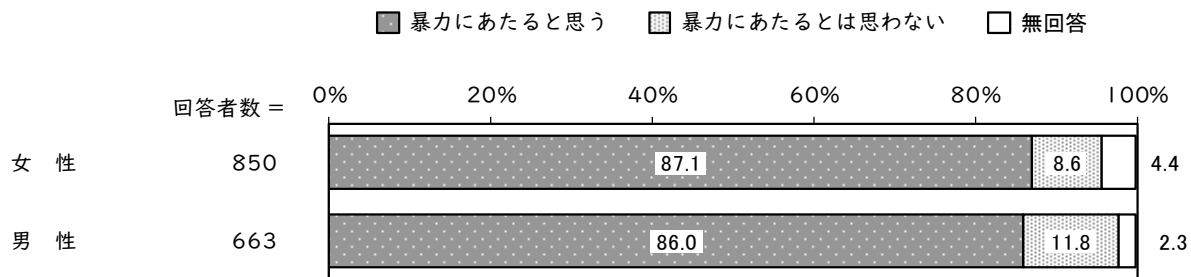
年齢別でみると、他に比べ、30歳代で「暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。



P 避妊に協力しない

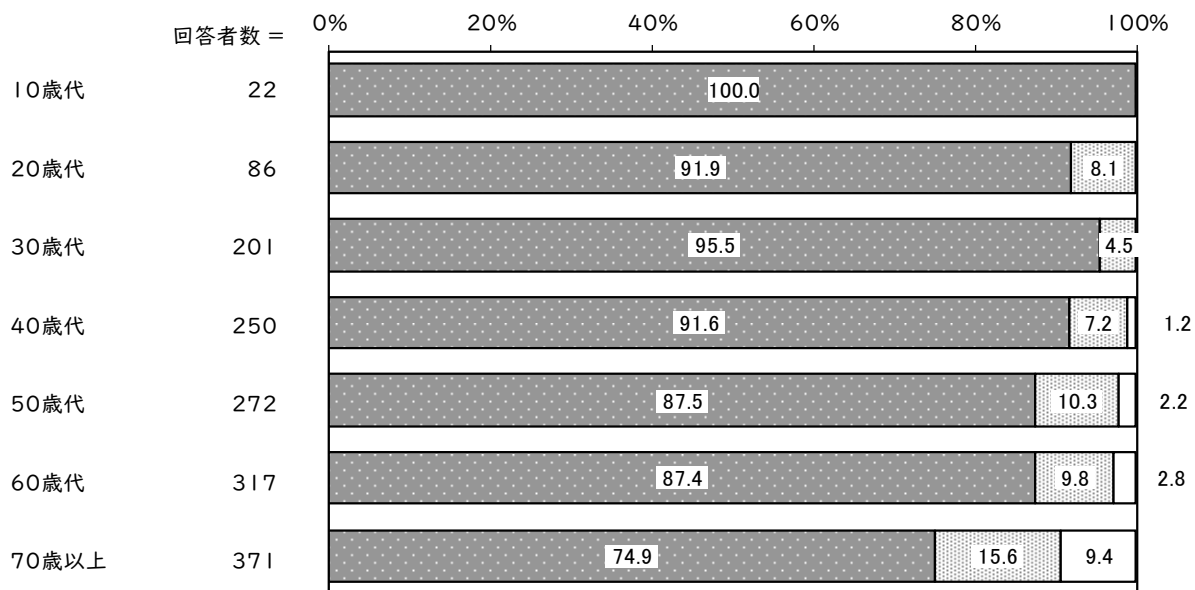
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、10歳代と30歳代で「暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「暴力にあたるとは思わない」の割合が高くなっています。



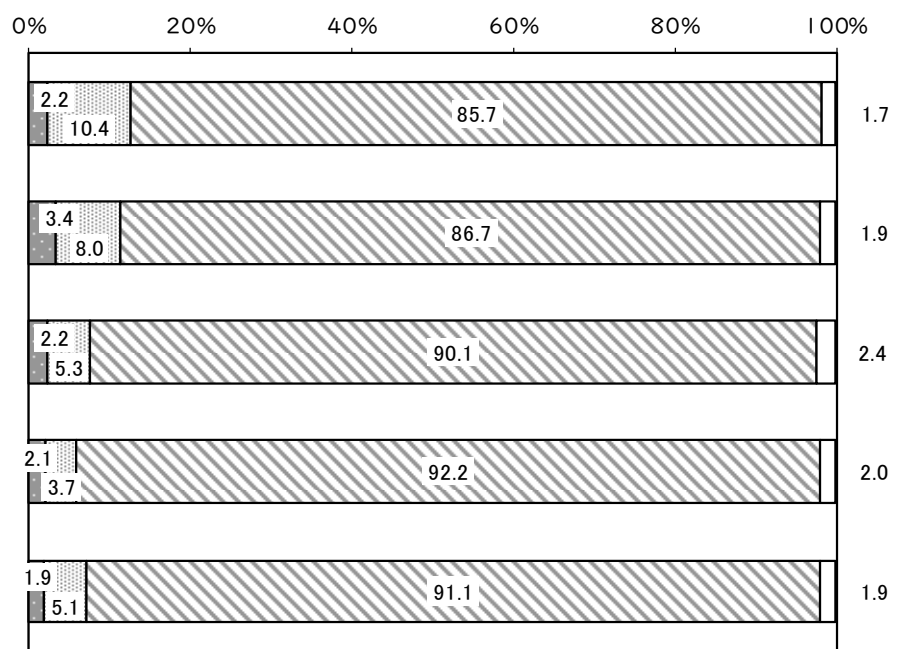
8 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。この調査では、「配偶者」には、事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含まれます。次の中から1つずつ選んで番号に○をつけてください。

『なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けたこと』『人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは身の危険を感じる脅迫を受けたこと』で「何度もあった」「1、2度あった」をあわせた“あった”の割合が高く、1割を超えています。

■ 何度もあった ■ 1、2度あった ■ まったくない □ 無回答

回答者数 = 1,557

- A なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けたこと
- B 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは身の危険を感じる脅迫を受けたこと
- C 嫌がっているのに性的な行為を強要されたこと
- D 生活費を渡さない、給料や貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されること
- E 実家や友人との付き合いや本人の行動を監視、制限されること

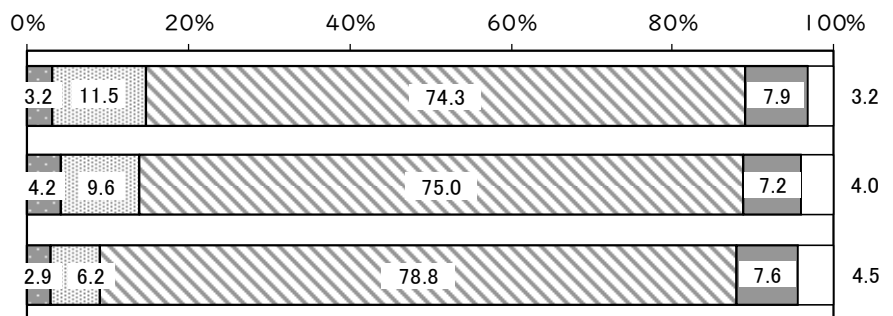


【平成 29 年度調査 (参考)】

■ 何度もあった ■ 1、2度あった ■ まったくない ■ 配偶者や交際相手はいない □ 無回答

回答者数 = 1,490

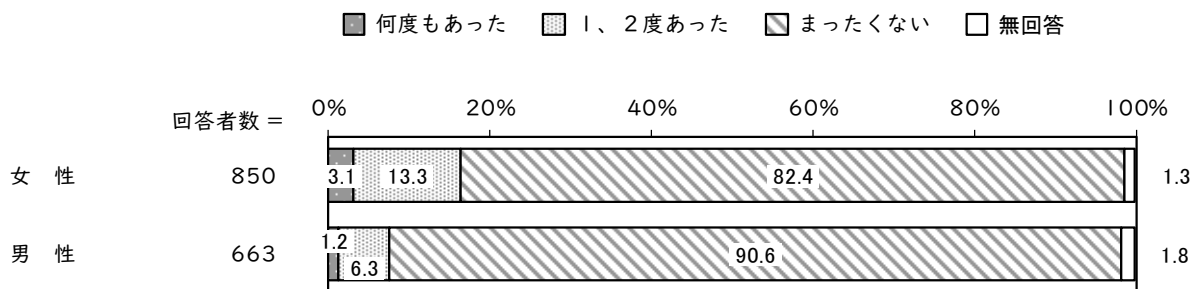
- なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けたこと
- 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは身の危険を感じる脅迫を受けたこと
- 嫌がっているのに性的な行為を強要されたこと



A なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けたこと

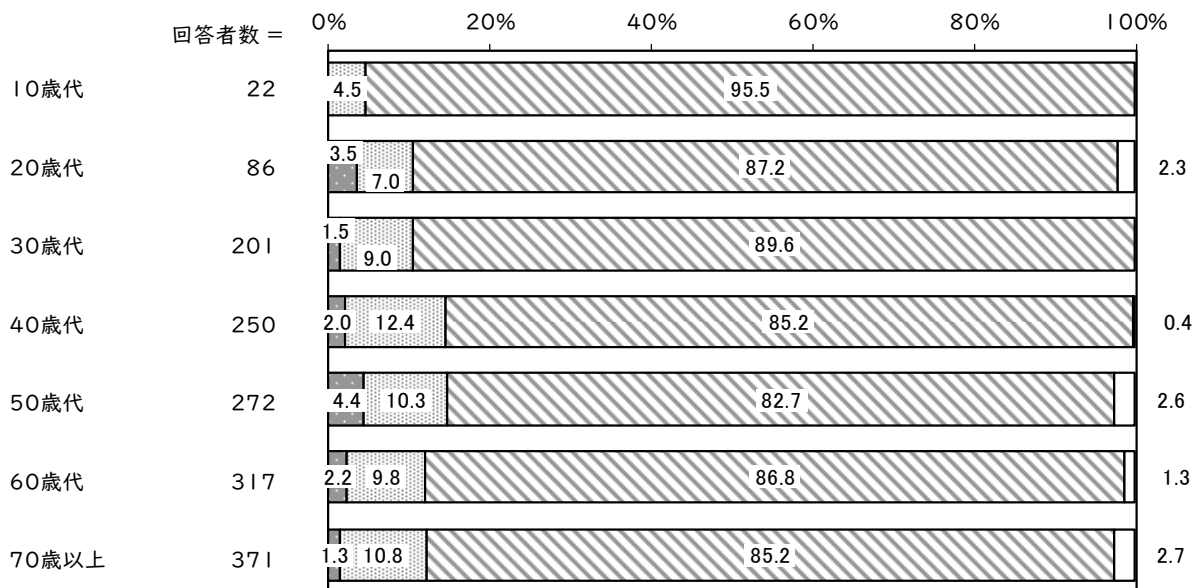
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“あった”の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「まったくない」の割合が高くなっています。



【年齢別】

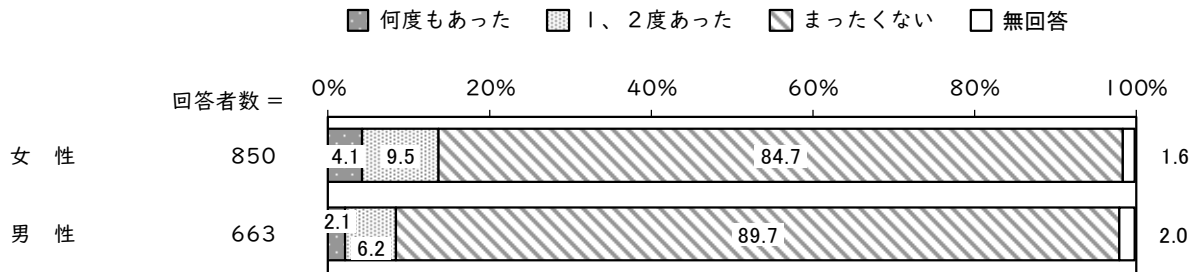
年齢別でみると、40歳代から50歳代に、“暴力があった”と回答した割合が高い傾向にあります。



B 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは身の危険を感じる脅迫を受けたこと

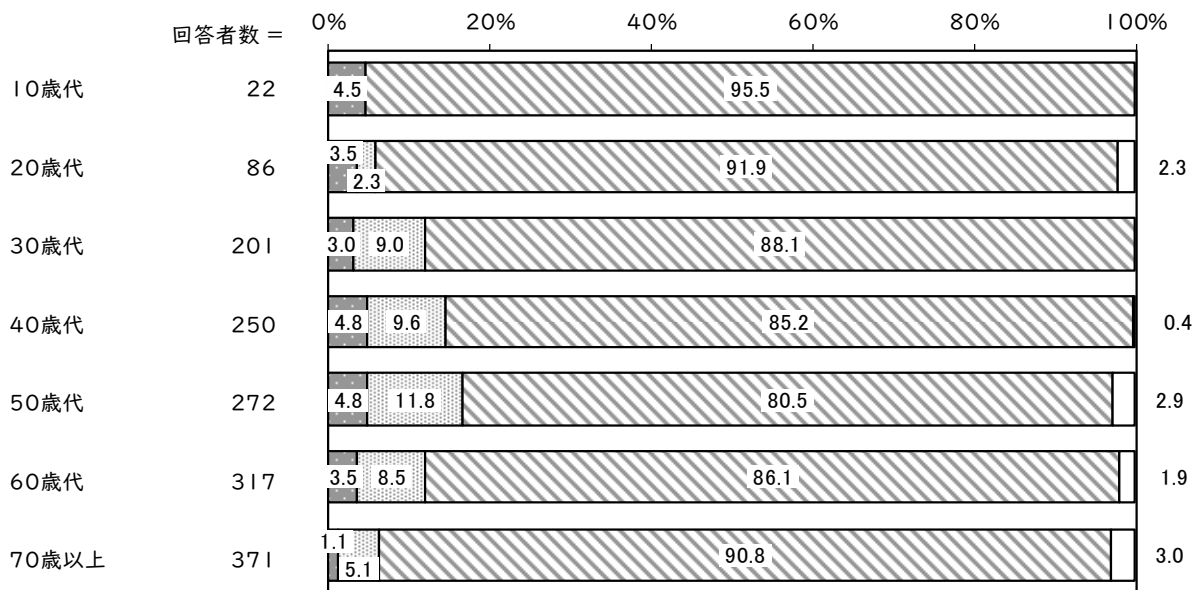
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で“あった”の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「まったくない」の割合が高くなっています。



【年齢別】

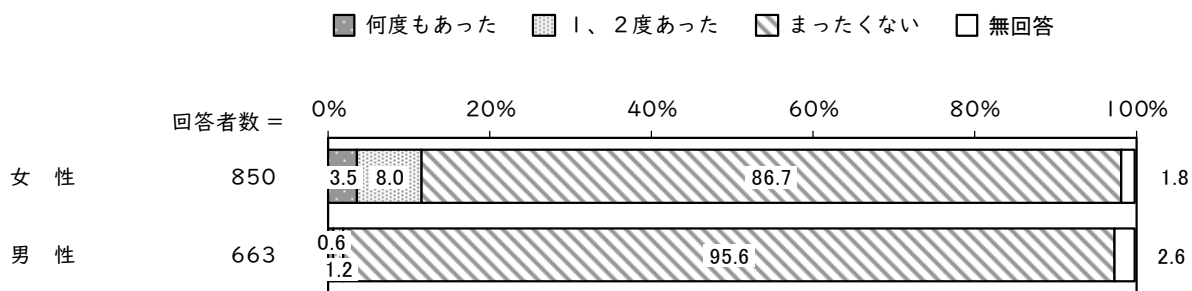
年齢別で見ると、他に比べ、30歳代から60歳代で“あった”の割合が高くなっています。



C 嫌がっているのに性的な行為を強要されたこと

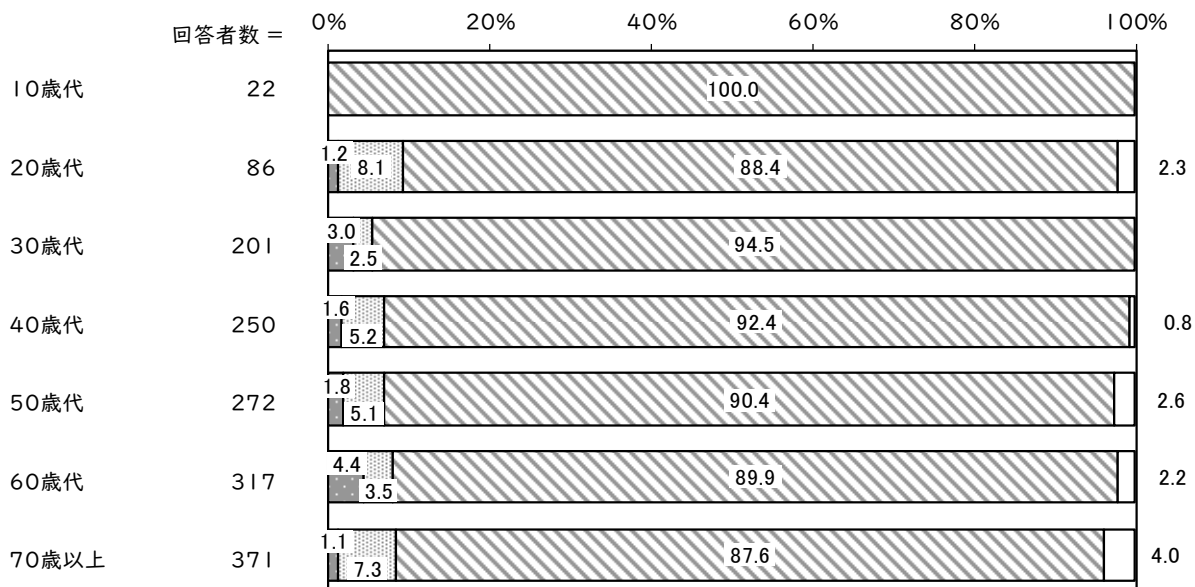
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“あった”の割合が高くなっています。



【年齢別】

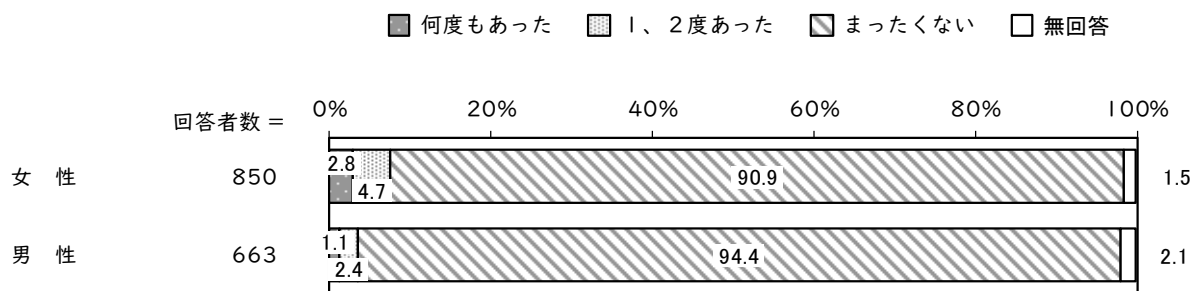
年齢別でみると、他に比べ、10歳代で“あった”の割合が低くなっています。



D 生活費を渡さない、給料や貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されること

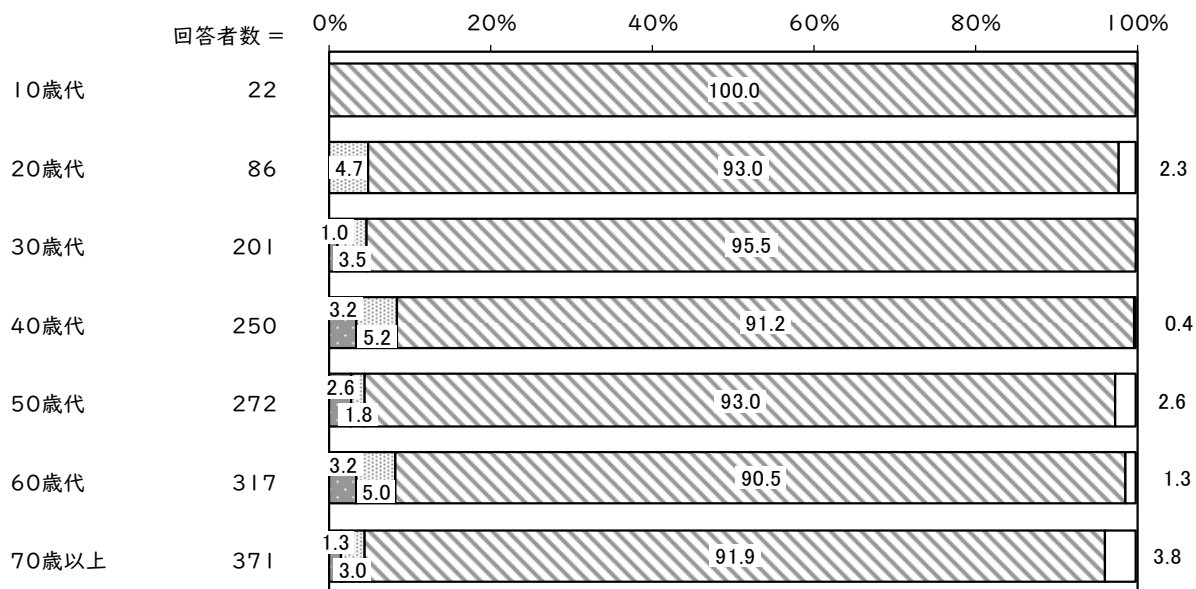
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



【年齢別】

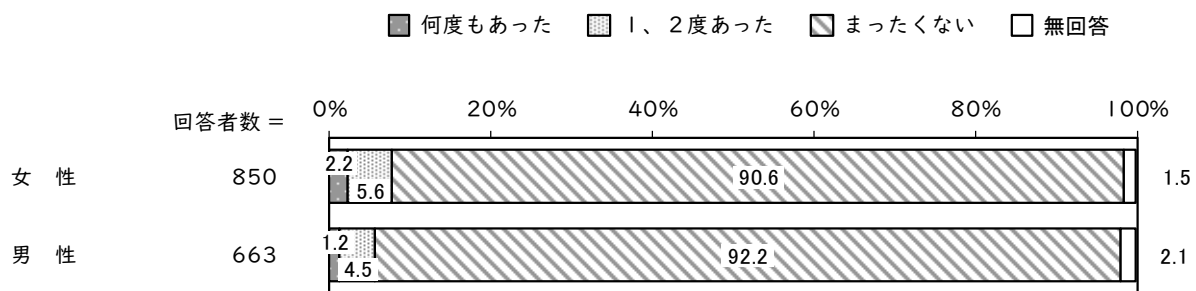
年齢別で見ると、他に比べ、10歳代で“あった”の割合が低くなっています。



E 実家や友人との付き合いや本人の行動を監視、制限されること

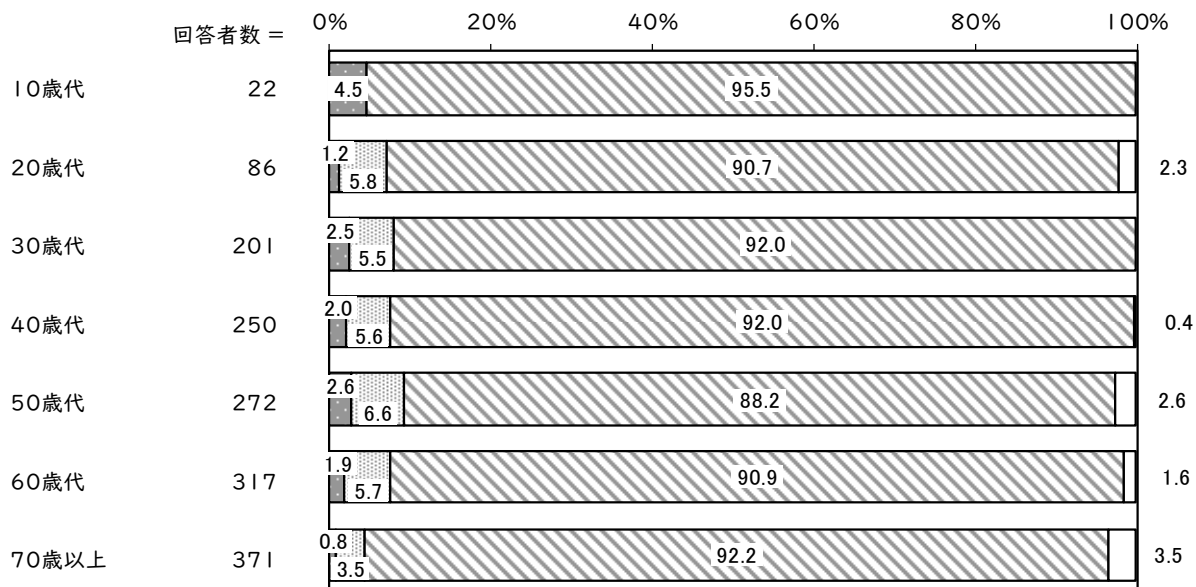
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



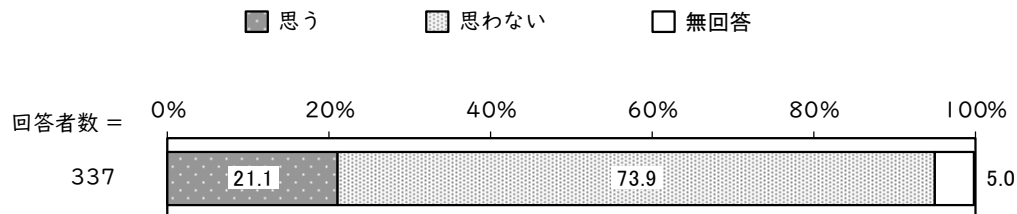
【年齢別】

年齢別でみると、大きな差異はみられません。



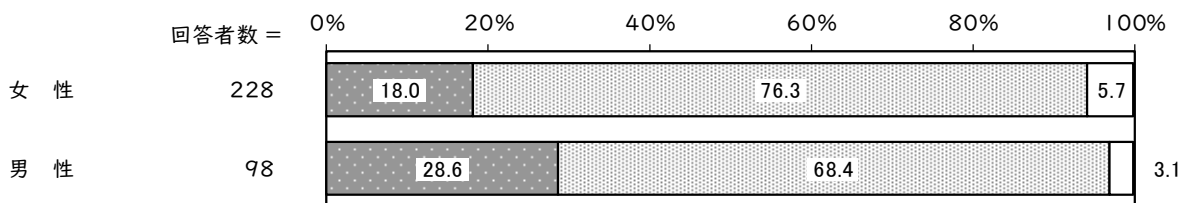
9 8のような暴力の原因の一つとして、新型コロナウイルス感染症の拡大によるリモートワーク、失業などの影響があったと思いますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

「思う」の割合が21.1%、「思わない」の割合が73.9%となっています。



【性別】

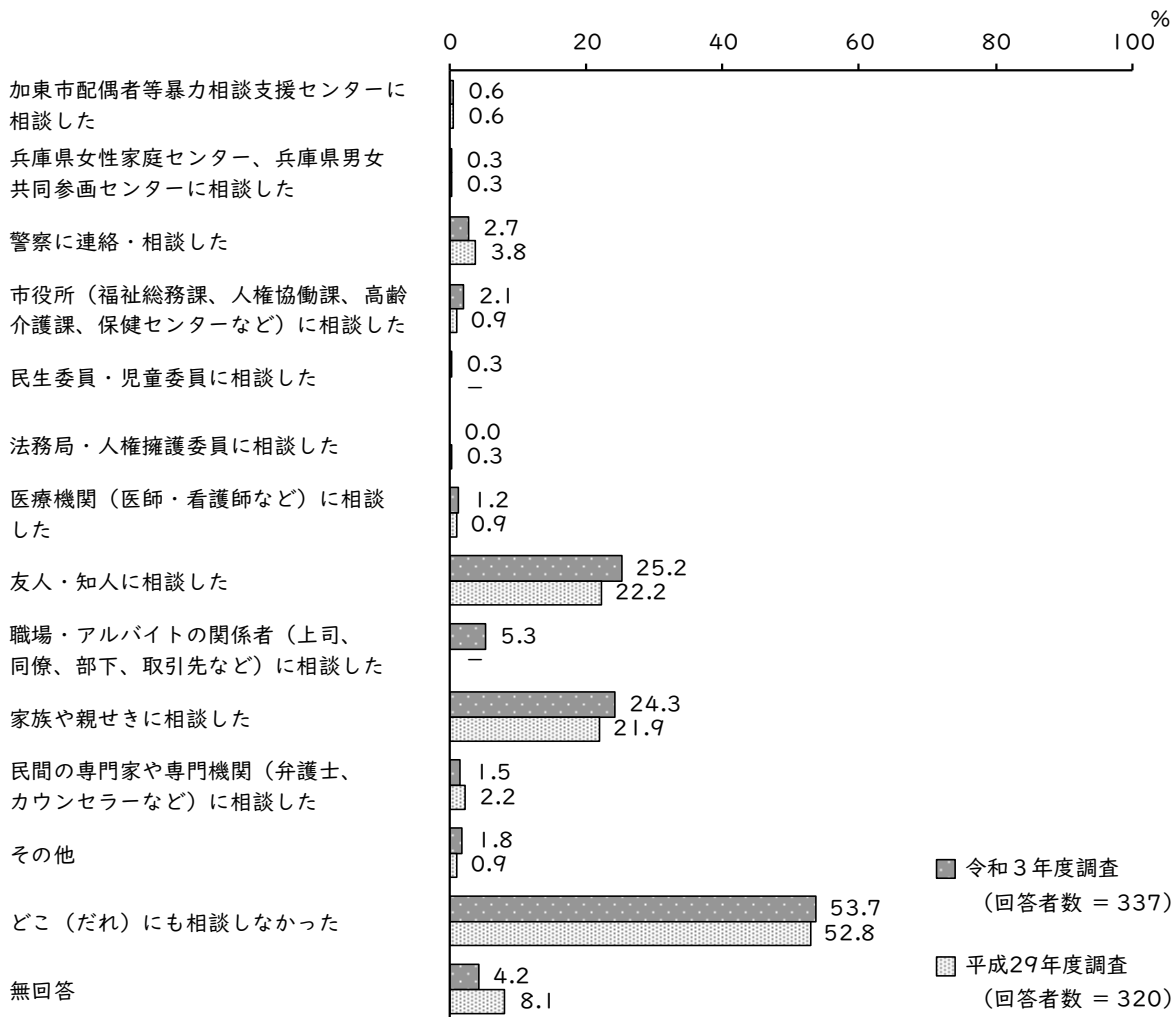
性別でみると、女性に比べ、男性で「思う」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「思わない」の割合が高くなっています。



10 8のような暴力を受けたとき、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。
次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が53.7%と最も高く、次いで「友人・知人に相談した」の割合が25.2%、「家族や親せきに相談した」の割合が24.3%となっています。

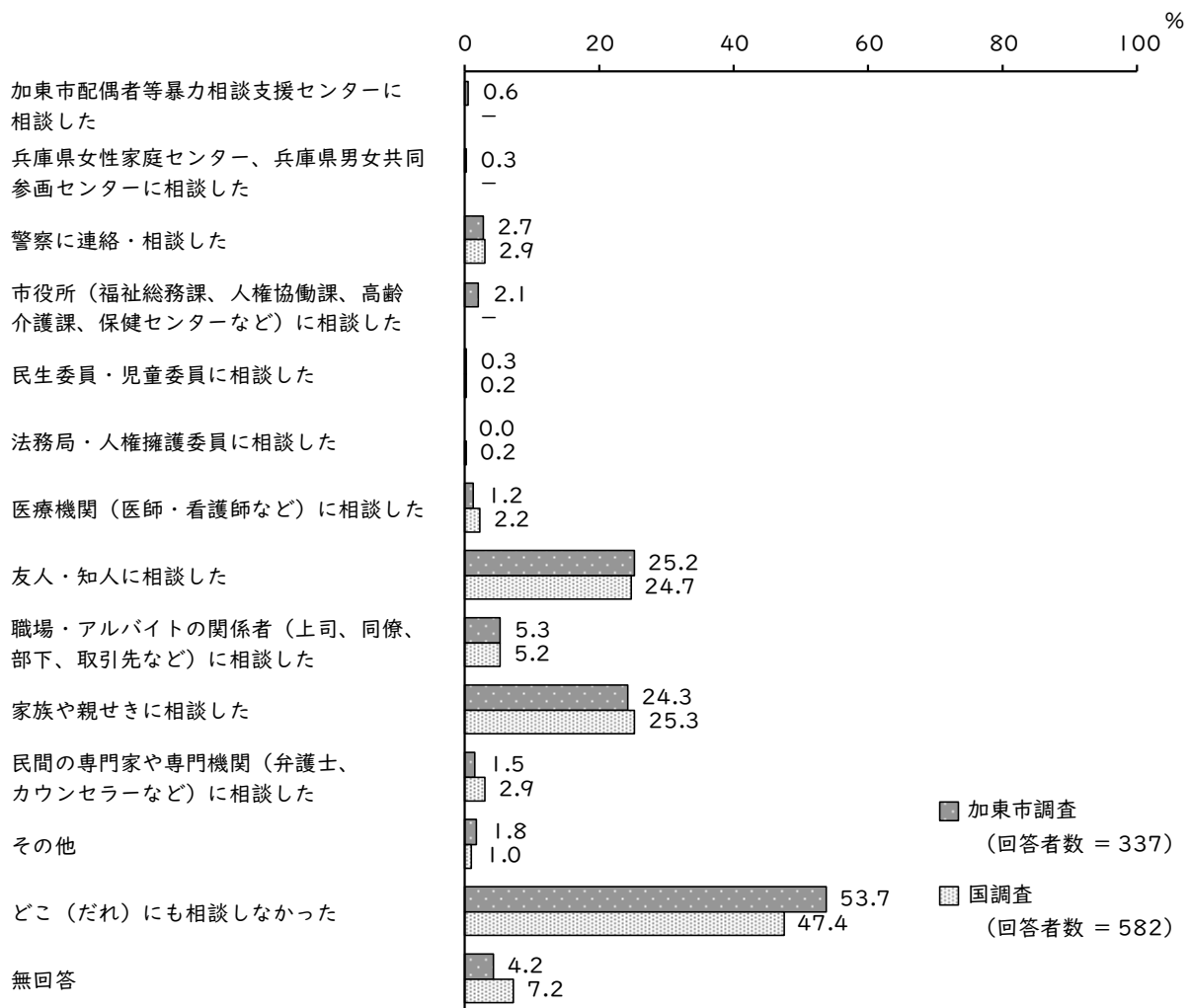
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※平成29年度調査には「民生委員・児童委員に相談した」「職場・アルバイトの関係者（上司、同僚、部下、取引先など）に相談した」の選択肢はありません。

【国調査との比較】

国調査と比較すると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が高くなっています。



※国調査には「加東市配偶者等暴力相談支援センターに相談した」「兵庫県女性家庭センター、兵庫県男女共同参画センターに相談した」「市役所（福祉総務課、人権協働課、高齢介護課、保健センターなど）に相談した」の選択肢はありません。

【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「友人・知人に相談した」「家族や親せきに相談した」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	加東市配偶者等暴力相談支援センターに相談した	兵庫県女性家庭センター、兵庫県男女共同参画センターに相談した	警察に連絡・相談した	市役所（福祉総務課、人権協働課、高齢介護課、保健センターなど）に相談した	民生委員・児童委員に相談した	法務局・人権擁護委員に相談した	医療機関（医師・看護師など）に相談した
女性	228	0.4	0.4	3.5	3.1	0.4	-	0.9
男性	98	-	-	1.0	-	-	-	2.0

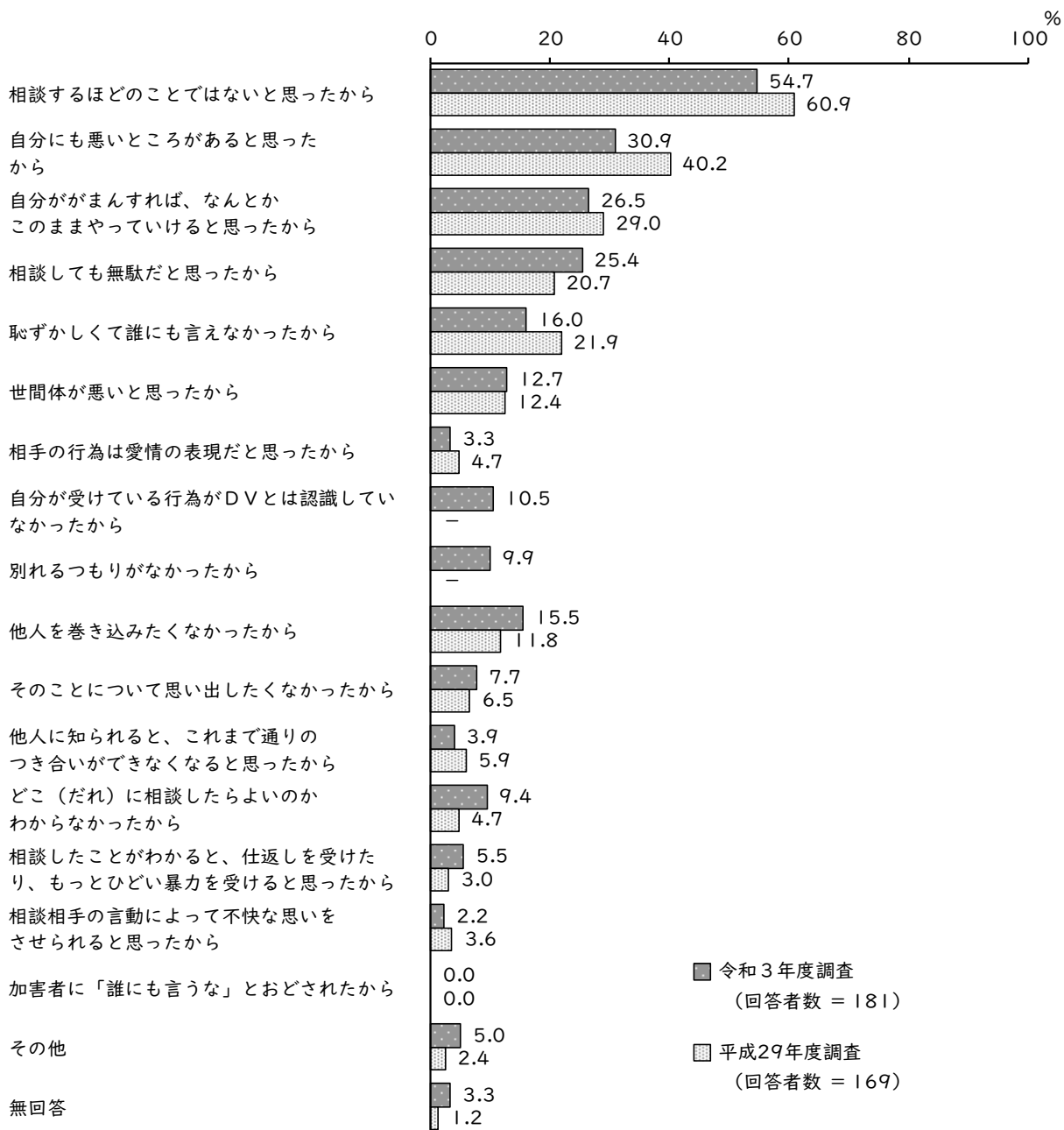
区分	友人・知人に相談した	職場・アルバイトの関係者（上司、同僚、部下、取引先など）に相談した	家族や親せきに相談した	民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラーなど）に相談した	その他	どこ（だれ）にも相談しなかった	無回答
女性	27.6	5.7	30.3	1.8	0.4	48.7	3.9
男性	19.4	4.1	8.2	1.0	4.1	66.3	5.1

【10で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします】

11 相談しなかったのはなぜですか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が54.7%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」の割合が30.9%、「自分がかまさんすれば、なんとかこのままやっていけるといったから」の割合が26.5%となっています。

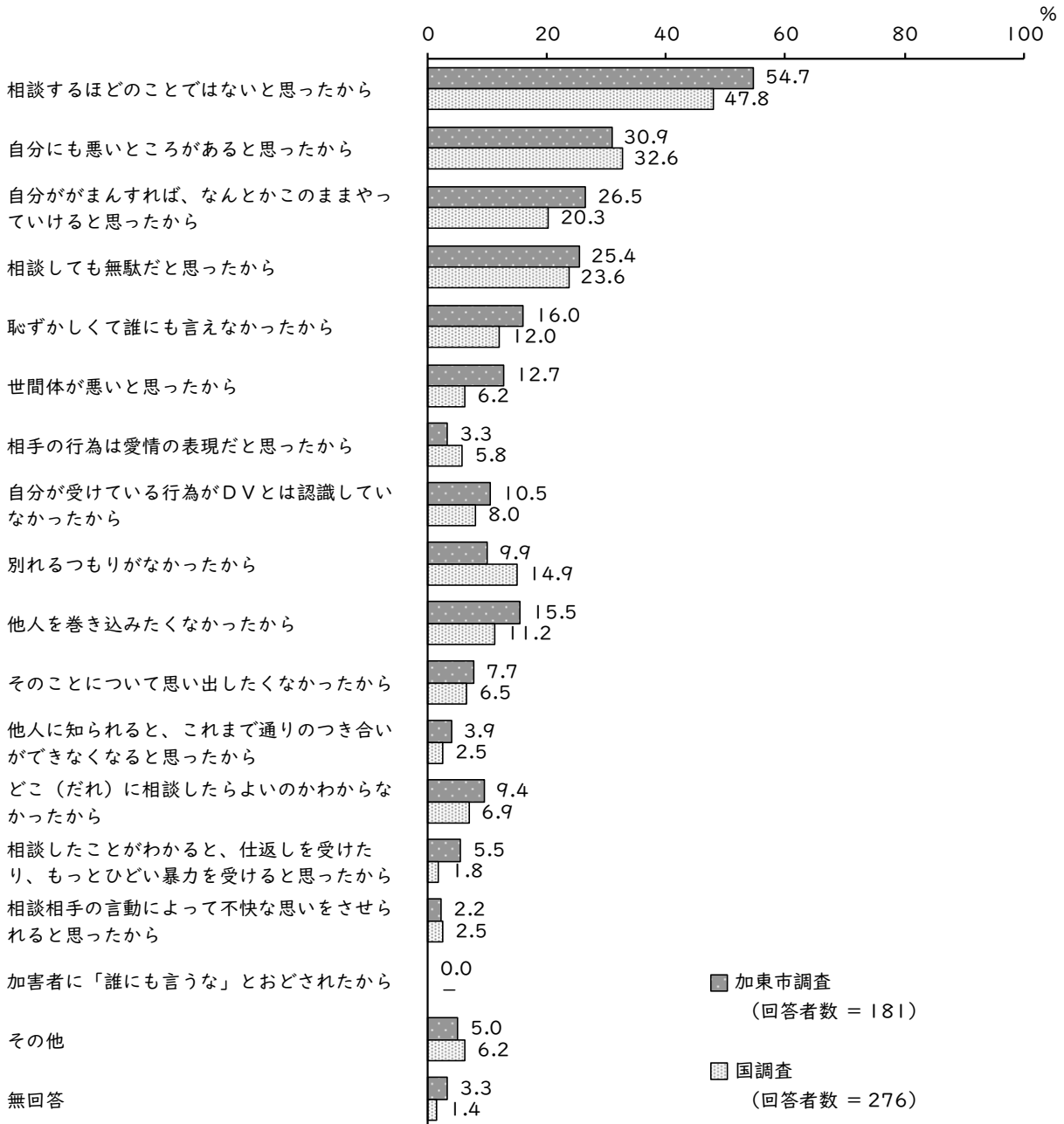
平成29年度調査と比較すると、「相談するほどのことではないと思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」の割合が減少しています。



※平成29年度調査には「自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから」「別れるつもりがなかったから」の選択肢はありませんでした。

【国調査との比較】

国調査と比較すると、「相談するほどのことではないと思ったから」「自分がかまさんすれば、なんとかこのままやっているとあったから」「世間体が悪いと思ったから」の割合が高く、「別れるつもりがなかったから」の割合が低くなっています。



※国調査には「加害者に「誰にも言うな」とおどされたから」の選択肢はありません。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「相談するほどのことではないと思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」「自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから」の割合が高くなっています。

単位：%

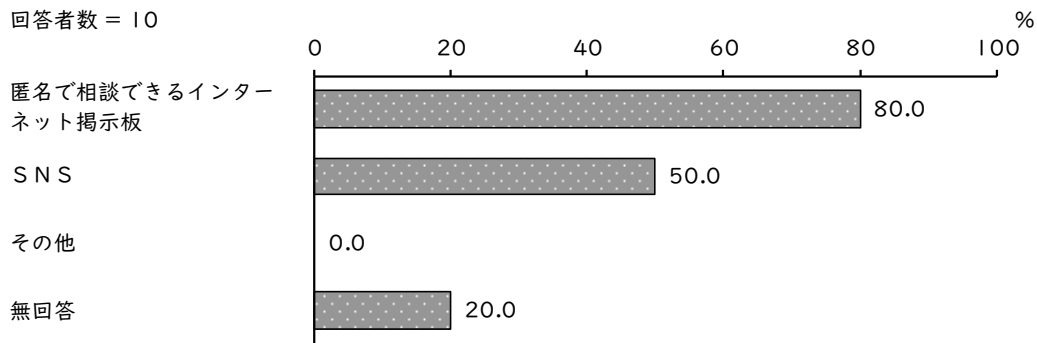
区分	回答者数(件)	相談するほどのことではないと思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	自分がかまわずに、なんともこのままやっていたかと思っただから	相談しても無駄だと思ったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	世間体が悪いと思ったから	相手の行為は愛情の表現だと思ったから	自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから	別れるつもりがなかったから
女性	111	49.5	24.3	26.1	25.2	17.1	11.7	1.8	7.2	9.9
男性	65	63.1	41.5	24.6	26.2	15.4	13.8	4.6	15.4	10.8

区分	他人を巻き込みたくなかったから	そのことについて思い出しにくかったから	他人に知られると、これまで通りのつき合いができなくなると思ったから	どこ(だれ)に相談したらよいかわからなかったから	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから	相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	加害者に「誰にも言うな」とおどされたから	その他	無回答
女性	16.2	9.0	2.7	9.0	6.3	1.8	-	5.4	2.7
男性	15.4	6.2	6.2	10.8	4.6	3.1	-	4.6	4.6

【11で「相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから」「加害者に「誰にも言うな」とおどされたから」と回答した方にお聞きします】

12 どのような相談先があれば、相談する事が出来ると思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「匿名で相談できるインターネット掲示板」の割合が80.0%、「SNS」の割合が50.0%となっています。

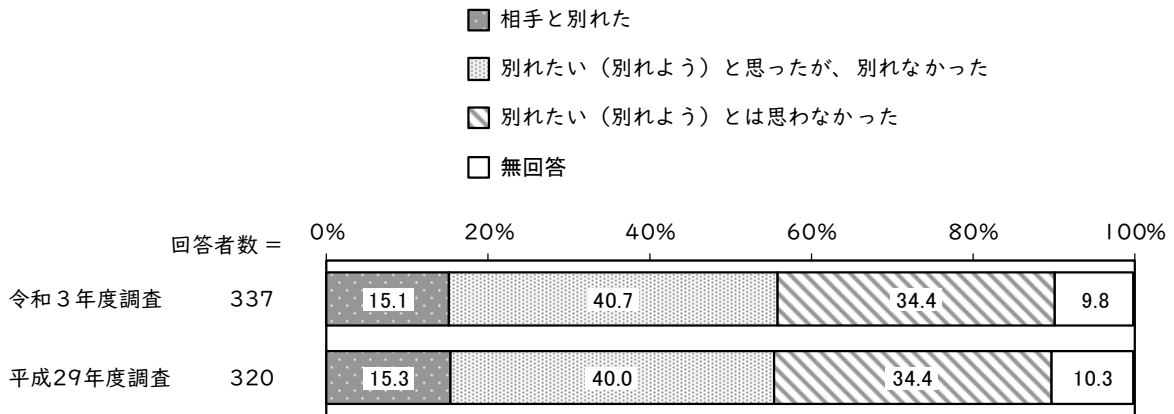


【配偶者や交際相手から、8のA～Eの行為をうけたことがある方すべてにお聞きします。】

13 あなたは、相手からそのような行為を最初に受けたとき、どうしましたか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

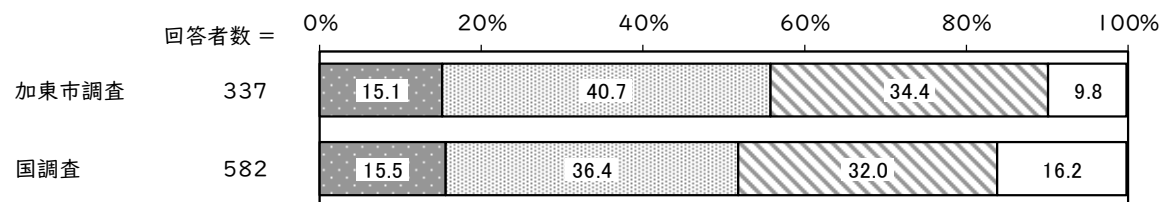
「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」の割合が40.7%と最も高く、次いで「別れたい（別れよう）とは思わなかった」の割合が34.4%、「相手と別れた」の割合が15.1%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



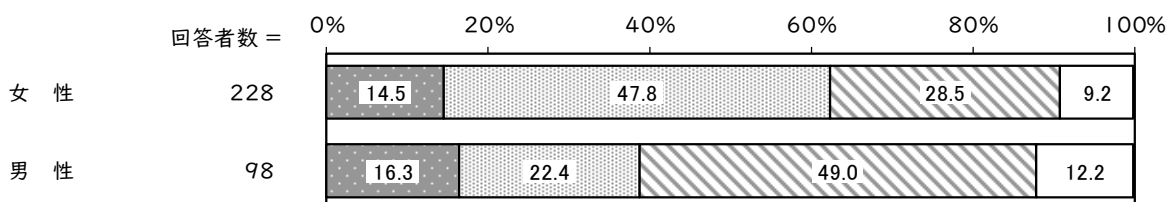
【国調査との比較】

国調査と比較すると、大きな差異はみられません。



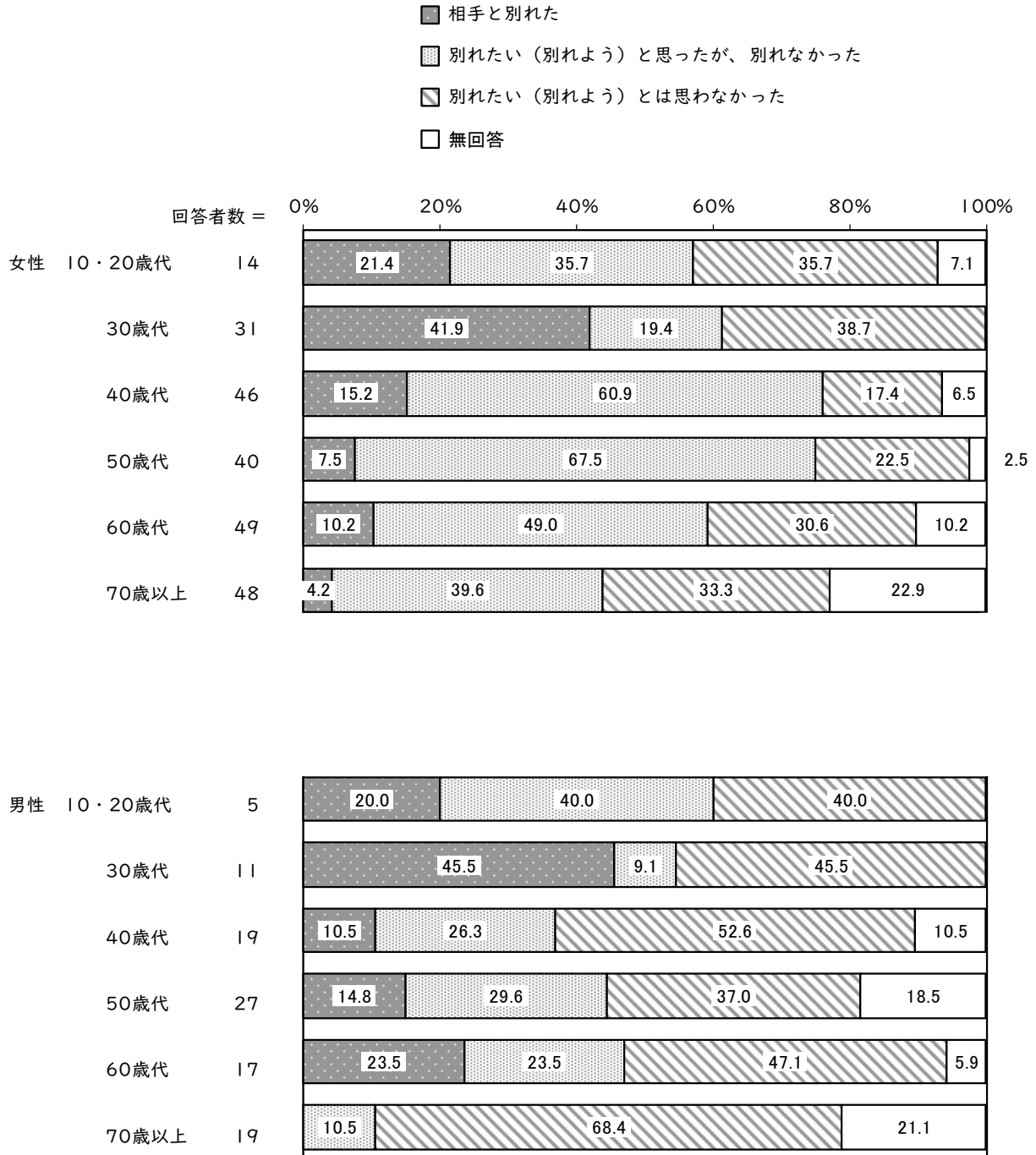
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「別れたい（別れよう）とは思わなかった」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

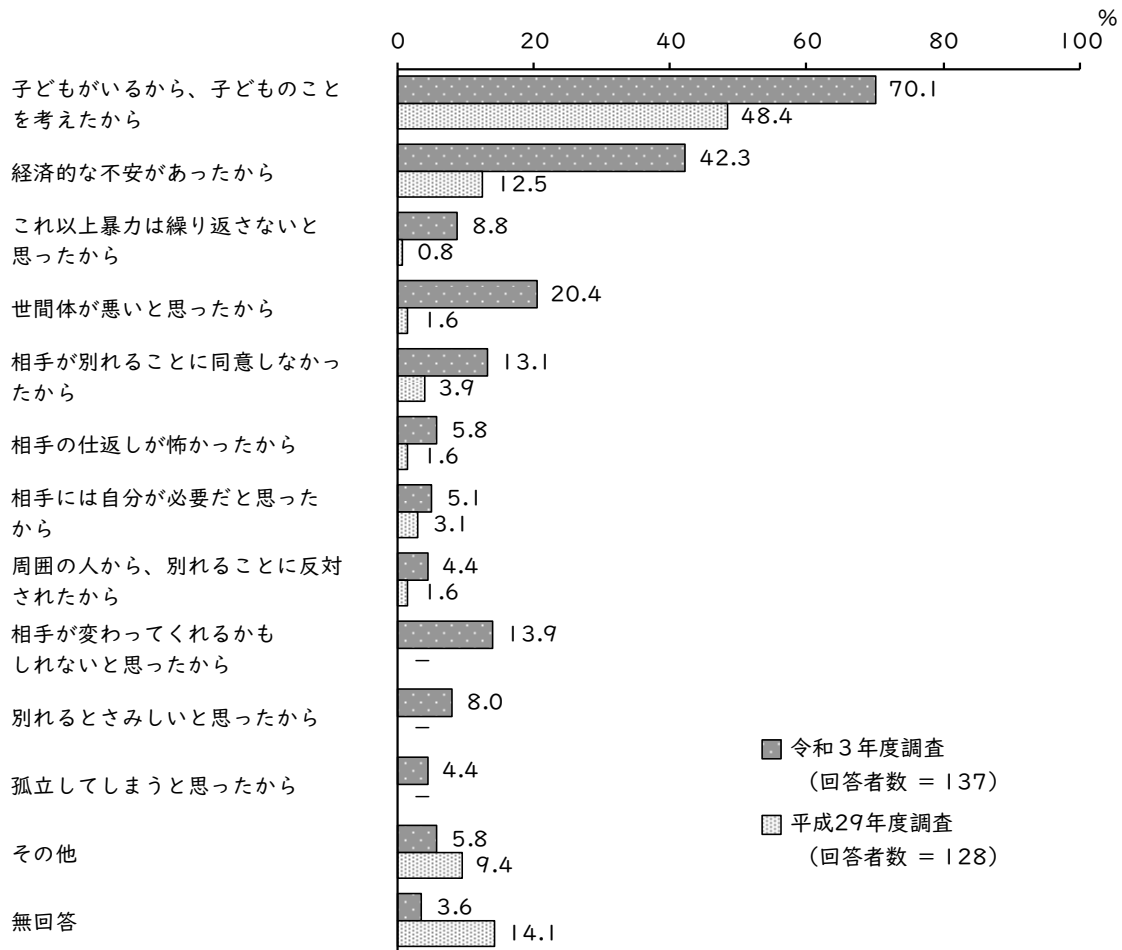
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の30歳代、男性の30歳代で「相手と別れた」の割合が高くなっています。また、女性の50歳代で「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」の割合が、男性の70歳以上で「別れたい（別れよう）とは思わなかった」の割合が高くなっています。



14 あなたが、相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか。次の中から3つ選んで番号に○をつけてください。

「子どもがいるから、子どものことを考えたから」の割合が70.1%と最も高く、次いで「経済的な不安があったから」の割合が42.3%、「世間体が悪いと思ったから」の割合が20.4%となっています。

平成29年度調査との比較は、回答数が異なるため参考とします。

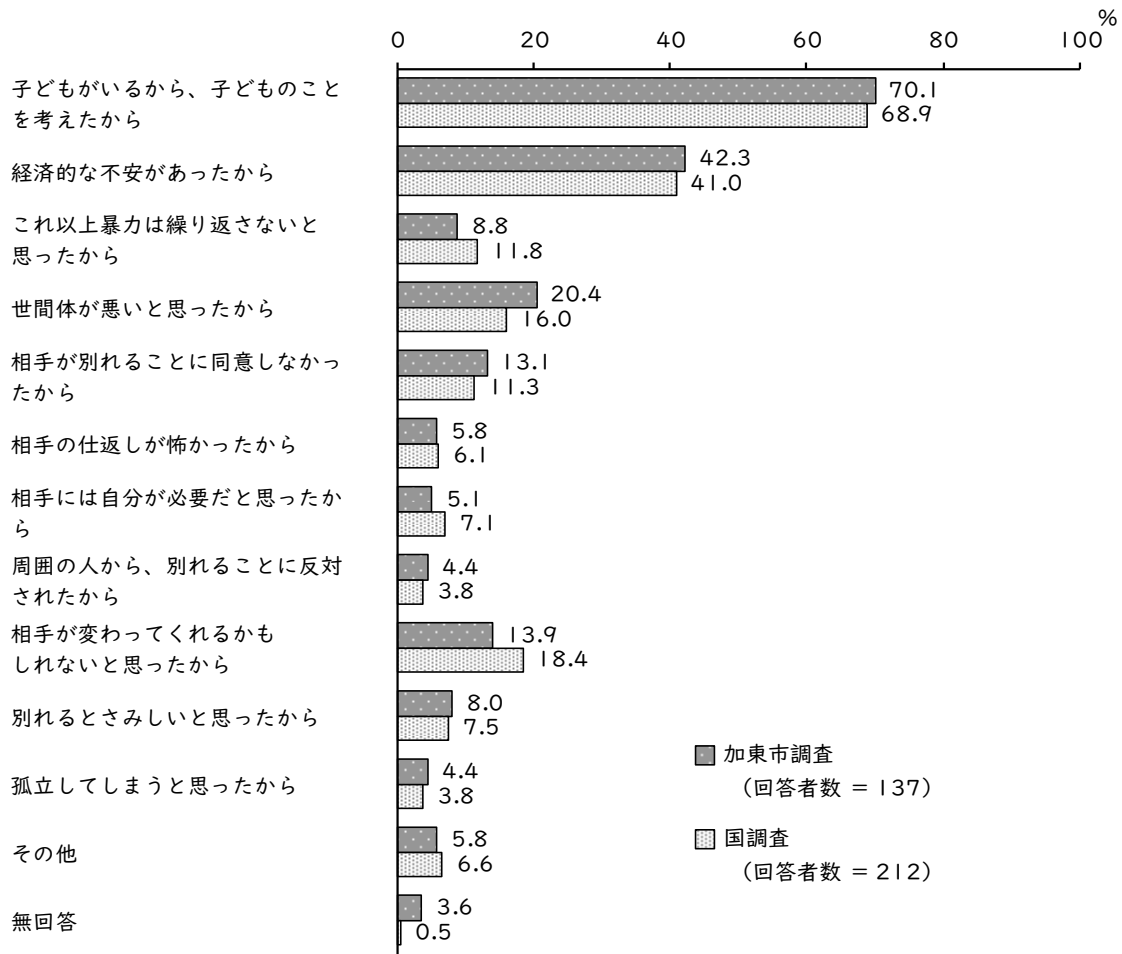


※平成29年度調査では単数回答の設問でした。

※平成29年度調査には「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」「別れるとさみしいと思ったから」「孤立してしまうと思ったから」の選択肢はありませんでした。

【国調査との比較】

国調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「子どもがいるから、子どものことを考えたから」「経済的な不安があったから」「これ以上暴力は繰り返さないと思ったから」「世間体が悪いと思ったから」「周囲の人から、別れることに反対されたから」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「相手が別れることに同意しなかったから」「相手の仕返しが怖かったから」「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」「別れるとさみしいと思ったから」「孤立してしまうと思ったから」の割合が高くなっています。

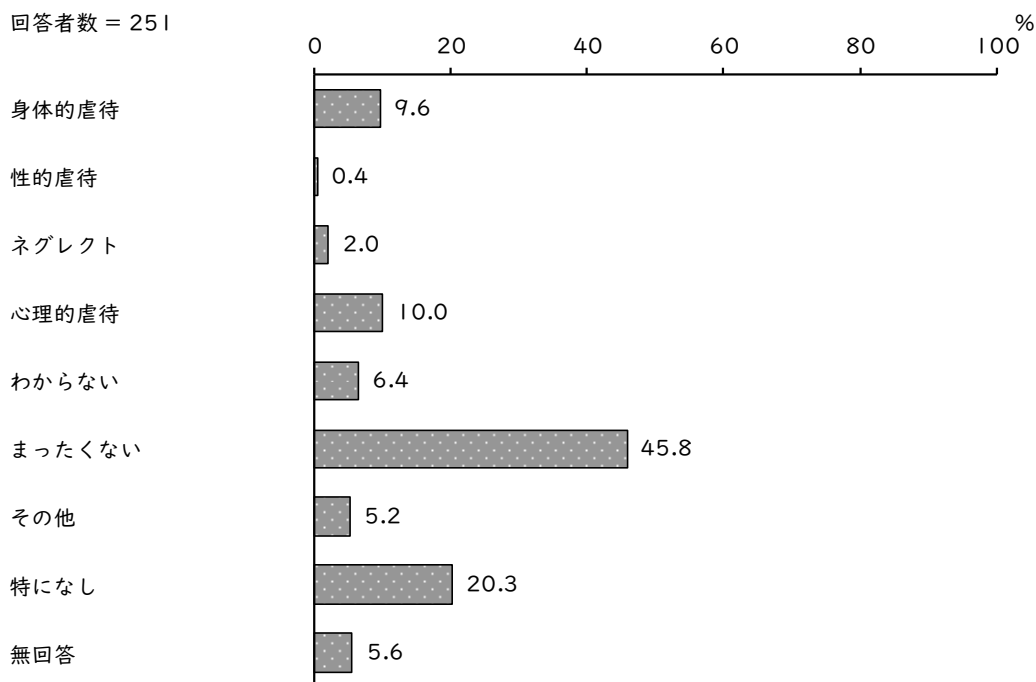
単位：%

区分	回答者数(件)	子どもがいるから、子どものことを考えたから	経済的な不安があったから	これ以上暴力は繰り返さないと思ったから	世間体が悪いと思ったから	相手が別れることに同意しなかったから	相手の仕返しが怖かったから	相手には自分が必要だと思ったから	周囲の人から、別れることに反対されたから	相手が変わってくれるかもしれないと思ったから	別れるとさみしいと思ったから	孤立してしまうと思ったから	その他	無回答
女性	109	71.6	46.8	11.0	22.9	12.8	4.6	3.7	5.5	11.9	5.5	1.8	6.4	4.6
男性	22	59.1	13.6	—	13.6	18.2	13.6	4.5	—	22.7	18.2	13.6	4.5	—

【子どもがいる方にお聞きします。】

15 あなたの子どもが18歳になるまでの間に、配偶者から次のようなことをされたことがありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「まったくない」の割合が45.8%と最も高く、次いで「特になし」の割合が20.3%、「心理的虐待（例えば、言葉による脅し、無視、兄弟姉妹間での差別的扱い、子どもの目の前で家族に対して暴力をふるう、兄弟姉妹に虐待行為を行うなど）」の割合が10.0%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「心理的虐待」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「特になし」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	身体的虐待	性的虐待	ネグレクト	心理的虐待	わからない	まったくない	その他	特になし	無回答
女性	179	10.1	0.6	1.7	11.2	5.6	46.4	4.5	17.9	7.3
男性	61	8.2	—	1.6	4.9	9.8	47.5	8.2	23.0	—

【性・年齢別】

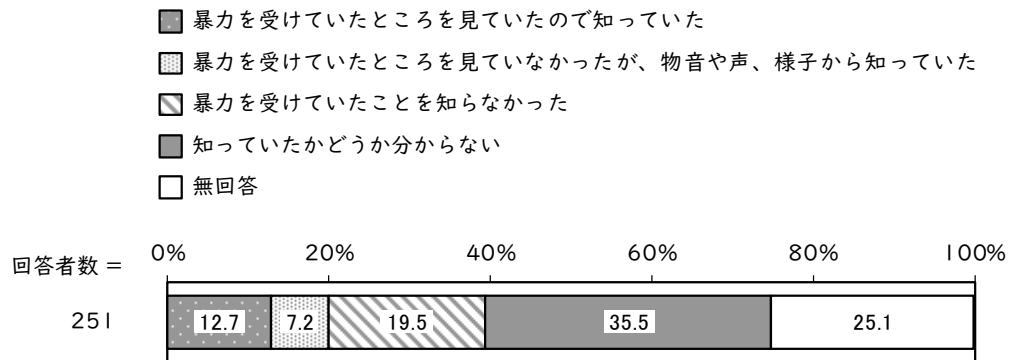
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の50歳代で「身体的虐待」「心理的虐待」の割合が高くなっています。また、男性の60歳代、70歳以上で「まったくない」の割合が高くなっています。

単位：%

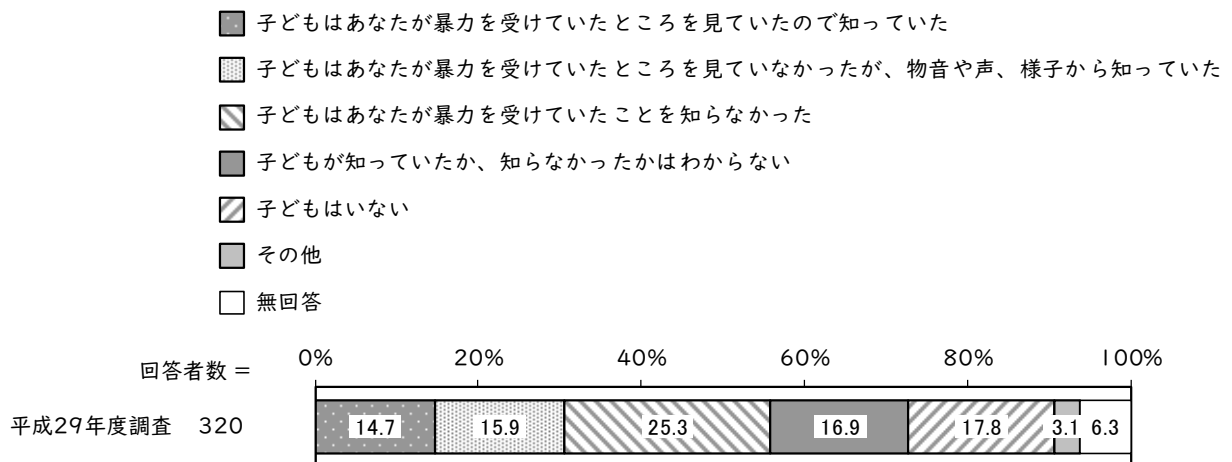
区分	回答者数 (件)	身体的虐待	性的虐待	ネグレクト	心理的虐待	わからない	まったくない	その他	特になし	無回答
女性 10・20歳代	6	-	-	-	33.3	16.7	50.0	-	-	-
30歳代	23	8.7	-	4.3	13.0	4.3	52.2	-	17.4	4.3
40歳代	38	7.9	-	-	13.2	10.5	39.5	7.9	26.3	-
50歳代	34	17.6	-	2.9	17.6	5.9	44.1	5.9	17.6	-
60歳代	38	7.9	2.6	2.6	7.9	5.3	44.7	5.3	15.8	10.5
70歳以上	40	10.0	-	-	2.5	-	52.5	2.5	15.0	20.0
男性 10・20歳代	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
30歳代	7	-	-	-	-	28.6	42.9	14.3	14.3	-
40歳代	13	7.7	-	7.7	7.7	-	38.5	15.4	30.8	-
50歳代	16	6.3	-	-	6.3	18.8	43.8	6.3	18.8	-
60歳代	12	8.3	-	-	-	8.3	58.3	-	25.0	-
70歳以上	12	8.3	-	-	8.3	-	58.3	8.3	25.0	-

16 あなたの子どもは、あなたが暴力を受けていたことを知っていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

「知っていたかどうか分からない」の割合が35.5%と最も高く、次いで「暴力を受けていたことを知らなかった」の割合が19.5%、「暴力を受けていたところを見ていたので知っていた」の割合が12.7%となっています。



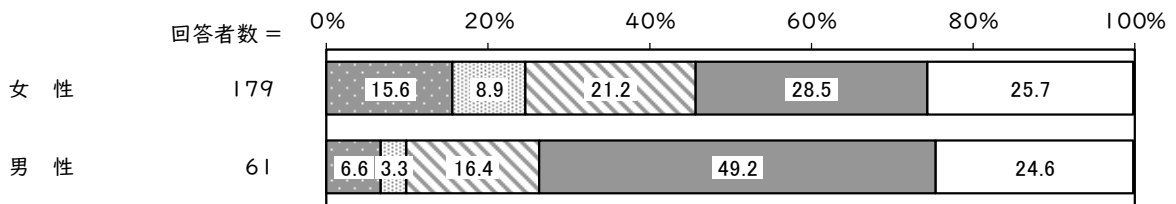
【平成29年度調査（参考）】



【性別】

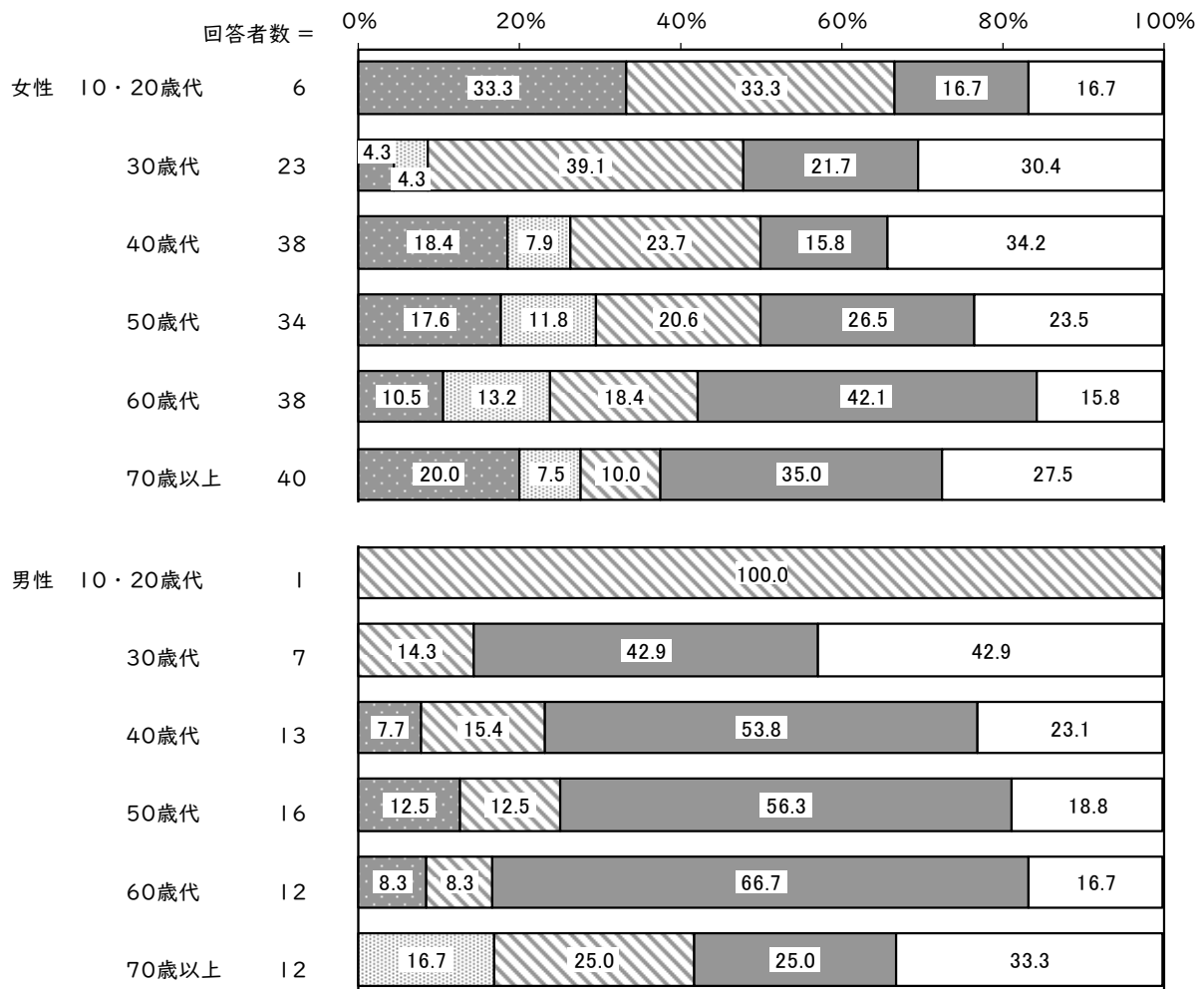
性別でみると、男性に比べ、女性で「暴力を受けていたところを見ていたので知っていた」「暴力を受けていたところを見ていなかったが、物音や声、様子から知っていた」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「知っていたかどうか分からない」の割合が高く、約5割となっています。

- 暴力を受けていたところを見ていたので知っていた
- 暴力を受けていたところを見ていなかったが、物音や声、様子から知っていた
- 暴力を受けていたことを知らなかった
- 知っていたかどうか分からない
- 無回答



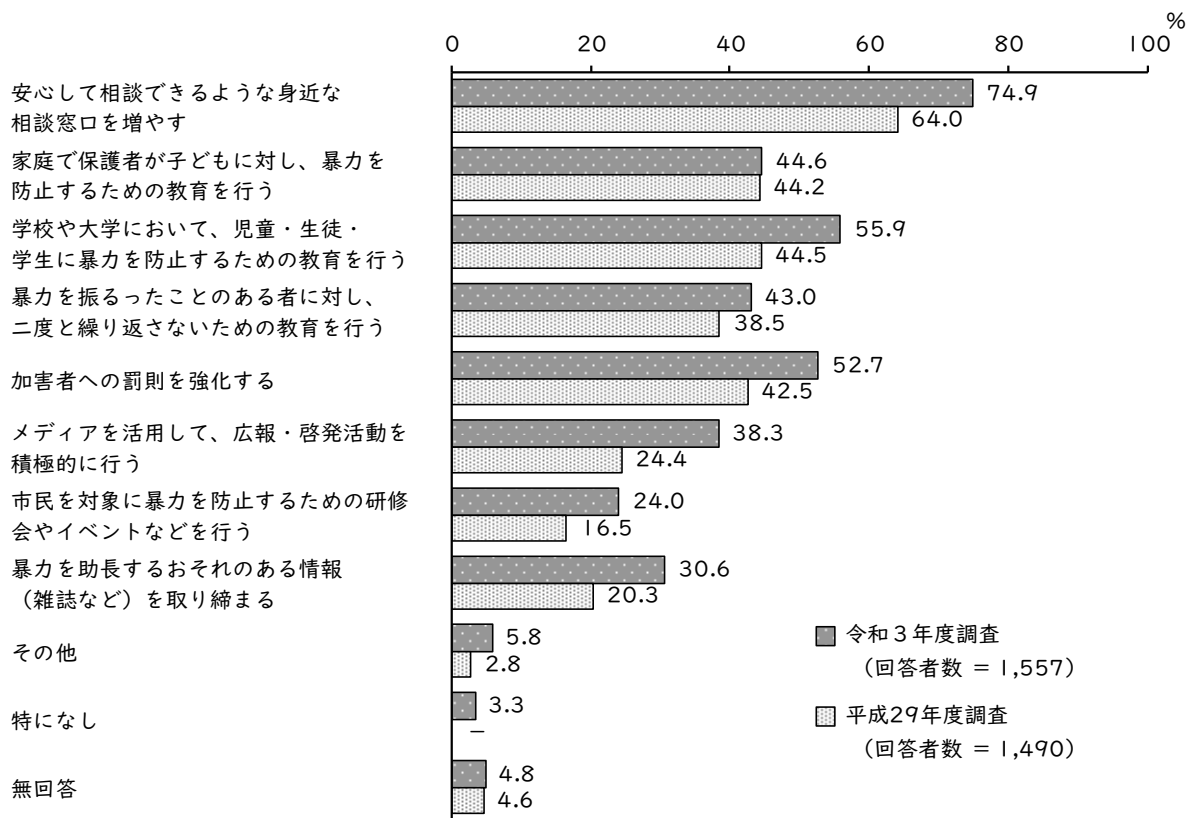
【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性の40歳代、50歳代、70歳以上で「暴力を受けていたところを見ていたので知っていた」の割合が高くなっています。また、女性の30歳代で「暴力を受けていたことを知らなかった」の割合が、男性の60歳代で「知っていたかどうか分からない」の割合が高くなっています。



17 あなたは、配偶者や交際相手との間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「安心して相談できるような身近な相談窓口を増やす」の割合が74.9%と最も高く、次いで「学校や大学において、児童・生徒・学生に暴力を防止するための教育を行う」の割合が55.9%、「加害者への罰則を強化する」の割合が52.7%となっています。



※平成29年度調査には「特になし」の選択肢はありませんでした。

【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。

単位：％

区分	回答者数(件)	安心して相談できるような身近な相談窓口を増やす	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	学校や大学において、児童・生徒・学生に暴力を防止するための教育を行う	暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	加害者への罰則を強化する	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	市民を対象に暴力を防止するための研修会やイベントなどを行う	暴力を助長するおそれのある情報(雑誌など)を取り締まる	その他	特になし	無回答
女性	850	76.9	45.3	56.4	43.1	52.7	36.4	22.9	31.5	5.3	1.8	5.1
男性	663	73.2	44.5	56.1	43.9	53.5	40.9	24.6	29.1	6.5	5.1	4.2

【年齢別】

年齢別でみると、年齢が低くなるにつれ「加害者への罰則を強化する」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、10歳代で「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」「学校や大学において、児童・生徒・学生に暴力を防止するための教育を行う」「暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」「メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	安心して相談できるような身近な相談窓口を増やす	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	学校や大学において、児童・生徒・学生に暴力を防止するための教育を行う	暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	加害者への罰則を強化する	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	市民を対象に暴力を防止するための研修会やイベントなどを行う	暴力を助長するおそれのある情報(雑誌など)を取り締まる	その他	特になし	無回答
10歳代	22	81.8	54.5	72.7	54.5	77.3	59.1	36.4	31.8	-	-	-
20歳代	86	70.9	44.2	54.7	44.2	69.8	34.9	15.1	20.9	7.0	2.3	-
30歳代	201	74.1	48.3	59.2	51.7	63.7	34.8	15.9	19.9	8.0	3.5	2.5
40歳代	250	76.0	42.4	55.2	45.2	59.2	38.8	19.6	24.0	5.6	3.6	1.2
50歳代	272	75.4	47.4	57.7	42.3	55.5	42.3	25.4	30.9	6.3	2.6	4.0
60歳代	317	80.4	42.9	54.9	37.9	46.7	36.9	27.4	36.0	6.0	2.8	5.7
70歳以上	371	70.9	43.9	54.2	42.0	41.2	38.0	27.5	37.7	4.3	4.3	9.4

(3) 自由回答について

男女共同参画やDV（ドメスティック・バイオレンス。配偶者等からの暴力）に関するご意見やご要望について、寄せられた具体的な内容を分類すると、「相談体制について」が31件で最も多く、次いで「DV防止に向けた教育について」が27件、「支援体制づくりについて」が23件となっています。

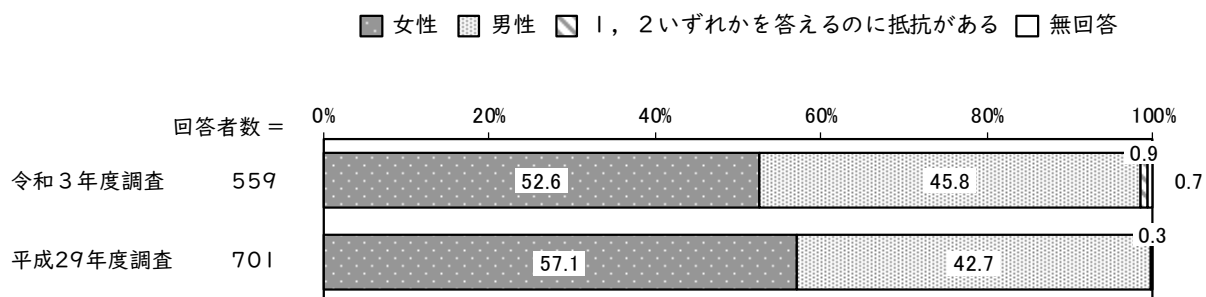
分類回答	件数
1. 相談体制について	31
2. DV防止に向けた啓発活動について	13
3. DV防止に向けた教育について	27
4. 被害者への支援について	21
5. 支援体制づくりについて	23
6. アンケートについて	9
7. その他	9

2 高校生

(1) 回答者属性

あなたの性別

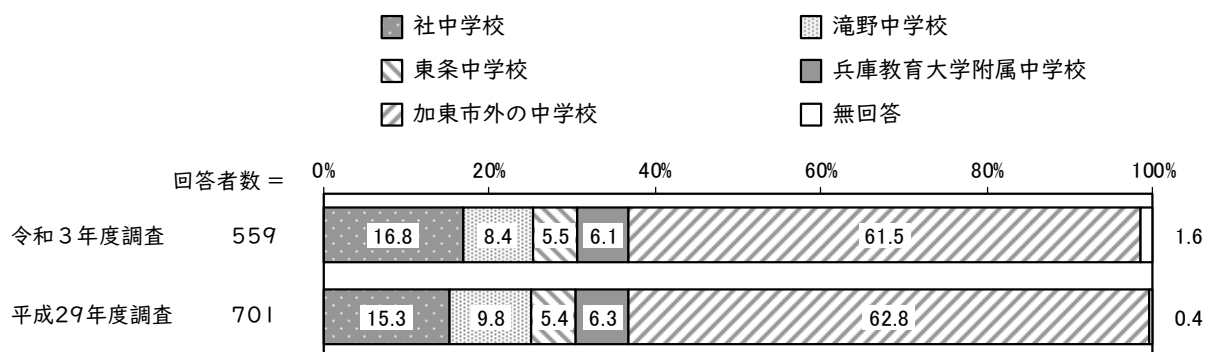
「女性」の割合が52.6%、「男性」の割合が45.8%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



あなたの出身中学校

「加東市外の中学校」の割合が61.5%と最も高く、次いで「社中学校」の割合が16.8%となっています。

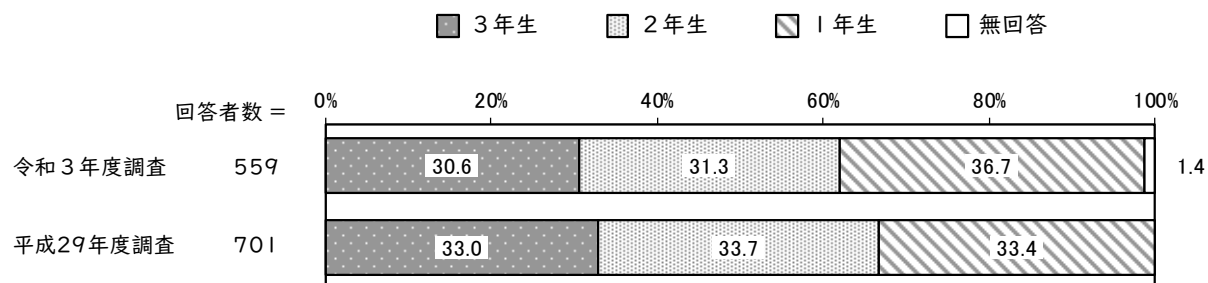
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



あなたの学年

「1年生」の割合が36.7%、次いで「2年生」の割合が31.3%、「3年生」の割合が30.6%となっています。

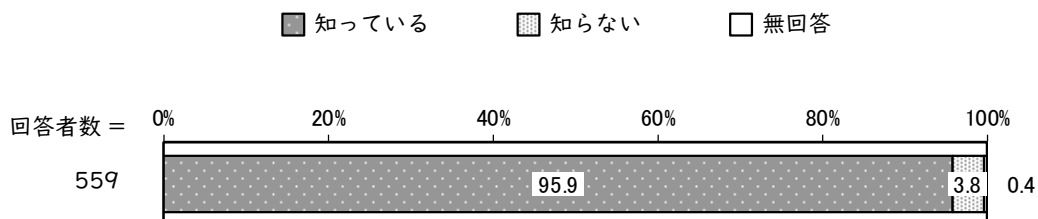
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



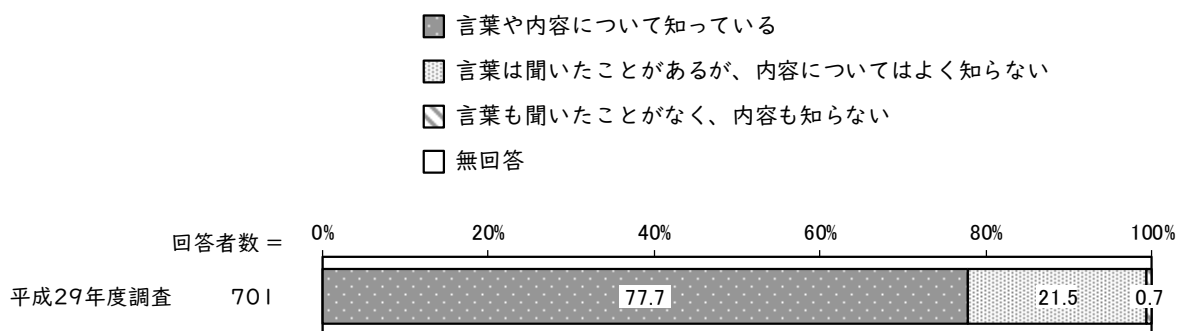
(2) デート DV (交際相手からの暴力) について

- 1 あなたは、「ドメスティック・バイオレンス (配偶者等からの暴力。以下「DV」という。)」という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

「知っている」の割合が95.9%、「知らない」の割合が3.8%となっています。

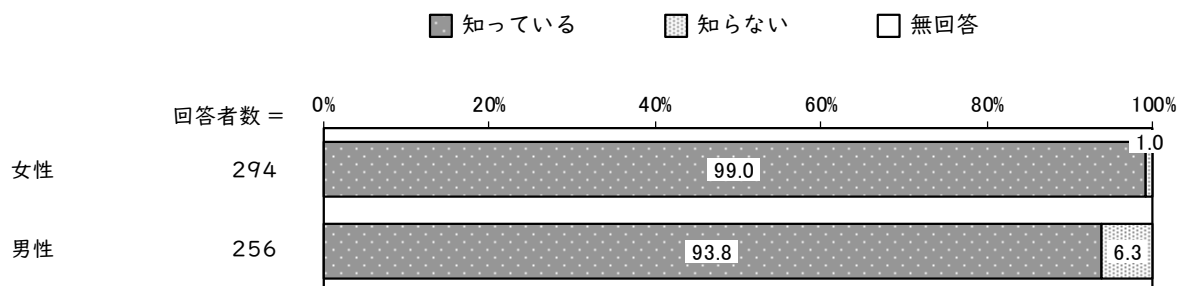


【平成29年度調査 (参考)】



【性別】

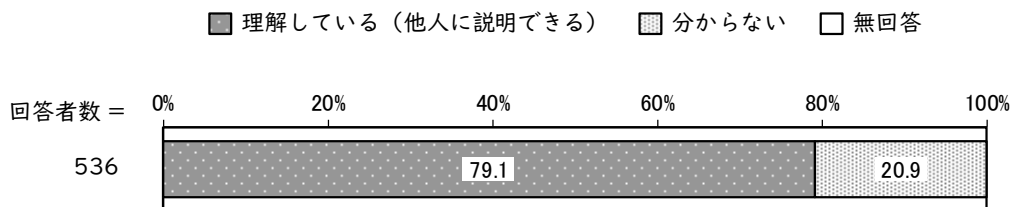
性別でみると、男性に比べ、女性で「知っている」の割合が高くなっています。



1で「知っている」と回答した方におたずねします。

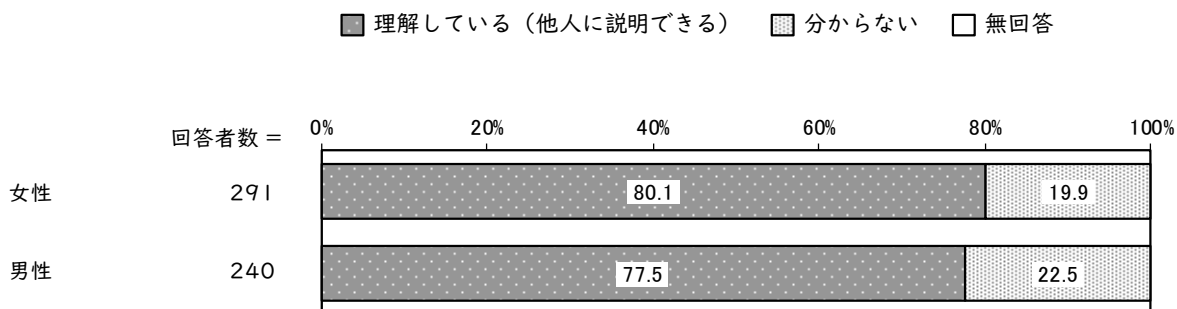
2 あなたは、「DV」の内容について理解していますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

「理解している（他人に説明できる）」の割合が79.1%、「分からない」の割合が20.9%となっています。



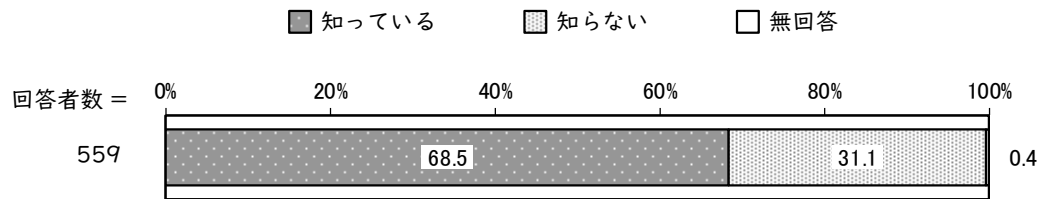
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。

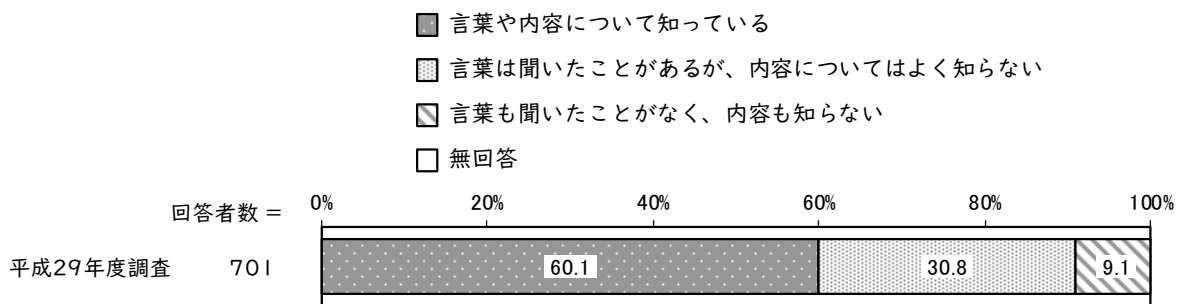


3 あなたは、「デートDV（婚姻関係のない恋人などからの暴力）」という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

「知っている」の割合が68.5%、「知らない」の割合が31.1%となっています。

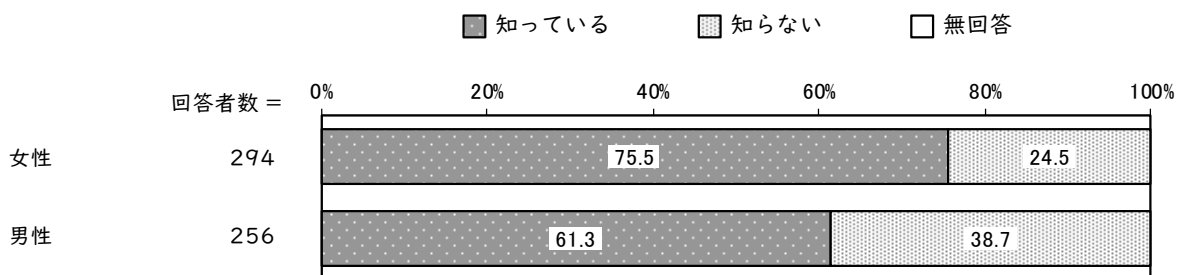


【平成29年度調査（参考）】



【性別】

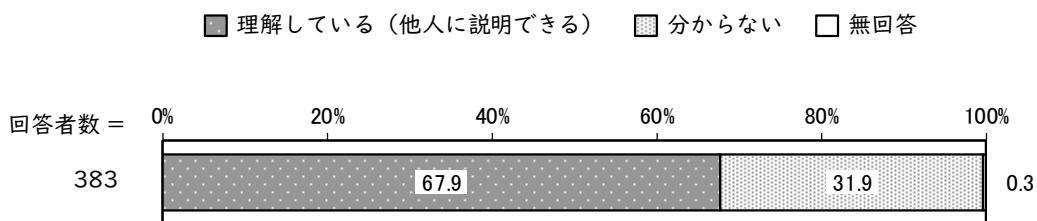
性別で見ると、男性に比べ、女性で「知っている」の割合が高くなっています。



3で「知っている」と回答した方におたずねします。

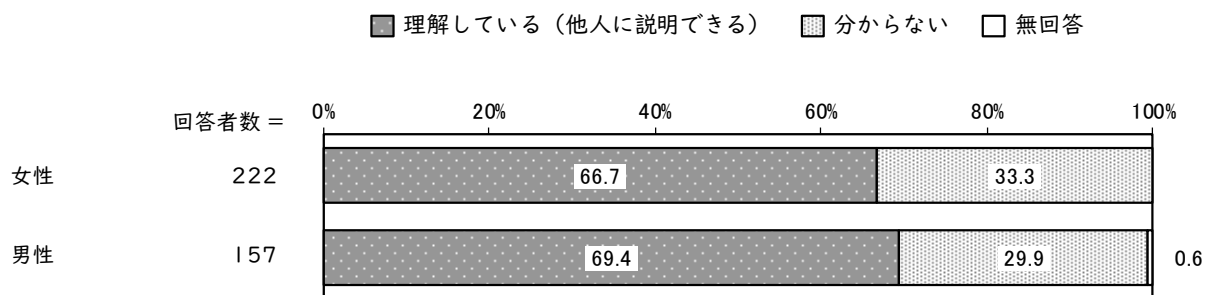
4 あなたは、「デートDV（婚姻関係のない恋人などからの暴力）」の内容について理解していますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

「理解している（他人に説明できる）」の割合が67.9%、「分からない」の割合が31.9%となっています。



【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。

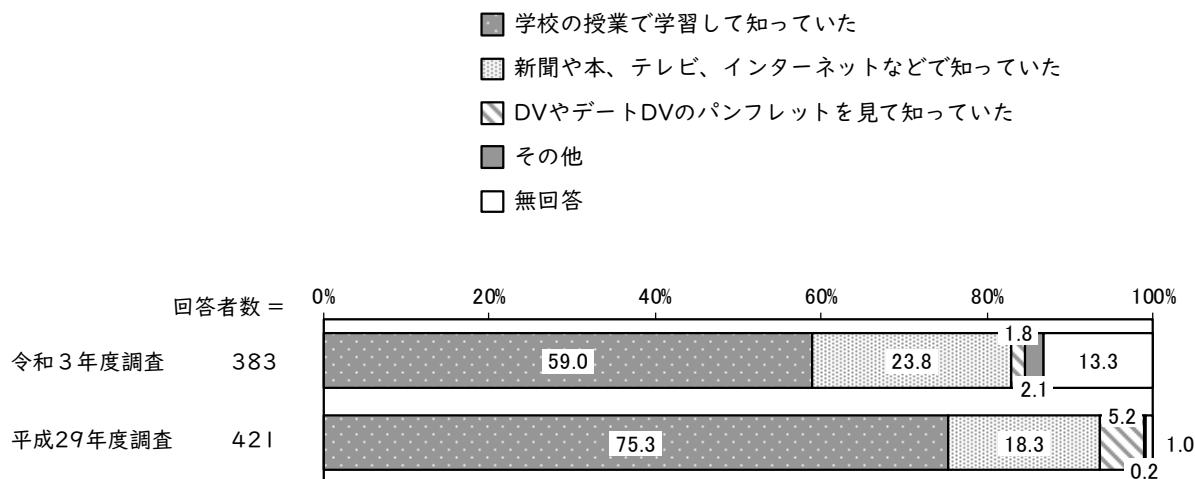


【3で「知っている」と答えた方におたずねします。】

5 あなたは、「デートDV（恋人など交際相手からの暴力）」という言葉やその内容についてどこで知りましたか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

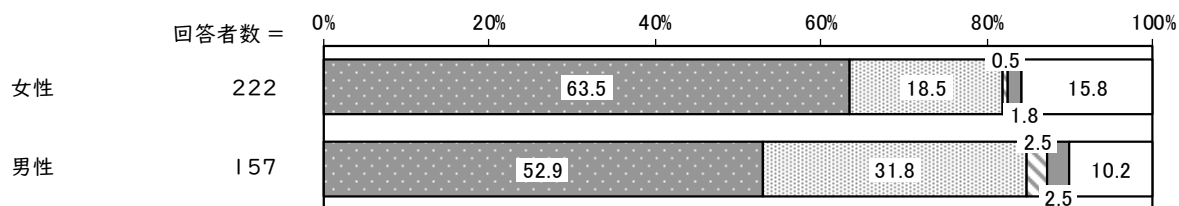
「学校の授業で学習して知っていた」の割合が59.0%と最も高く、次いで「新聞や本、テレビ、インターネットなどで知っていた」の割合が23.8%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「新聞や本、テレビ、インターネットなどで知っていた」の割合が増加しています。一方、「学校の授業で学習して知っていた」の割合が減少しています。



【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「学校の授業で学習して知っていた」の割合が、女性に比べ、男性で「新聞や本、テレビ、インターネットなどで知っていた」の割合が高くなっています。

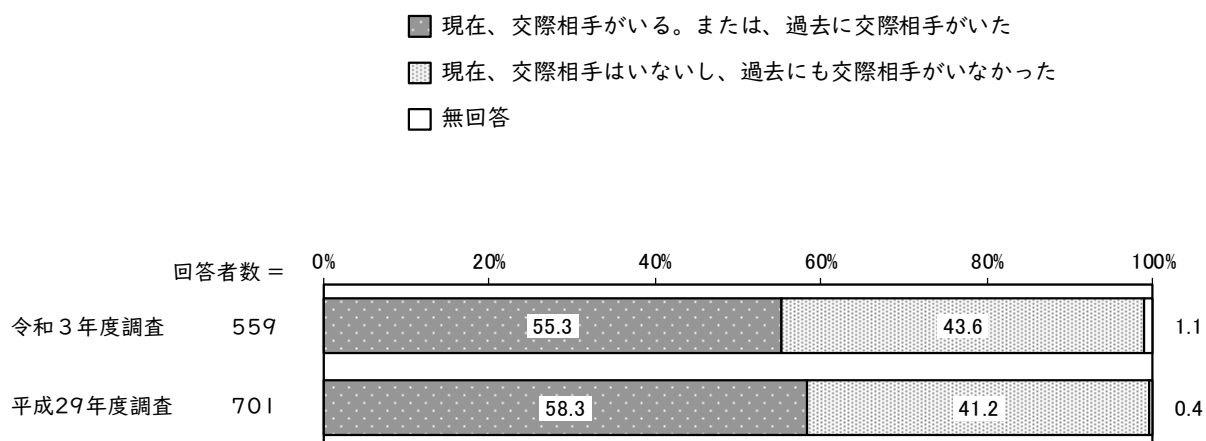


【すべての方におたずねします。】

6 あなたは、現在、交際相手がありますか。または、過去に交際相手がありましたか。

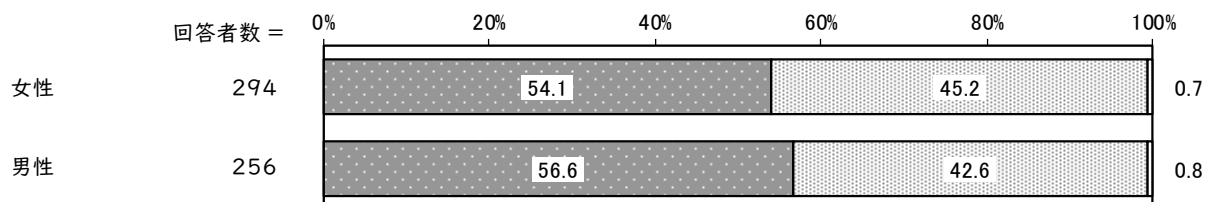
「現在、交際相手がいる。または、過去に交際相手があった」の割合が55.3%、「現在、交際相手はいないし、過去にも交際相手がいなかった」の割合が43.6%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。

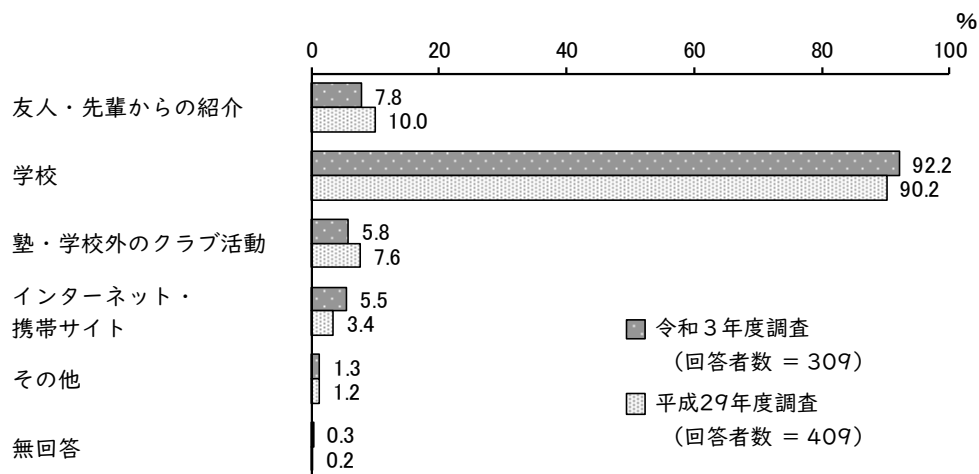


【6で「現在、交際相手がいる。または、過去に交際相手があった」と答えた方におたずねします。】

7 交際相手と出会ったきっかけを教えてください。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「学校」の割合が92.2%と最も高くなっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。

単位：%

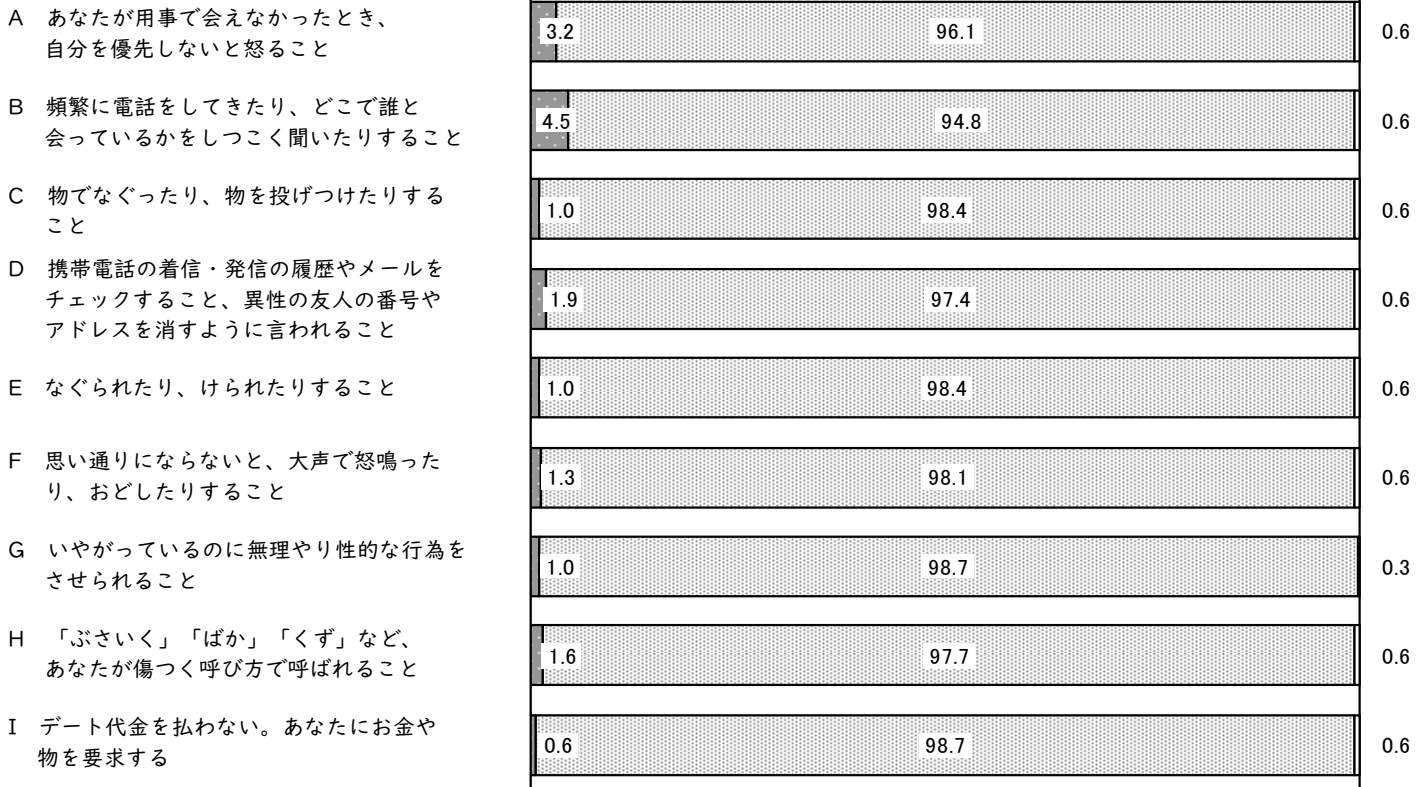
区分	回答者数(件)	友人・先輩からの紹介	学校	塾・学校外のクラブ活動	インターネット・携帯サイト	その他	無回答
女性	159	8.8	93.1	7.5	3.8	1.3	0.6
男性	145	6.2	92.4	4.1	5.5	1.4	—

8 あなたはこれまでに、交際相手から次にあげるようなことをされたことがありますか。次の中から1つずつ選んで番号に○をつけてください。

全ての項目で「ない（なかった）」の割合が9割を超えています。

■ ある（あった） □ ない（なかった） □ 無回答

回答者数 = 309

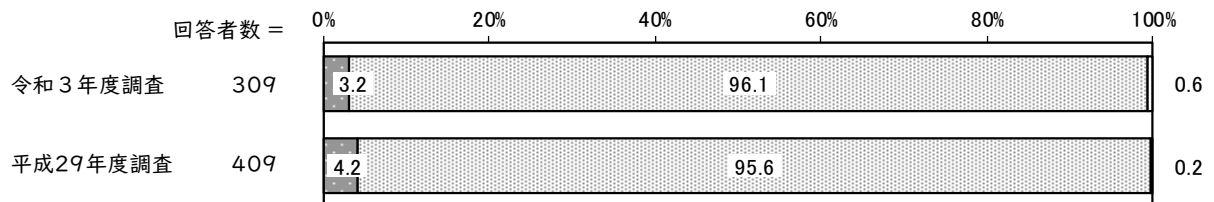


A あなたが用事で会えなかったとき、自分を優先しないと怒ること

【平成29年度調査との比較】

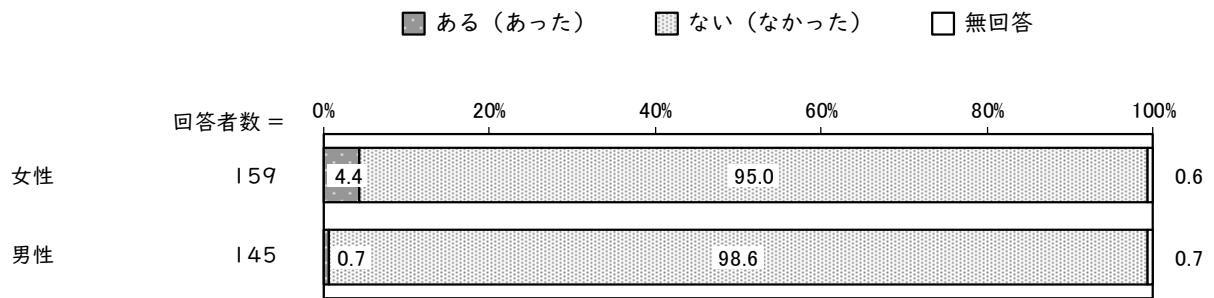
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

■ ある（あった） □ ない（なかった） □ 無回答



【性別】

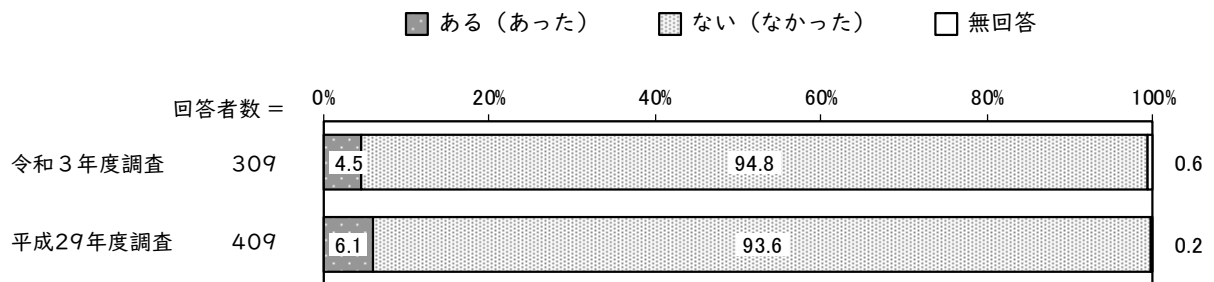
性別でみると、大きな差異はみられませんでした。



B 頻繁に電話をしてきたり、どこで誰と会っているかをしつこく聞いたりすること

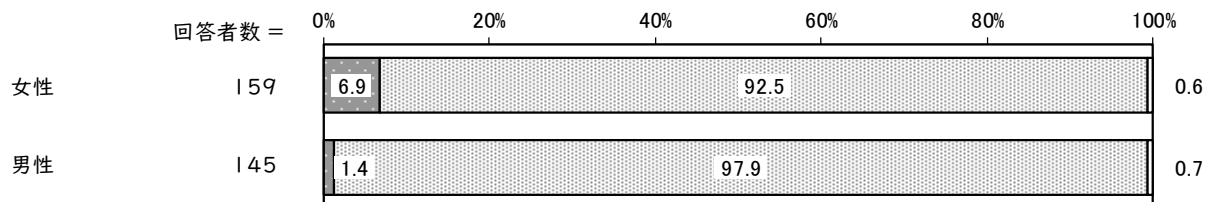
【平成29年度調査との比較】

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

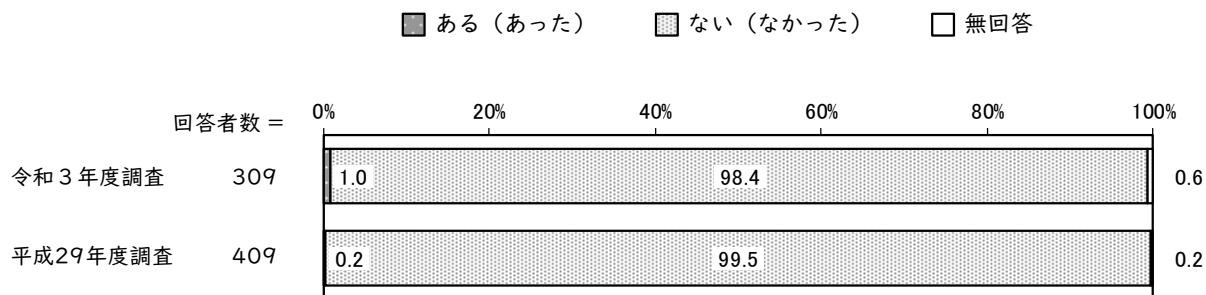
性別でみると、男性に比べ、女性で「ある（あった）」の割合が高くなっています。



C 物でなくったり、物を投げつけたりすること

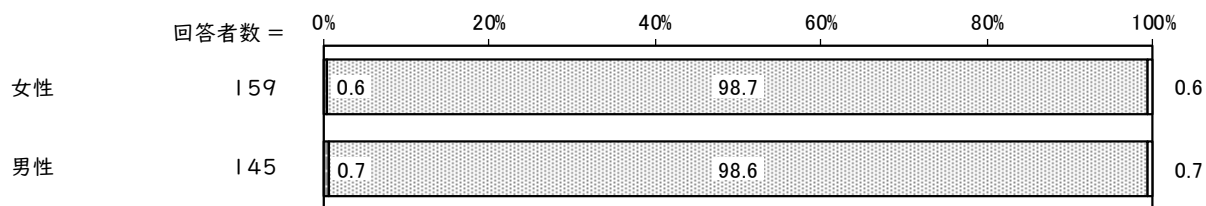
【平成 29 年度調査との比較】

平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

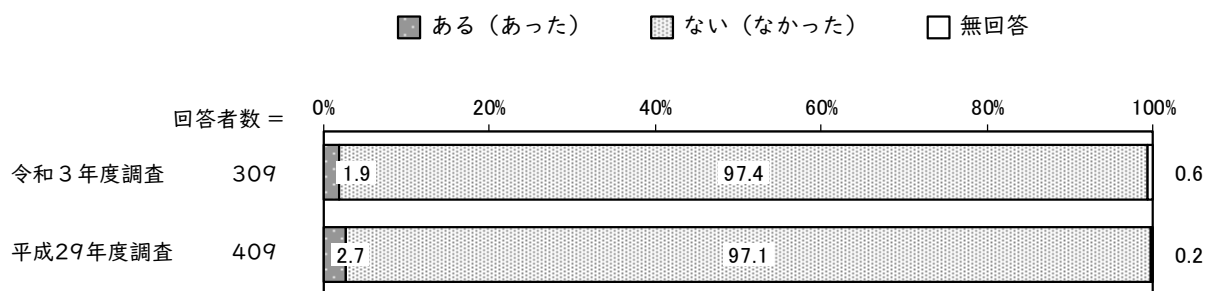
性別でみると、大きな差異はみられません。



D 携帯電話の着信・発信の履歴やメールをチェックすること、異性の友人の番号やアドレスを消すように言われること

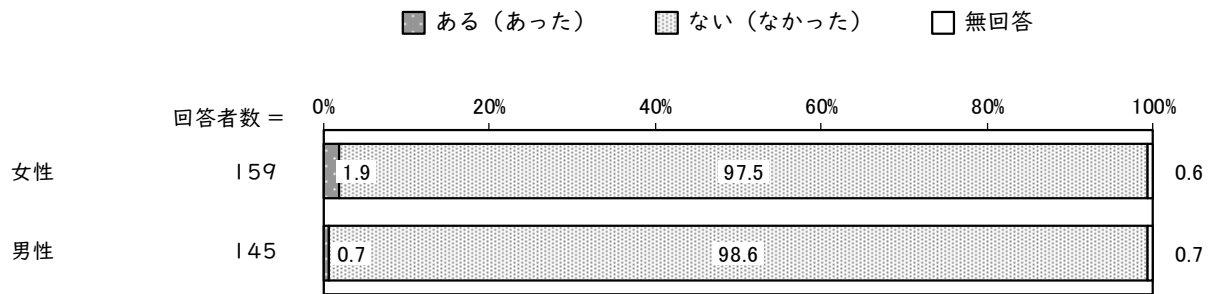
【平成 29 年度調査との比較】

平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

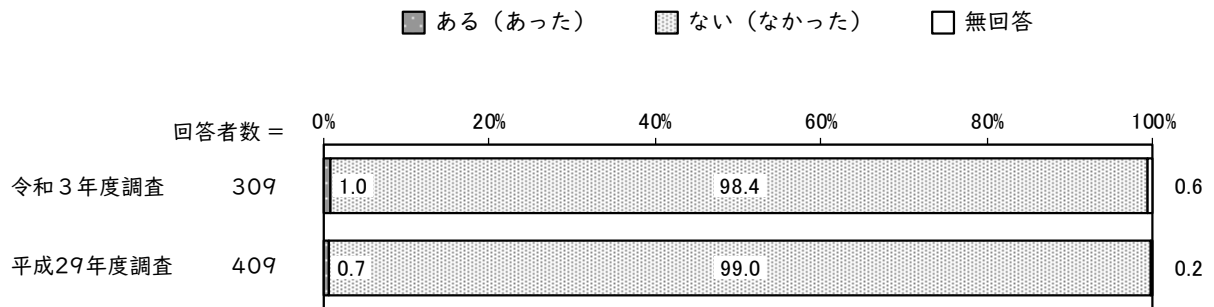
性別でみると、大きな差異はみられません。



E なぐられたり、けられたりすること

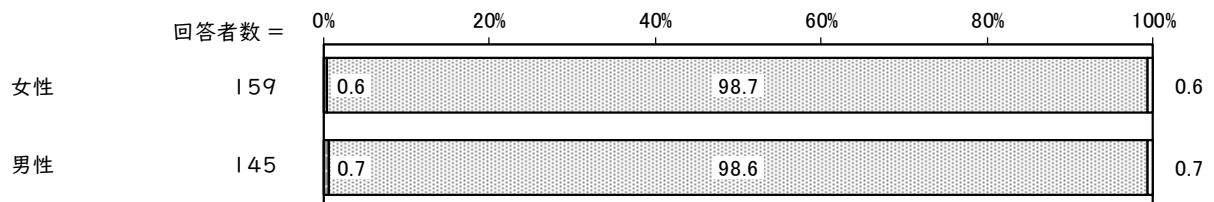
【平成29年度調査との比較】

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

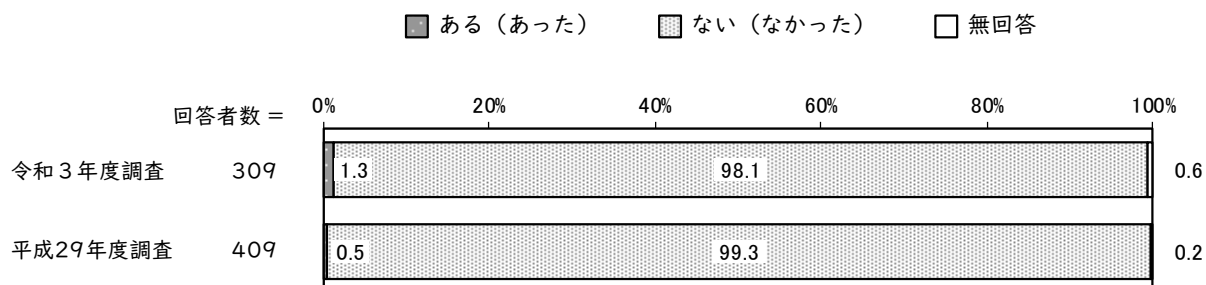
性別でみると、大きな差異はみられません。



F 思い通りにならないと、大声で怒鳴ったり、おどしたりすること

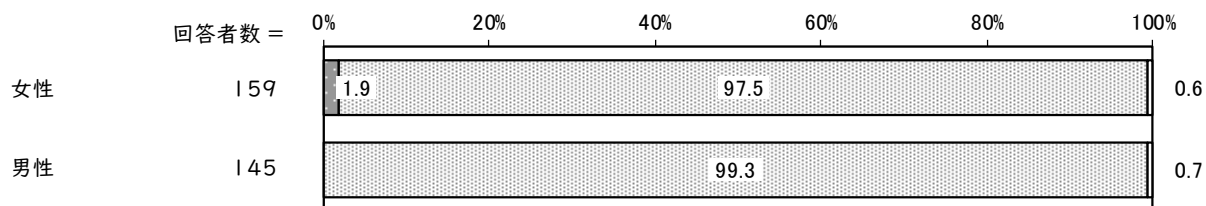
【平成 29 年度調査との比較】

平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

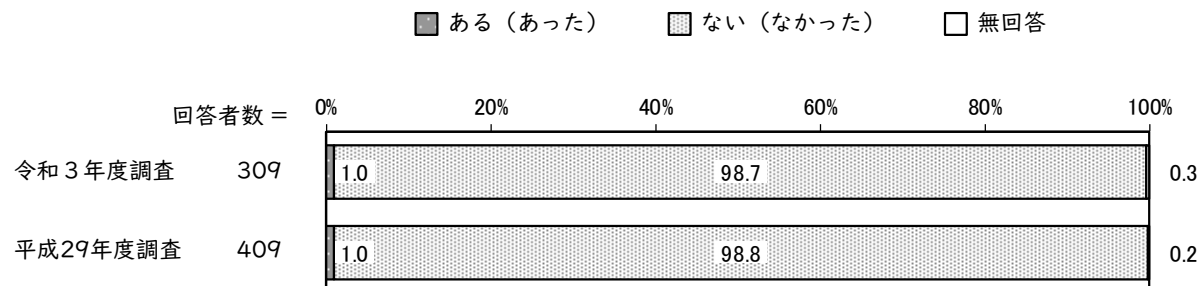
性別でみると、大きな差異はみられません。



G いやがっているのに無理やり性的な行為をさせられること

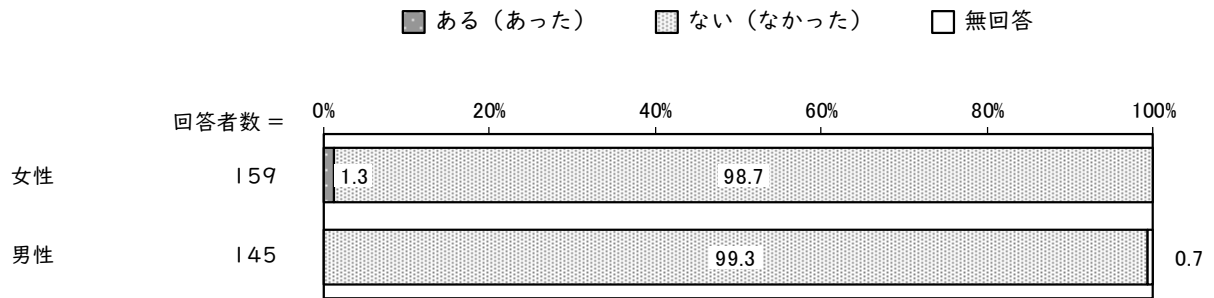
【平成 29 年度調査との比較】

平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

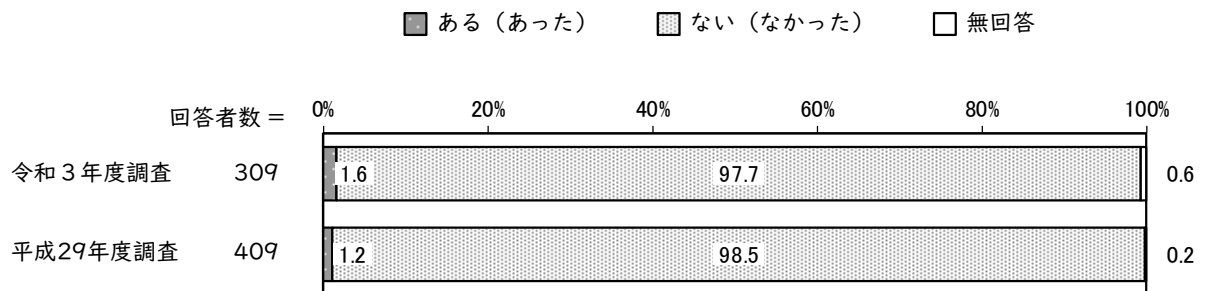
性別でみると、大きな差異はみられません。



H 「ぶさいく」「ばか」「くず」など、あなたが傷つく呼び方で呼ばれること

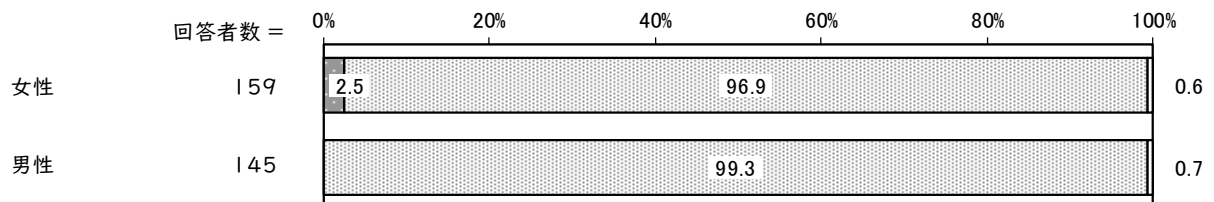
【平成29年度調査との比較】

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

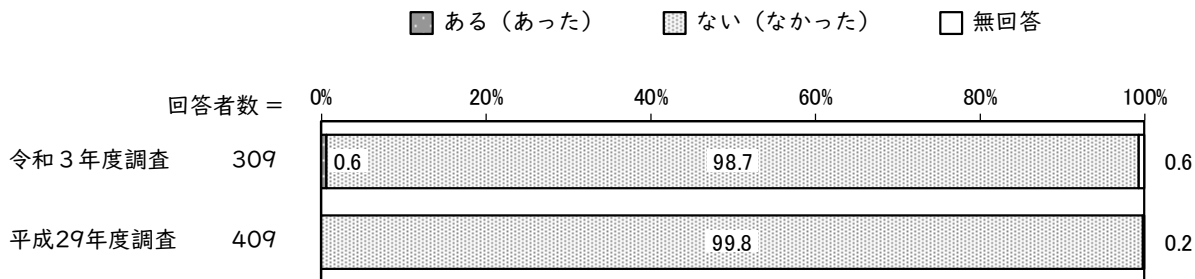
性別でみると、大きな差異はみられません。



I デート代金を払わない。あなたにお金や物を要求する

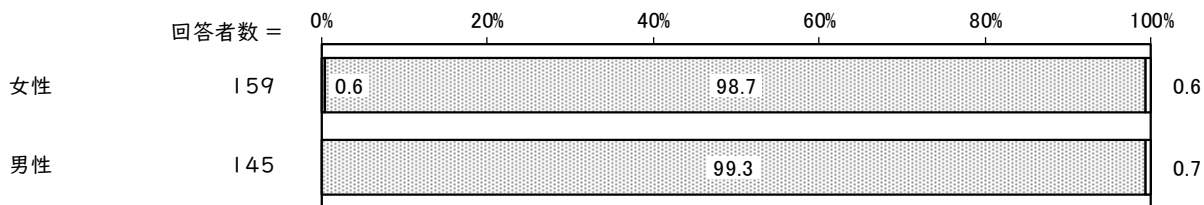
【平成 29 年度調査との比較】

平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性 別】

性別でみると、大きな差異はみられません。

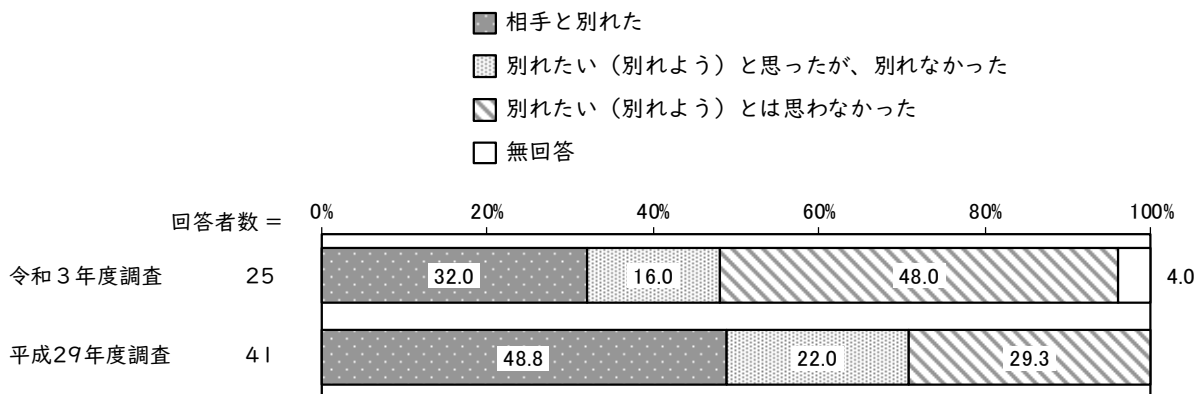


【8で1つでも「ある (あった)」と答えた方におたずねします。】

9 あなたはこれまでに、交際相手から8のような行為を受けたとき、どうしましたか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

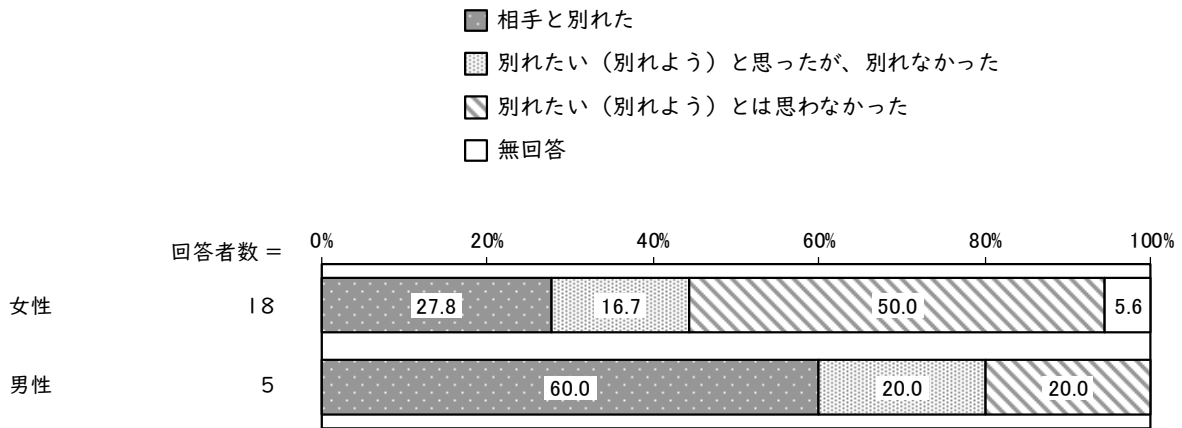
「別れたい (別れよう)とは思わなかった」の割合が48.0%と最も高く、次いで「相手と別れた」の割合が32.0%、「別れたい (別れよう)と思ったが、別れなかった」の割合が16.0%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「別れたい (別れよう)とは思わなかった」の割合が増加しています。一方、「相手と別れた」「別れたい (別れよう)と思ったが、別れなかった」の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「別れたい（別れよう）とは思わなかった」の割合が高くなっています。



【9で「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」と答えた方におたずねします。】

10 あなたが相手と別れなかった最も大きな理由はなんですか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」が2件、「相手が別れることに同意しなかったから」、「周囲の人から、別れることに反対されたから」が1件となっています。

項目	件数
回答総数	4
相手が変わってくれるかもしれないと思ったから	2
相手が別れることに同意しなかったから	1
相手に自分が必要だと思ったから	0
相手の仕返しが怖かったから	0
世間体が悪いと思ったから	0
これ以上は繰り返さないと思ったから	0
周囲の人から、別れることに反対されたから	1
その他	0
無回答	0

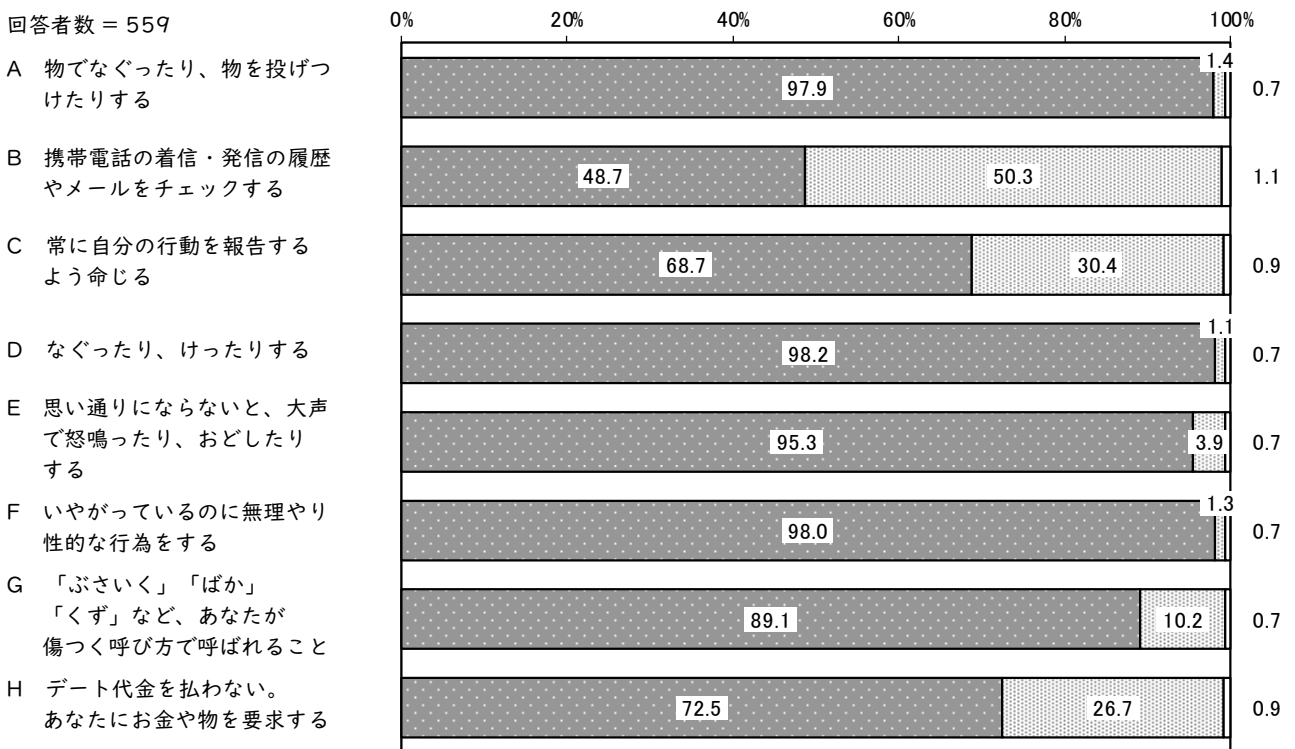
【すべての方におたずねします。】

11 次のような行為が交際相手の間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。それぞれについて、あなたの考えを次の中から1つずつ選んで番号に○をつけてください。

『物でなぐったり、物を投げつけたりする』『なぐったり、けったりする』『思い通りにならないと、大声で怒鳴ったり、おどしたりする』『いやがっているのに無理やり性的な行為をする』で、「暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。また、『携帯電話の着信・発信の履歴やメールをチェックする』で、「暴力にあたるとは思わない」の割合が高くなっています。

■ 暴力にあたると思う ▨ 暴力にあたるとは思わない □ 無回答

回答者数 = 559



【平成 29 年度調査との比較】

- 暴力にあたると思う
- ▨ 暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う
- 暴力にあたるとは思わない
- 無回答

回答者数 = 1,490

物でなぐったり、物を投げつけたりする

携帯電話の着信・発信の履歴やメールをチェックする

常に自分の行動を報告するように命じる

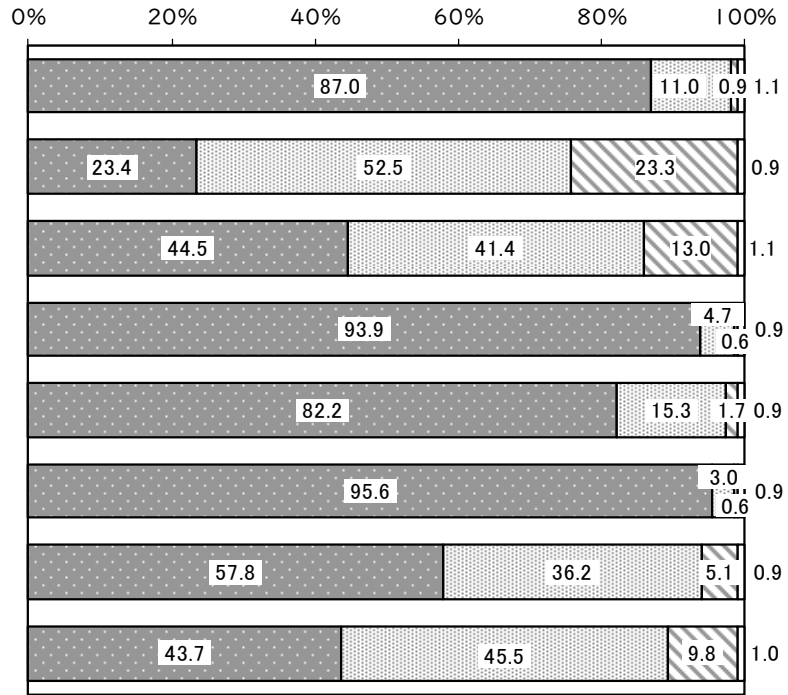
なぐったり、けったりする

思い通りにならないと、大声で怒鳴ったり、おどしたりする

いやがっているのに無理やり性的な行為をする

「ぶさいく」「バカ」「くず」など、あなたが傷つく呼ぶ方で呼ばれること

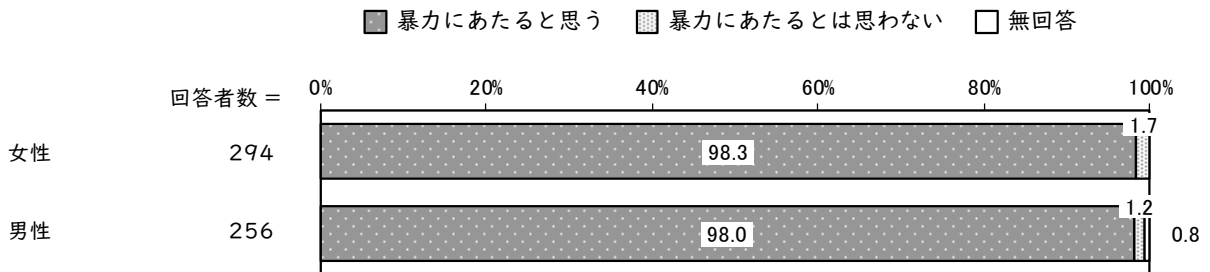
デート代金を払わない、お金や物を要求する



A 物でなぐったり、物を投げつけたりする

【性別】

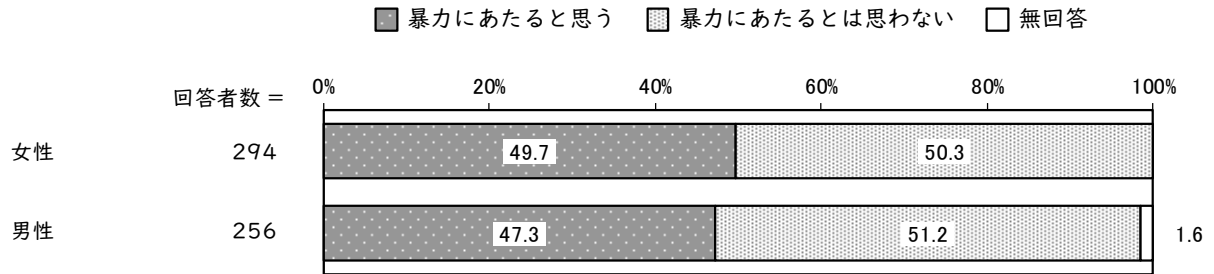
性別でみると、大きな差異はみられません。



B 携帯電話の着信・発信の履歴やメールをチェックする

【性別】

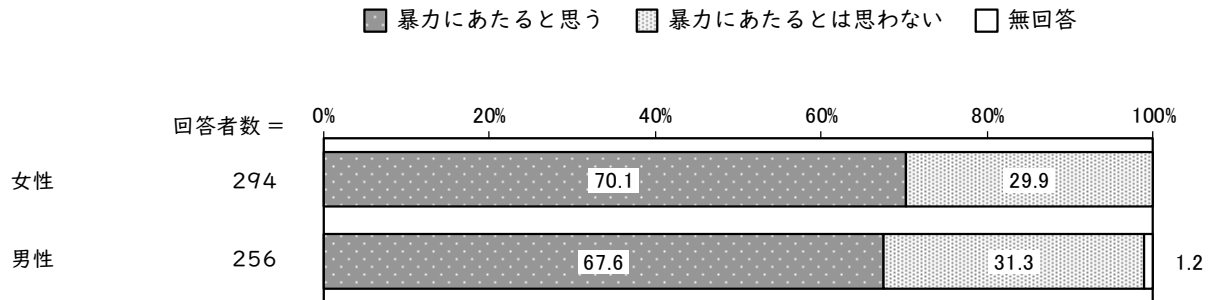
性別でみると、大きな差異はみられません。



C 常に自分の行動を報告するよう命じる

【性別】

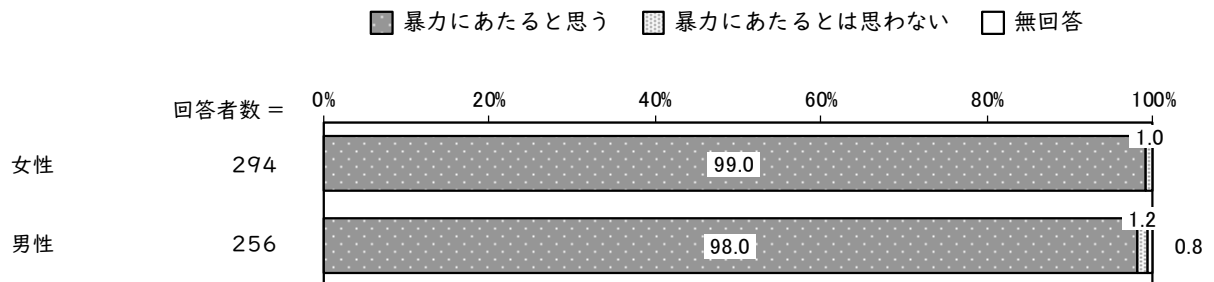
性別でみると、大きな差異はみられません。



D なぐったり、けったりする

【性別】

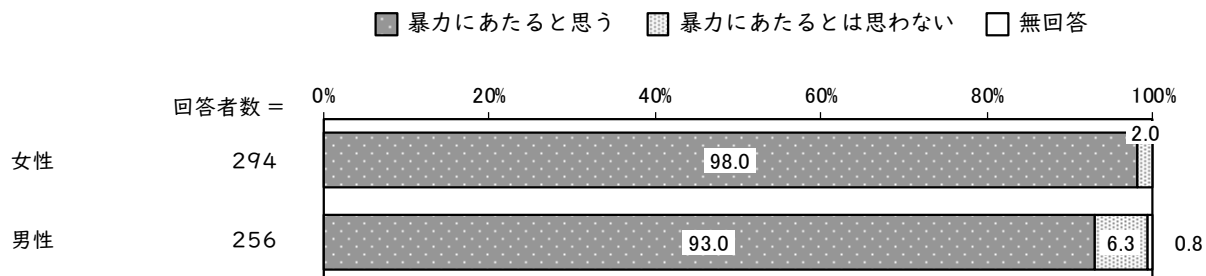
性別でみると、大きな差異はみられません。



E 思い通りにならないと、大声で怒鳴ったり、おどしたりする

【性別】

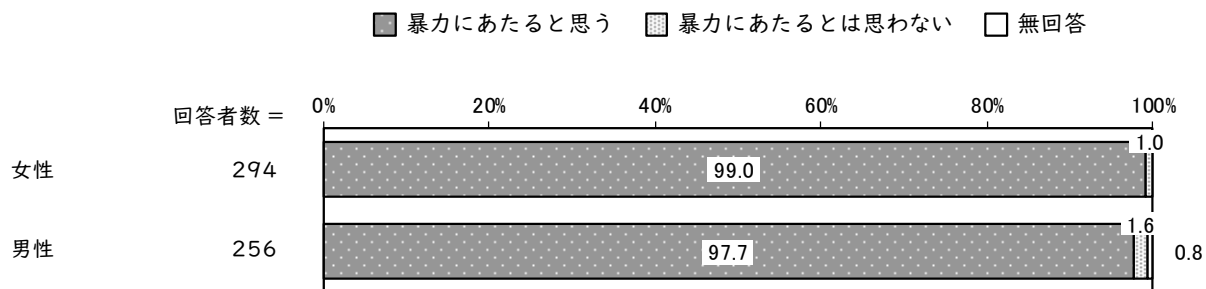
性別でみると、男性に比べ、女性で「暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。



F いやがっているのに無理やり性的な行為をする

【性別】

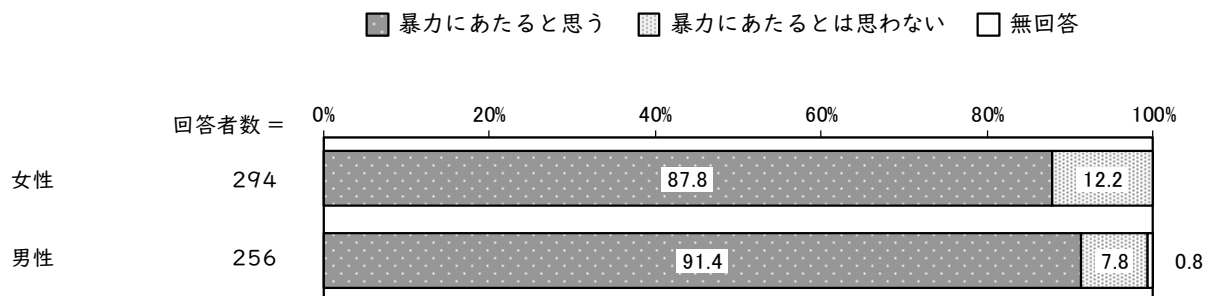
性別でみると、大きな差異はみられません。



G 「ぶさいく」「ばか」「くず」など、あなたが傷つく呼び方で呼ばれること

【性別】

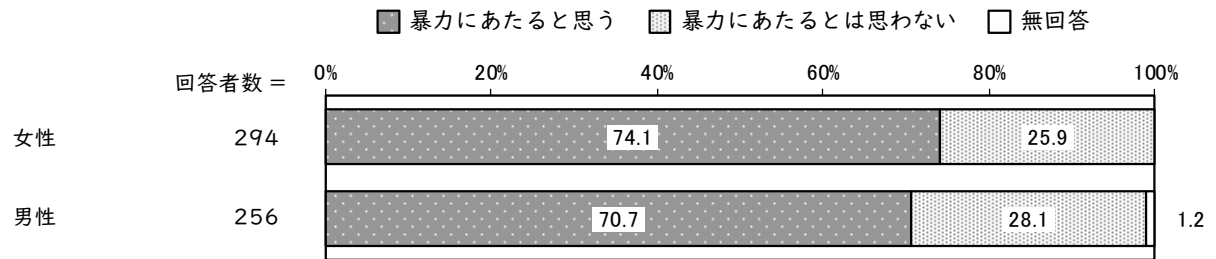
性別でみると、大きな差異はみられません。



H デート代金を払わない。あなたにお金や物を要求する

【性別】

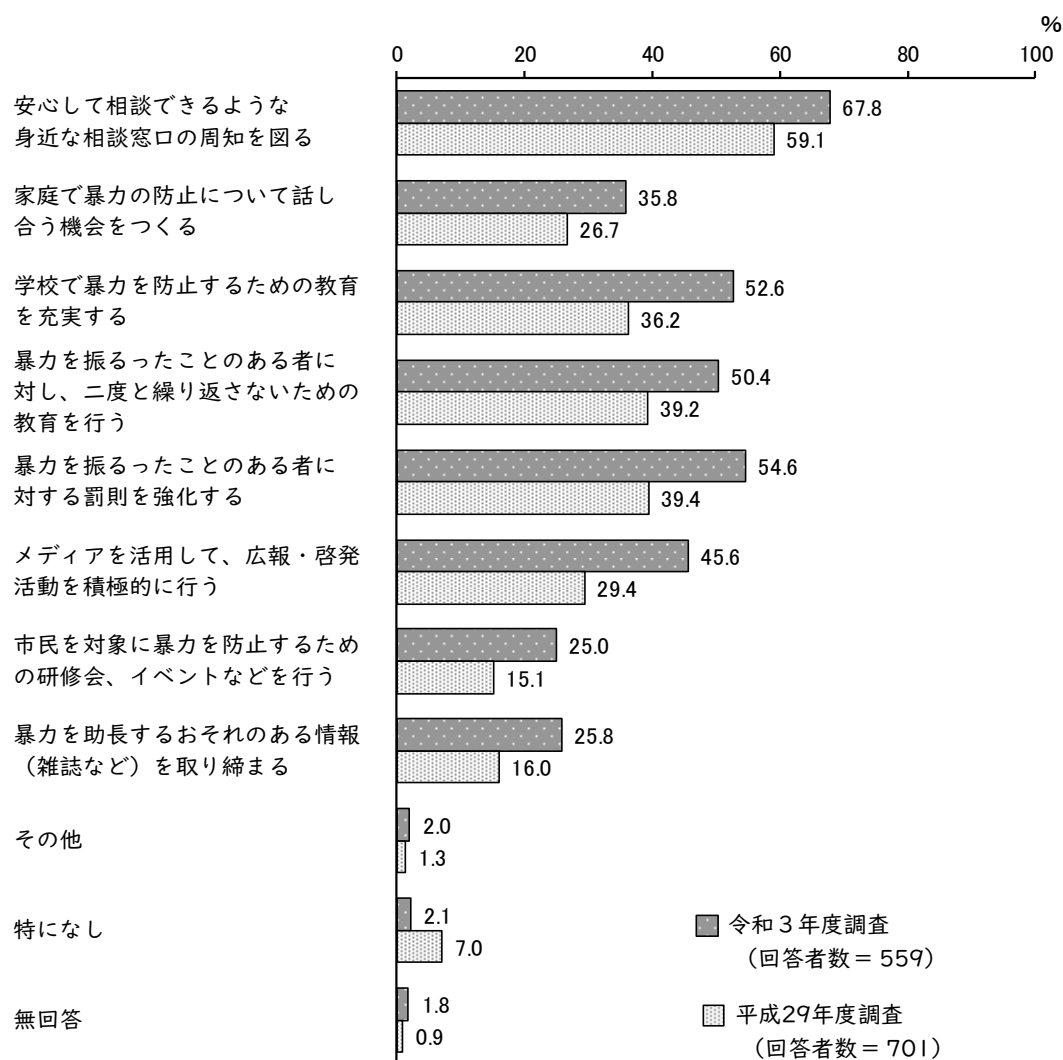
性別で見ると、大きな差異はみられません。



12 交際相手との間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。あなたの考えにあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「安心して相談できるような身近な相談窓口の周知を図る」の割合が67.8%と最も高く、次いで「暴力を振るったことのある者に対する罰則を強化する」の割合が54.6%、「学校で暴力を防止するための教育を充実する」の割合が52.6%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「安心して相談できるような身近な相談窓口の周知を図る」「家庭で暴力の防止について話し合う機会をつくる」「学校で暴力を防止するための教育を充実する」「暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」「暴力を振るったことのある者に対する罰則を強化する」「メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う」「市民を対象に暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う」「暴力を助長するおそれのある情報（雑誌など）を取り締まる」の割合が増加しています。



【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「安心して相談できるような身近な相談窓口の周知を図る」「学校で暴力を防止するための教育を充実する」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	安心して相談できるような身近な相談窓口の周知を図る	家庭で暴力の防止について話し合う機会をつくる	学校で暴力を防止するための教育を充実する	暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	暴力を振るったことのある者に対する罰則を強化する	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	市民を対象に暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	暴力を助長するおそれのある情報(雑誌など)を取り締まる	その他	特になし	無回答
女性	294	73.8	35.4	58.2	50.0	55.1	46.9	24.8	25.5	0.3	2.0	0.3
男性	256	61.7	37.1	46.5	52.0	54.3	43.8	25.8	26.2	3.5	2.0	2.7

(3) 自由回答について

男女共同参画やDV（ドメスティック・バイオレンス。配偶者等からの暴力）に関するご意見やご要望について、寄せられた具体的な内容を分類すると、「その他」が56件で最も多く、次いで「DV防止に向けた教育について」が10件、「相談体制について」が5件、「DV防止に向けた啓発活動について」が5件となっています。

分類回答	件数
1. 相談体制について	5
2. DV防止に向けた啓発活動について	5
3. DV防止に向けた教育について	9
4. 被害者への支援について	4
5. 支援体制づくりについて	1
6. アンケートについて	1
7. その他	56

Ⅲ 調査結果のまとめ

Ⅰ 市民

(1) DVの認知度について

①DVの認知度

「DV」という言葉について、「知っている」の割合が94.2%となっており、平成29年度調査（以下「前回調査」という。）と比べると、選択肢に若干の違いがあるものの、「言葉や内容について知っている」と「言葉は知っているが、内容についてはよく知らない」を合わせた“知っている”の割合が93.1%となっていることから、大きな変化がみられない。

今回調査では、「知っている」と答えた方に、「DV」の内容について理解しているか聞いており、「理解している（他人に説明できる）」の割合が86.8%となっている。これは、人数にすると、1,272人であり、全回答数を母数とすると、81.7%（1,272人／1,557人）となる。この結果は、前回調査の「言葉や内容について知っている（76.9%）」と比較でき、「知っている”の割合は増加していないものの、その内容の理解度が進んでおり、「DV」の認知度が進んできていることがわかる。

②デートDVの認知度

「デートDV（婚姻関係のない恋人などからの暴力）」という言葉について、「知っている」の割合が50.1%となっており、前回調査と比べると、「言葉や内容について知っている」と「言葉は知っているが、内容についてはよく知らない」を合わせた“知っている”の割合が67.0%となっていることから、16.9ポイントの減少となっている。しかし、「言葉や内容について知っている」という観点からみると、前は645人（43.3%）であったのに対し、今回は641人（全回答者数の41.2%）となるため、理解度に関しては横ばいの傾向がみられる。

③法律の認知度

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」という言葉について、「知っている」の割合が43.2%となっており、前回調査と比べると、「法律があることも、その内容も知っている」と「法律があることは知っているが、内容についてはよく知らない」を合わせた“知っている”の割合が65.9%となっていることから、22.7ポイントの減少となっている。

今回の調査では、「知っている」と答えた方に、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」の内容について知っているか聞いており、「知っている」の割合が51.8%となっている。これは、人数にすると、348人であり、全回答数を母数とすると、22.4%（348人／1,557人）となる。この結果は、前回調査の「法律があることも、その内容も知っている（224人／15.1%）」と比較でき、内容を理解している割合が増加しており、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」の認知度が進んできていることがわかる。

(2) DV の内容の認識について

配偶者や交際相手の間で行われた行為のうち、『平手で打つ』『足でける』『身体を傷つける可能性のある物でなく』『刃物などを突きつけて、おどす』『嫌がっているのに性的な行為を強要する』で「暴力にあたると思う」の割合が高く、9割を超えている。一方、『何を言っても長時間無視し続ける』『交友関係や電話を細かく監視する』『他の異性との会話を許さない』で「暴力にあたるとは思わない」の割合が約2割となっている。

今回調査では、「暴力にあたると思う」「暴力にあたるとは思わない」の二択に対し、前回調査では、「暴力にあたると思う」「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」「暴力にあたるとは思わない」の三択であったため、定義に違いがあるものの、「何を言っても長時間無視し続ける」「交友関係や電話を細かく監視する」「『誰のおかげで生活できるんだ』とか、『かいしょうなし』などと言う」「家計に必要な生活費を渡さない」については、「暴力にあたるとは思わない」の割合が前回と比較して高くなっている。これは、「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」という意識が影響していることがうかがわれるが、DV の潜在的な被害者となりうる可能性がうかがわれる。

(3) DV の経験について

①DV の経験について

『なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けたこと』『人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは身の危険を感じる脅迫を受けたこと』で「何度もあった」「1、2度あった」をあわせた“あった”の割合が1割を超えている。前回調査と比べて大きな変化はないが、性別で見ると男性に比べ、女性で5ポイント以上、“あった”の割合が高く、さらに、40歳代、50歳代で最も高く、男女間の経済力の差、「男は仕事、女は家庭」といった固定的な性別役割分担意識などの考えの差が生じやすい壮年期において実際に起きていることがうかがわれる。

②新型コロナウイルス感染症の影響について

①のDVが“あった”と回答した人で、その原因の一つとして、新型コロナウイルス感染症の拡大によるリモートワーク、失業などの影響の有無について、「思わない」の割合が73.9%と大半を占めている。また、性別で見ると、女性に比べ、男性で「思う」の割合が高くなっており、男性の方が、DVにつながる原因の一つとして、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響があったと感じていることがうかがわれる。

③DV を経験した時の相談について

①のDVを受けた時、「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が53.7%と最も高く、次いで「友人・知人に相談した」の割合が25.2%、「家族や親せきに相談した」の割合が24.3%となっている。国調査と比較すると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が高く、性別で見ると、女性に比べ、男性で「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が高くなっている。また、その理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が

54.7%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」の割合が30.9%となっており、特に、男性でその傾向が強い。第三者にDVの相談をする事への抵抗が大きい事、「たいしたことではない」と思う傾向がうかがわれる。

④相手からそのような行為を最初に受けたときの対応について

相手からそのような行為を最初に受けたとき、「別れたい（別れよう）」と思ったが、別れなかった」の割合が40.7%と最も高く、特に、女性でその傾向が強い。

また、性・年齢別でみると、他に比べ、女性の30歳代、男性の30歳代で「相手と別れた」の割合が高く、女性の50歳代で「別れたい（別れよう）」と思ったが、別れなかった」の割合が高く、相手と別れなかった最も大きな理由として、「子どもがいるから、子どものことを考えたから」の割合が70.1%、次いで「経済的な不安があったから」の割合が42.3%となっており、特に、女性でその傾向が強く、子育て期における女性の社会的地位、経済状況が影響していることが考えられる。

⑤DVによる子どもへの影響について

子どもが18歳になるまでの間に、配偶者からのDVを受けたことがあるかについて、「まったくない」の割合が45.8%と最も高いものの、「心理的虐待」の割合が10.0%、「身体的虐待」が9.6%となっている。

さらに、子どもは、あなたが暴力を受けていたことを知っているかについて、「知っていたかどうか分からない」の割合が35.5%と最も高いものの、「暴力を受けていたところを見ていたので知っていた（12.7%）」、「暴力を受けたところを見ていなかったが、物音や声、様子から知っていた（7.2%）」を合わせた“知っていた”の割合が19.9%であった。面前DVは、子どもへの心理的虐待にあたる事から、子どもへの影響も考慮していく必要がある。

(4) DVを防止するために必要なことについて

配偶者や交際相手との間における暴力を防止するためには、「安心して相談できるような身近な相談窓口を増やす」の割合が74.9%と最も高く、次いで「学校や大学において、児童・生徒・学生に暴力を防止するための教育を行う」の割合が55.9%、「加害者への罰則を強化する」の割合が52.7%となっている。特に、年齢が低くなるにつれ「加害者への罰則を強化する」の割合が高くなる傾向がある。

また、「どのような相談先があると、相談することが出来るか？」では、「匿名で相談できる場所」が挙がっており、相談窓口の周知と共に、相談手段の拡充を検討していく必要がある。

2 高校生

(1) DVの認知度について

①DVの認知度

「DV」という言葉について、「知っている」の割合が95.9%となっており、前回調査と比べると、「言葉や内容について知っている」と「言葉は知っているが、内容についてはよく知らない」を合わせた“知っている”の割合が99.2%となっていることから、大きな変化がみられない。

今回調査では、「知っている」と答えた方に、「DV」の内容について理解しているか聞いており、「理解している（他人に説明できる）」の割合が79.1%となっている。これは、人数にすると、424人であり、全回答数を母数とすると、75.8%（424人/559人）となる。この結果は、前回調査の「言葉や内容について知っている（77.7%）」と比較が可能となるが、内容の理解度をみても大きな変化がみられない。

②デートDVの認知度

「デートDV」という言葉について、「知っている」の割合が68.5%となっており、前回調査と比べると、「言葉や内容について知っている」と「言葉は知っているが、内容についてはよく知らない」を合わせた“知っている”の割合が90.9%となっていることから、22.4ポイントの減少となっている。

また、「デートDV」をどこで知ったかについて、「学校の授業で学習して知っていた」の割合が59.0%と最も高く、次いで「新聞や本、テレビ、インターネットなどで知っていた」の割合が23.8%となっており、前回調査と比較すると、「新聞や本、テレビ、インターネットなどで知っていた」の割合が増加し、「学校の授業で学習して知っていた」の割合が減少した。

デートDVを知る機会として、加東市では中学校での授業を取り入れており、今後も継続して取り組み、認知度を上げていくことが大切である。

(2) DVの経験について

①DVの経験について

交際相手からDVを受けたことがあるかについて、全ての項目で「ない（なかった）」の割合が9割を超えており、前回調査と比較しても、大きな変化はみられない。

しかし、DVが“あった”と回答した人で、その後の対応として、「別れたい（別れよう）とは思わなかった」の割合が48.0%と最も高くなっており、前回調査と比較して割合が増加している。「相手が変わってくれるかもしれない」という期待もあることが別れない要因として考えられる。

②DVの内容の認識について

交際相手の間で行われた行為を暴力だと思うかについて、『物でなぐったり、物を投げつけたりする』『なぐったり、けったりする』『思い通りにならないと、大声で怒鳴ったり、おど

したりする』『いやがっているのに無理やり性的な行為をする』で、「暴力にあたると思う」の割合が高くなっている。

一方で、『携帯電話の着信・発信の履歴やメールをチェックする』で、「暴力にあたるとは思わない」の割合が高くなっている。

また、『思い通りにならないと、大声で怒鳴ったり、おどしたりする』を、性別で見ると、男性に比べ、女性で「暴力にあたると思う」の割合が高くなっているが、それ以外の項目では、性別による傾向はみられない。

目に見える内容については「暴力」として捉えられるが、精神的な内容、目に見えない内容については「暴力」として捉えにくいことが分かる。

(3) DVを防止するために必要なことについて

交際相手との間における暴力を防止するためには、「安心して相談できるような身近な相談窓口の周知を図る」の割合が67.8%と最も高く、次いで「暴力を振るったことのある者に対する罰則を強化する」の割合が54.6%、「学校で暴力を防止するための教育を充実する」の割合が52.6%となっている。

前回調査と比較すると、「安心して相談できるような身近な相談窓口の周知を図る」「家庭で暴力の防止について話し合う機会をつくる」「学校で暴力を防止するための教育を充実する」「暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」「暴力を振るったことのある者に対する罰則を強化する」「メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う」「市民を対象に暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う」「暴力を助長するおそれのある情報（雑誌など）を取り締まる」の割合が増加している。

相談窓口の周知と共に、学校の授業でDVを知る機会を取り入れてもらえるよう働きかけが必要になってくる。